PENTAX

デジタル一眼レフカメラ

K-5 II/K-5 IIs

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタル一眼レフカメラ*K-5 II*／*K-5 IIs*をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

本機で使用できるレンズは、基本的にDA・DA L・D FA・FA Jまたは絞り**A**（オート）位置のあるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、本書のp.56、p.297をご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

K-5 II とK-5 IIsの使い方は、基本的に同じです。本書はK-5 II を中心に説明しています。K-5 IIsをご使用の方は、「K-5 IIsについて」（p.18）を参照してください。
本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。
本書では、SDメモリーカードならびにSDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

 警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 太陽などの強い光に向けての撮影や、レンズキャップを外した状態で直射日光のあたる場所に放置しないでください。カメラの故障や火災の原因になる場合があります。
- カメラから外したレンズを太陽に向けてのぞかないでください。失明や視力障害の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリーまたはACアダプターを取り外した上、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどのおそれがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などのおそれがあります。
- 本機には、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こすおそれがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

⚠ 警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器D-BC90Pで充電式リチウムイオンバッテリーD-LI90P以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

警告

- バッテリーの液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

注意

- 本機では、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「+」と「-」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱、発火、破裂のおそれがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

警告

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受けるおそれがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息するおそれがあります。
  3. バッテリーや SD メモリーカードなどの小さな付属品を飲み込むおそれがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証はご容赦ください。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、電池寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。
- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器D-BC90P専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。
- カメラの使用温度範囲は-10～40°Cです。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズ、ファインダー窓のほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させるおそれがありますので、使用しないでください。
- CMOS センサーの清掃につきましては、できるだけ弊社修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。(有料)
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

保管について

- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用・保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用・保管は避けてください。

その他

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。
- カメラを使用した直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合があります。

- SDメモリーカードへのアクセス中は、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データやカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中は絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  1. 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  2. SDメモリーカードを静電気や電気ノイズがある場所に置いたとき
  3. 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  4. SD メモリーカードのアクセス中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき

- 長期間使用しない場合は、保存したデータを読むことができなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- SDメモリーカードをご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- 未使用品や他のカメラや機器で使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはSDメモリーカード本体を物理的に破壊し、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
- SDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属のCD-ROMと当社ホームページから登録が可能です。p.286を参照してください。

目次

使ってみよう 65

いろいろな撮影 77

ストロボの活用 161

撮影のための設定 177

その他の設定を変更する 243

パソコンと接続する 277

付録 287

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

カメラの特長や付属品、各部の名称や機能について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に操作を行ってください。

3 使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法を説明しています。

4 いろいろな撮影

撮影に関するさまざまな機能を説明しています。

5 ストロボの活用

内蔵ストロボや外付けストロボの使用方法を説明しています。

6 撮影のための設定

画像処理、保存形式の設定方法などを説明しています。

7 いろいろな再生

さまざまな再生のしかた、消去、プロテクトなどを説明しています。

8 画像を加工する

画像のサイズ変更やフィルター加工、RAW画像の現像方法を説明しています。

9 その他の設定を変更する

画面表示やファイル命名規則など、カメラの設定変更のしかたを説明しています。

10パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

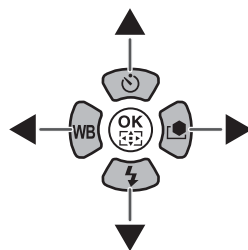
11付録

困ったときの対処のしかたや各種資料を掲載しています。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11

本書で使用している表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

本書では、十字キーを次のように表記します。

1 お使いになる前に

お使いになる前に、同梱品とカメラ各部の名称や機能を確認してください。

K-5 II の特長

- 23.7×15.7mm、有効画素数約1628万画素のCMOSセンサーを採用し、高精細、高ダイナミックレンジの撮影ができます。
- イメージセンサーシフト方式の手ぶれ補正機構SR（Shake Reduction）を搭載。レンズの種類を問わずに手ぶれを防いで美しく撮影できます。
- 11点測距AFセンサー（中央部9点はワイドクロスエリアAF）を搭載しています。
- 倍率約0.92倍で視野率約100％の従来の35ミリ判カメラと違和感のないファインダーで、マニュアルによるピント合わせが簡単にできます。また、ファインダーには測距点が赤く光るスーパーインポーズ機能を搭載しています。
- 画像モニターには、3.0型の大型液晶を採用。約92.1万ドットの高精細・広視野角タイプ、明るさ・色調整機能付きで見やすさを向上させています。
- 画像モニターでリアルタイムに被写体を確認しながら撮影ができる、ライブビュー機能を搭載しています。
- レンズの特性を生かした動画の撮影ができます。またビデオ出力とHDMI出力に対応しているため、撮影した静止画・動画をテレビや高画質モニターで確認できます。
- ユニバーサルデザインの考え方を随所に導入し、大きな文字とハイコントラストで見やすい大型画像モニター、わかりやすいメニューにより、さらに操作しやすくなりました。
- ボディ外装はマグネシウム合金、各ダイヤルやボタン部・接合部・開閉部などには防滴・防塵処理が施されています。
- CMOS センサーは、ダストリムーバル機能で付着したほこりを落とすことができます。
- 意図する露出にフレキシブルに対応する、ハイパープログラム・ハイパーマニュアルを採用。デジタルカメラならではの露出コントロールの手段として、任意に設定したISO感度に応じて絞り値・シャッター速度が自動調整される感度優先自動露出モード**Sv**や、設定した絞り値・シャッター速度に合わせてISO感度が自動で変更される、シャッター＆絞り優先自動露出モード**TAv**が搭載されています。
- カメラ内でフィルター処理ができるデジタルフィルターを搭載。撮影時に、カラーやソフトなどのフィルターを使用して撮影したり、撮影後にフィルターで加工できます。
- 画像の仕上がり具合をプレビューしながら調整・設定ができるカスタムイメージを搭載し、より豊かな表現力を備えています。

- 画像の記録形式は汎用性の高いJPEG形式と、高品質で撮影後の画質調整が自在なRAW形式が選べるほか、JPEG+RAWの同時記録が可能。また、JPEG形式で撮影したときも、カメラ内の撮影バッファに画像が残っている場合は、RAW形式の追加保存ができます。RAW画像は、カメラ内部で簡易的な現像ができます。
- 設定値が記憶できる **USER** モードは 5 パターンまで登録が可能。また、**RAW/Fx** ボタンと電子ダイヤルの機能は好みに合わせてカスタマイズできるので、使う方に合わせたスピーディな操作が可能です。
- 縦位置レリーズボタンを備えたバッテリーグリップD-BG4（別売）が装着可能。また本体側、グリップ側の両方にバッテリーを装填すれば、容量の多い方を優先的に使うので、電源を効率よく使用できます。メニュー操作で、どちらか片方を優先使用するように設定し、なくなり次第容量の残っている方に切り替わるように設定することも可能です。

手ぶれ補正機構SRについて

本機の手ぶれ補正機構SR（Shake Reduction）は、ペンタックス独自の方式でイメージセンサーを磁力により高速で移動させ、ぶれを補正する機構になっています。
構図の変更などでカメラを振ると音がしますが、故障ではありませんのでご安心ください。

35ミリ判一眼レフカメラと本機では、35ミリ判フィルムとCMOSセンサーのフォーマットサイズが異なるために、同じレンズを使用しても写る範囲（画角）は同じにはなりません。

35ミリ判フィルムとCMOSセンサーの大きさ
　35ミリ判フィルム　　：36×24mm
　本機のCMOSセンサー　：23.7×15.7mm

本機と35ミリ判カメラでほぼ同じ範囲（画角）を撮影するには、35ミリ判カメラのレンズの焦点距離を約1.5で割った焦点距離のレンズを使用してください。

例）35ミリ判カメラで150mmのレンズを使う場合と同じ画角にするには、
　150÷1.5＝100
　本機では、100mmのレンズを使用すればいいことになります。

逆に、本機で使用しているレンズの焦点距離を35ミリ判カメラの焦点距離に換算するには、約1.5倍してください。

例）本機に300mmレンズを使用した場合、
　300×1.5＝450
　35ミリ判カメラで450mmレンズ相当を使用したのと同じになります。

K-5 IIsについて

K-5 IIsはK-5 IIに比べて解像感の表現に優れており、より高精細な描写ができます。
高解像感をお楽しみいただくために、以下の点に留意してください。

解像感と絞りの関係
解像感を重視した撮影では、回折の影響を考慮し、絞り値は開放～F8程度を推奨します。偽色やモアレが目立つ場合は、F8以上も試してください。

偽色・モアレ
K-5 IIsはK-5 IIより解像感を表現するのに適している反面、偽色やモアレが目立ちやすくなります。
例えば、カスタムイメージでシャープネスを強くしたときなどに、画像が不自然になる場合があります。解像感と画像処理のバランスを調整しながら撮影してください。
偽色やモアレは、画像をパソコンに転送して等倍(100%)で確認してください。

JPEG画質
JPEG画像の画質を★／★★に設定すると、高精細な画像が表現できずに解像感が落ちてしまいます。なるべく★★★／★★★★に設定してください。

手ぶれ
手ぶれが起きると高精細な描写ができません。必要に応じて三脚を使用するなど、手ぶれに注意して撮影してください。

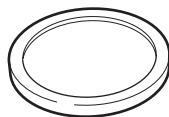
主な同梱品の確認

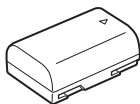
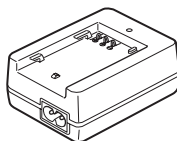
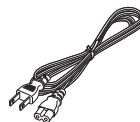
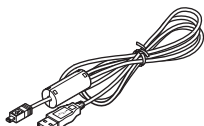
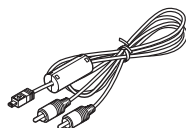
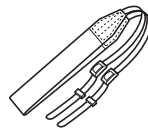
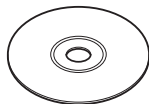
本機には以下の付属品が同梱されています。
お使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

ホットシューカバー FK
（カメラ装着）

アイカップFR
（カメラ装着）

MEファインダーキャップ

シンクロソケット2P
キャップ（カメラ装着）

ボディマウントカバー
（カメラ装着）

三角環・キズ防止カバー
（カメラ装着）

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI90P

バッテリー充電器
D-BC90P

ACコード
D-CO2J

USBケーブル
I-USB7

AVケーブル
I-AVC7

ストラップ
O-ST132

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW132

使用説明書
（本書）

保証書

各部の名称と機能

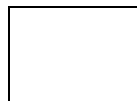
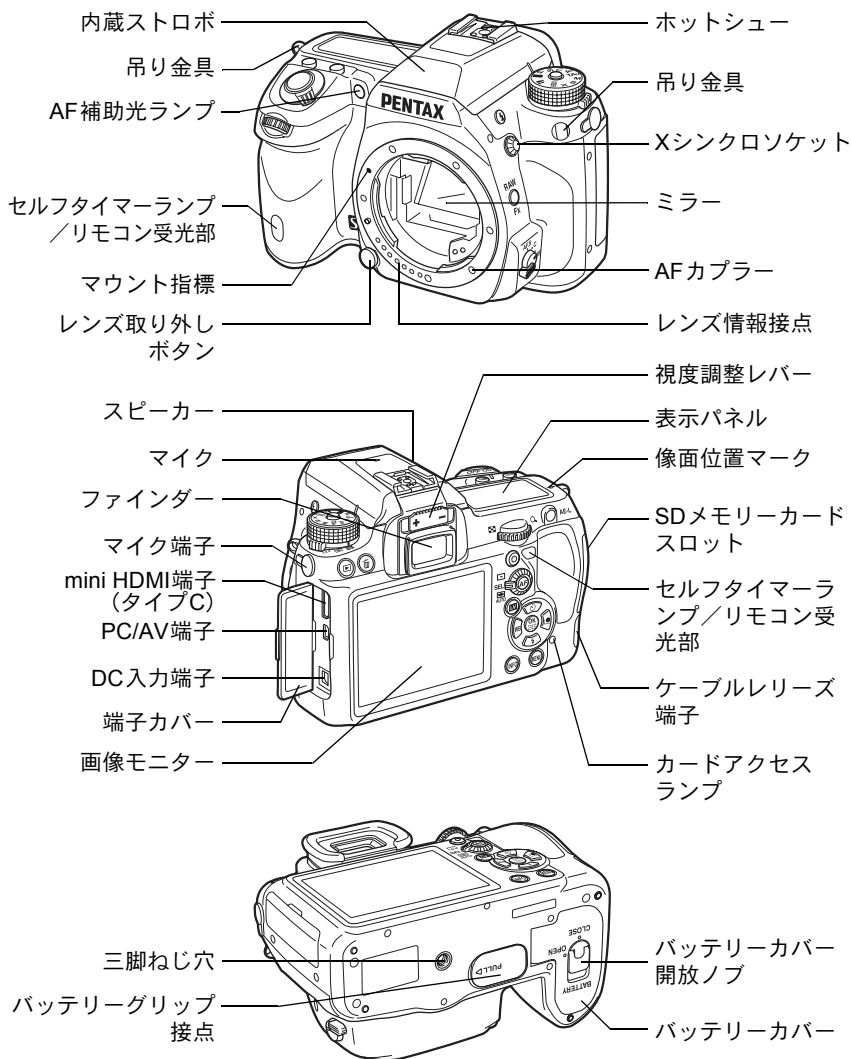
内蔵ストロボ
吊り金具
AF補助光ランプ
セルフタイマーランプ／リモコン受光部
マウント指標
レンズ取り外しボタン

ホットシュー
吊り金具
Xシンクロソケット
ミラー
AFカプラー
レンズ情報接点

スピーカー
マイク
ファインダー
マイク端子
mini HDMI端子（タイプC）
PC/AV端子
DC入力端子
端子カバー
画像モニター

視度調整レバー
表示パネル
像面位置マーク
SDメモリーカードスロット
セルフタイマーランプ／リモコン受光部
ケーブルレリーズ端子
カードアクセスランプ

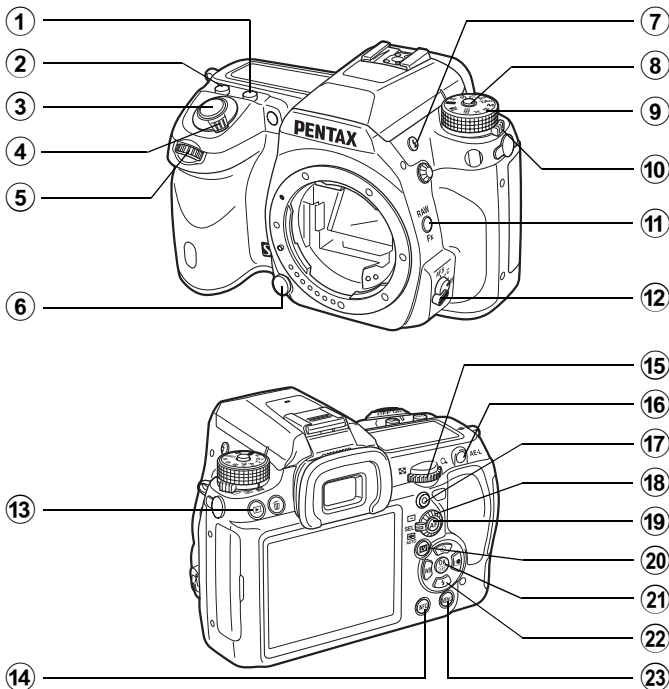
三脚ねじ穴
バッテリーグリップ接点

バッテリーカバー開放ノブ
バッテリーカバー

※ 正面の図はホットシューカバー FKを外した状態のイラストです。
※ 背面の図はホットシューカバー FKとアイカップFRを外した状態のイラストです。

端子カバーが正しく閉まっていないと、防塵・防滴効果が損なわれますのでご注意ください。

撮影時

撮影時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

ここでは工場出荷時の状態の機能を説明します。ボタンによっては、機能を変更できます。

① **☒（露出補正）ボタン**
このボタンを押しながら後電子ダイヤル（　）を回して、露出補正値を設定します。(p.105)

② **ISO ボタン**
このボタンを押しながら後電子ダイヤル（　）を回して、ISO感度を設定します。(p.83)

③ **シャッターボタン**
画像を撮影します。(p.67)

④ **電源レバー**
電源のON／OFF（p.59）とプレビュー（p.118）をします。

⑤ **前電子ダイヤル（　）**
設定値の変更などを行います。
メニュー画面が表示されているときは、メニューの種類を切り替えます。(p.43)

⑥ **レンズ取り外しボタン**
レンズを取り外すときに押します。（p.57）

⑦ **（ストロボポップアップ）ボタン**
内蔵ストロボをポップアップします。（p.72）

⑧ **モードダイヤルロックボタン**
モードダイヤルを回すときに押します。（p.45）

⑨ **モードダイヤル**
露出モードを切り替えます。（p.45）

⑩ **測光モード切替レバー**
測光方式を切り替えます。（p.103）

⑪ **RAW/Fxボタン**
機能を割り当てて使用します。（p.249）

⑫ **フォーカスモードレバー**
オートフォーカス（**AF.S** ／ **AF.C**）（p.108）とマニュアルフォーカス（p.116）を切り替えます。

⑬ **（再生）ボタン**
再生モードに切り替えます。（p.73）

⑭ **INFOボタン**
画像モニターの表示を切り替えます。（p.26）

⑮ **後電子ダイヤル（）**
設定値の変更などを行います。
メニュー画面が表示されているときは、メニューを切り替えます。（p.43）

⑯ **AE-Lボタン**
撮影前の露出を記録したり(p.107)、プレビュー画像を保存します。

⑰ **⦿（グリーン）ボタン**
露出を自動露出にしたり、設定値をリセットします。

⑱ **測距点切替ダイヤル**
ピントを合わせる位置を設定します。（p.113）

⑲ **AFボタン**
ピントを合わせたり、一時的にマニュアルフォーカスにします。（p.110）

⑳ **LV（ライブビュー）ボタン**
ライブビューを表示します。（p.149）

㉑ **OKボタン**
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときに、選択した項目を決定します。
測距点が**SEL**（セレクト）に設定されているときは、測距点移動の有効／無効が切り替わります。（p.114）

㉒ **十字キー（▲▼◀▶）**

ドライブモード／ストロボモード／ホワイトバランス／カスタムイメージの設定画面を呼び出します。（p.78）

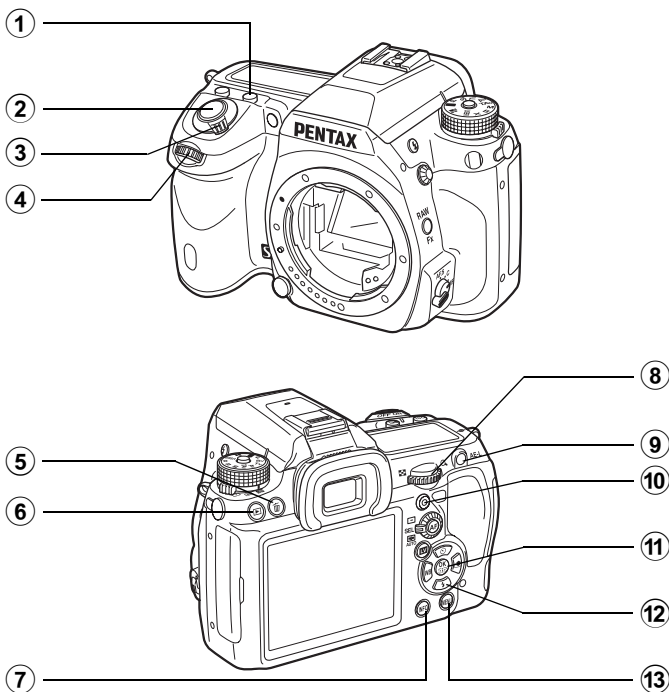
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、カーソルの位置や項目を変更します。

測距点が**SEL**（セレクト）に設定されているときは、測距点を移動します。（p.114）

㉓ **MENUボタン**

「◘ 撮影1」メニュー（p.79）を表示します。メニューが表示されているときに押すと、1つ前の画面に戻ります。

再生時

再生時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

① **（露出補正）ボタン**
拡大表示時に表示倍率を上げます。（p.211）

② **シャッターボタン**
半押しすると撮影モードに切り替わります。

③ **電源レバー**
電源のON／OFFをします。（p.59）

④ **前電子ダイヤル（）**
前後の画像を表示します。

⑤ **（消去）ボタン**
画像を消去します。（p.74）

⑥ **（再生）ボタン**
撮影モードに切り替えます。

⑦ **INFOボタン**
画像モニターの表示を切り替えます。（p.30）

⑧ **後電子ダイヤル（）**
拡大表示時の表示倍率を変更したり（p.211）、マルチ画面表示(p.212)などを行います。

⑨ **AE-Lボタン**
JPEG形式で撮影した直前の画像が撮影バッファに残っている場合に、RAW形式の画像を追加保存します。（p.74）

⑩ **⦿（グリーン）ボタン**
拡大表示時に表示倍率を下げます。（p.211）

⑪ **OKボタン**
メニュー画面や再生画面で選択した設定を決定します。

⑫ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面や再生画面でカーソルの位置や項目を変更します。
十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットを表示します。（p.208）

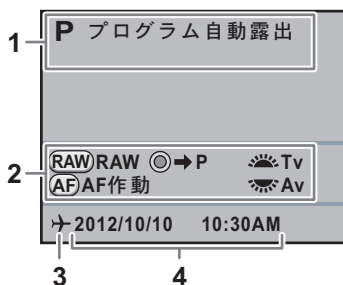
⑬ **MENUボタン**
「再生1」メニュー（p.209）を表示します。

画像モニター

画像モニターには、カメラの状態によってさまざまな情報が表示されます。

画像モニターの明るさと色味を調整できます。（p.260、p.261）

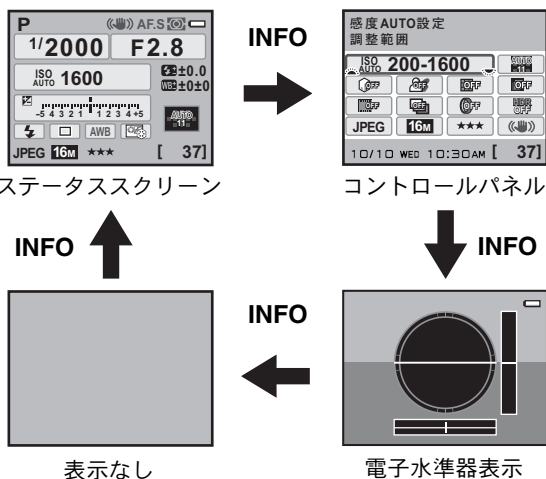
電源ON時／モードダイヤル操作時

電源を入れたとき、またはモードダイヤルを回したときに、画像モニターに3秒間（初期設定）ガイドが表示されます。

1	露出モード（p.88）	**3**	ワールドタイム（p.253）
2	操作ガイド	**4**	現在の日時（p.62）

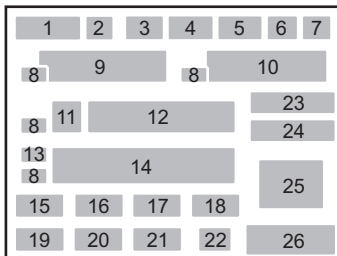
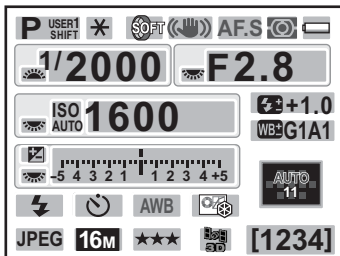
※3はワールドタイムを「目的地」に設定しているときだけ表示されます。

- 「🔧 詳細設定 1」メニューの「ガイド表示」を「オフ」にすると、ガイドは表示されません。（p.257）
- モードダイヤルを USER に合わせたときは、「ガイド表示」の設定にかかわらず USER 1～USER 5を選択する画面が30秒間表示されます。（p.205）

撮影時

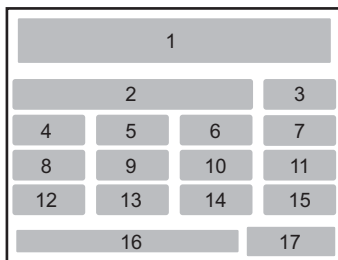
撮影時にはステータススクリーンが表示され、撮影機能の設定内容が表示されます。**INFO**ボタンを押すと、表示が切り替わります。

電子水準器は初期設定では□（オフ）に設定されています。「撮影4」メニューで設定します。（p.262）

● ステータススクリーン

（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

1 露出モード（p.88）
2 AEロック（p.107）
3 インターバル撮影（p.133）／多重露出（p.136）／拡張ブラケット（p.141）／デジタルフィルター（p.143）／HDR撮影（p.191）
4 Shake Reduction（p.122）／自動水平補正（p.123）
5 フォーカスモード（p.108）
6 測光方式（p.103）
7 バッテリー残量（p.51）
8 電子ダイヤル操作ガイド
9 シャッター速度
10 絞り値
11 ISO／ISO AUTO
12 ISO感度（p.83）
13 露出補正（p.105）／露出ブラケット（p.138）
14 露出バー
15 ストロボモード（p.69）
16 ドライブモード（p.78）
17 ホワイトバランス（p.183）
18 カスタムイメージ（p.197）
19 記録形式（p.180）
20 JPEG記録サイズ（p.178）
21 JPEG画質（p.179）
22 GPS測位状態
23 ストロボ光量補正（p.71）
24 ホワイトバランス微調整（p.184）／クロスプロセス（p.200）
25 測距点（p.113）
26 撮影可能枚数／⦿ボタン操作ガイド

※ 22は別売のGPSユニットを装着し、GPSユニットが動作している場合のみ表示されます。（p.305）

● コントロールパネル

ステータススクリーンで**INFO**ボタンを押すと表示され、設定が変更できます。（p.41）

感度AUTO設定
調整範囲
ISO AUTO 200-1600
JPEG 16M ★★★
10/10 WED 10:30AM [37]

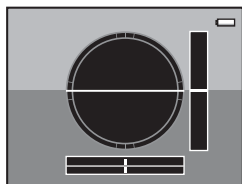
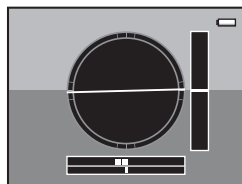
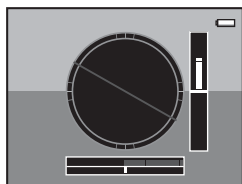
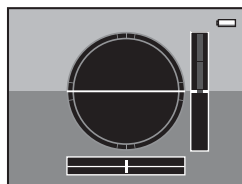
1			
2			3
4	5	6	7
8	9	10	11
12	13	14	15
16			17

1 機能名
2 感度AUTO設定（p.84）
3 測距点AUTO設定（p.113）
4 ハイライト補正（p.190）
5 シャドー補正（p.190）
6 ディストーション補正（p.193）
7 倍率色収差補正（p.193）
8 クロスプロセス（p.200）
9 拡張ブラケット（p.141）
10 デジタルフィルター（p.143）
11 HDR撮影（p.191）
12 記録形式（p.180）
13 JPEG記録サイズ（p.178）
14 JPEG画質（p.179）
15 Shake Reduction（p.122）
16 現在の日時
17 撮影可能枚数

- カメラの設定状況により変更できない項目は、選択できません。
- 「🔧詳細設定1」メニューの「ステータススクリーン」（p.258）を□（オフ）に設定すると、ステータススクリーンは表示されません。
- ステータススクリーンでは、設定変更中または操作できるボタンのガイド表示が青（「🔧詳細設定1」の「ステータススクリーン」（p.258）の設定が「配色1」の場合）で表示されます。
- ステータススクリーンは何も操作しないと、30秒で消灯します。**INFO**ボタンを押すと、再度表示されます。
- コントロールパネルは何も操作しないと、30秒でステータススクリーンに戻ります。
- ステータススクリーン／コントロールパネルの撮影可能枚数の最大表示は「9999」です。撮影可能枚数が10000枚以上の場合も「9999」と表示されます。

電子水準器表示

本機には、カメラの傾きを検知する電子水準器が搭載されています。電子水準器の表示を☑（オン）に設定した場合、コントロールパネル表示中に**INFO**ボタンを押すと、カメラの傾きが確認できます。また、**RAW**/**Fx**ボタンに「電子水準器」を割り当てている場合は、**RAW**/**Fx**ボタンで表示のオン／オフができます。
下側に左右方向、右側に上下方向の傾きが表示されます。

表示例

左右・上下傾きなし（緑）

左1.5°（黄）
上下傾きなし（緑）

左右指標表示外（赤）
上5°（黄）

左右傾きなし（緑）
上下指標表示外（赤）

- 電子水準器は初期設定では□（オフ）に設定されています。「📷 撮影4」メニューで設定します。（p.262）
- **RAW**/**Fx**ボタンの機能の割り当てについては、p.249を参照してください。
- 電子水準器は何も操作しないと、1分で消灯します。
- 傾きが検出できないときは、バーグラフの両端・中央が赤で点滅します。

カメラを縦に構えたとき

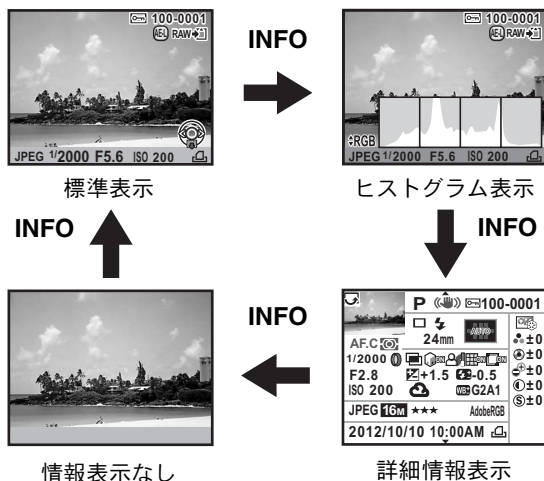
測光タイマー作動中にカメラを縦位置に構えると、ステータススクリーン／コントロールパネルの表示も縦になります。また、カメラの向きに合わせて十字キー（▲▼◀▶）の移動方向も変わります。
常に横で表示する場合は、「🔧詳細設定1」の「ステータススクリーン」で変更します。（p.258）

感度AUTO設定
調整範囲
ISO AUTO 200-1600
JPEG 16M ★★★
10/10 WED 10:30AM [1234]

再生時

画像再生時に**INFO**ボタンを押すと、表示情報が切り替わります。

標準表示	撮影画像と記録形式、操作ガイドを表示します。
ヒストグラム表示	画像とヒストグラム（輝度／RGB）を表示します。動画のときは、表示されません。（p.33）
詳細情報表示	撮影時の詳細情報を表示します。（p.31）
情報表示なし	撮影画像のみを表示します。

標準表示
ヒストグラム表示
情報表示なし
詳細情報表示

再生時に最初に表示される情報は、前回最後に表示した画面です。「撮影5」メニューの「モードメモリ」で「再生情報表示」を□（オフ）に設定すると、電源を入れるたびに標準表示から表示されます。（p.274）

● 詳細情報表示

十字キー（▲▼）でページを切り替えます。

（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

1ページ目

静止画

動画

2ページ目

静止画／動画

100-0001

ABCDEFGHIJKLMNOP

QRSTUVWXYZ

ABCDEFGHIJKLMNOP

QRSTUVWXYZ

N 36°45.410'　0m

W140°02.000'　123°

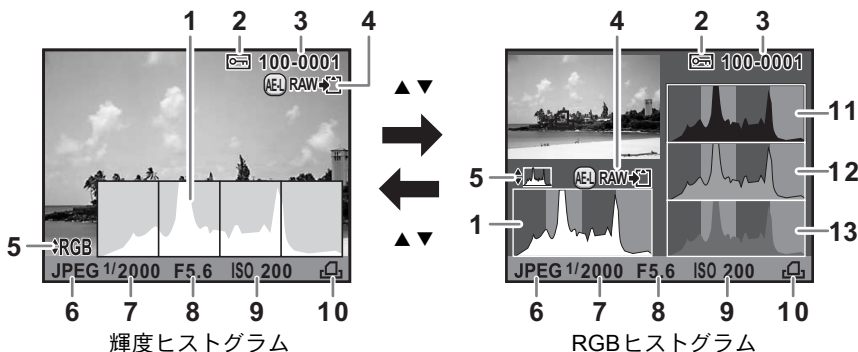
2012/10/10　10:00:00

1 回転情報（p.219）
2 撮影画像
3 露出モード（p.88）
4 Shake Reduction（p.122）／自動水平補正（p.123）
5 プロテクト（p.222）
6 フォルダー No.-ファイルNo.（p.263）
7 ドライブモード（p.78）
8 ストロボモード（p.69）
9 レンズ焦点距離
10 測距点（p.113）／AF方式（p.147）
11 フォーカスモード（p.108）
12 測光方式（p.103）
13 シャッター速度
14 デジタルフィルター（p.143）
15 多重露出(p.136)／拡張ブラケット（p.141）／HDR撮影（p.191）／クロスプロセス（p.200）
16 ハイライト補正（p.190）
17 シャドー補正（p.190）
18 ディストーション補正（p.193）
19 倍率色収差補正（p.193）
20 絞り値
21 露出補正（p.105）
22 ストロボ光量補正（p.71）
23 ISO感度（p.83）
24 ホワイトバランス（p.183）
25 ホワイトバランス微調整（p.184）
26 記録形式（p.180）
27 記録サイズ（p.152、p.178）
28 画質（p.152、p.179）
29 色空間（p.189）
30 画像仕上（p.197）
31 カスタムイメージパラメーター（p.198）
32 撮影日時
33 DPOF設定（p.271）
34 記録時間
35 音声（p.153）
36 サウンド設定
37 ドライブモード（リモコン）
38 クロスプロセス（p.200）
39 情報改ざん警告
40 撮影者名（p.269）
41 著作権者名（p.269）
42 緯度
43 高度
44 経度
45 方位
46 協定世界時

※ 42～46はGPS情報が記録されている場合のみ表示されます。

● ヒストグラム表示

静止画の再生時に、画像の明るさの分布を表した「輝度ヒストグラム」と、色の強度の分布を表した「RGBヒストグラム」の2種類のヒストグラムが表示できます。輝度ヒストグラム／RGBヒストグラムの表示は十字キー（▲▼）で切り替えます。

輝度ヒストグラム　RGBヒストグラム

1	ヒストグラム（輝度）	**7**	シャッター速度
2	プロテクト	**8**	絞り値
3	フォルダー No.-ファイルNo.	**9**	ISO感度
4	バッファ RAW保存可能	**10**	DPOF設定
5	RGBヒストグラム／輝度ヒストグラム切り替え	**11**	ヒストグラム（R）
		12	ヒストグラム（G）
6	記録形式	**13**	ヒストグラム（B）

※ 2はプロテクトが設定されている画像のみ表示されます。
※ 4は直前に撮影した画像がJPEG 形式で、撮影バッファにその画像が残っている場合のみ表示されます。（p.74）

「▶再生1」メニューの「白とび黒つぶれ警告」（p.210）を☑（オン）にすると、白とび黒つぶれ部分が点滅表示されます。（RGBヒストグラム表示・詳細情報表示のときを除く）

ヒストグラムの見かた

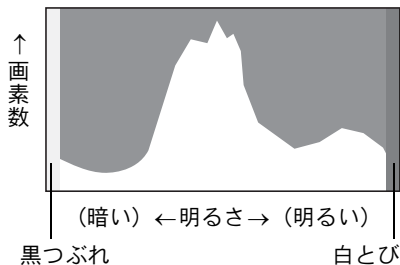
ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさの画素数を積み上げて示します。
撮影の前後にヒストグラムの形状や分布を見ることで、露出レベルと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

☞露出を補正する（p.105）
☞明るさを補正する（p.190）

画像の中で、暗すぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明るすぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
本機には、黒つぶれ部分を黄色く、白とび部分を赤く点滅表示させる機能があります。

☞撮影した画像を再生する（p.73）
☞再生時の表示方法を設定する（p.210）
☞クイックビューの表示を設定する（p.259）

「RGBヒストグラム」では各色の強度分布を表示します。ホワイトバランスがうまく調整されている画像は、各色のグラフ右部分が似た形になります。1色のみ左に偏っている場合などは、色がかぶっているといえます。

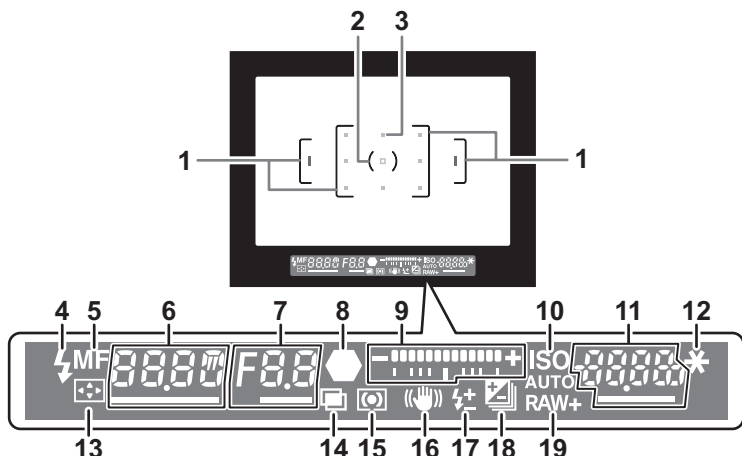
☞ホワイトバランスを調整する（p.183）

操作ガイド

画像モニターには、その状態で操作できるボタン等を示すガイドが表示されます。

（表示例）

▲	十字キー（▲）	OK	OKボタン
▼	十字キー（▼）	⦿	グリーンボタン
◀	十字キー（◀）	AE-L	AE-Lボタン
▶	十字キー（▶）	🗑	🗑ボタン
前電子ダイヤル	前電子ダイヤル	SHUTTER	シャッターボタン
後電子ダイヤル	後電子ダイヤル	RAW Fx	RAW/Fxボタン
MENU	MENUボタン		

ファインダー

ファインダー内には次の情報が表示されます。

1 AFフレーム

2 スポット測光フレーム（p.104）

3 測距点（p.113）

4 ストロボマーク（p.69）

点灯：ストロボ発光可能なとき

点滅：ストロボがお勧めなのに発光する設定になっていないとき、または
ストロボ充電中

5 フォーカスモード（p.116）

フォーカスモードが**MF**の場合に点灯

6 シャッター速度

シャッター速度調整が可能なときはアンダーラインが点灯

ノイズリダクション処理中は、処理時間をカウントダウン表示（p.85）

7 絞り値

絞り調整が可能なときはアンダーラインが点灯

ノイズリダクション処理中は「**nr**」と点滅表示（p.85）

8 合焦マーク（p.67）

点灯：合焦したとき（ピントが合ったとき）

点滅：非合焦のとき（ピントが合わなかったとき）

9 露出バー

露出補正値、または露出モードが**M**／**X**時の適正露出値との差を表示（p.105）

電子水準器が☑（オン）のときは、カメラの傾きを表示（p.39）

10 ISO／ISO AUTO
ISO感度表示中に点灯

11 ISO感度／撮影可能枚数
ISO感度調整が可能なときはアンダーラインが点灯
撮影直後は撮影可能枚数を表示
露出補正中は補正値を表示
露出モードが **M**／**X** で電子水準器が☑（オン）のときは、適正露出との差を表示（p.100）

12 AEロック（p.107）
AEロック中に点灯

13 測距点移動（p.114）
測距点を **SEL**（セレクト）に設定し、測距点移動が有効のときに点灯

14 多重露出（p.136）
多重露出が設定されているときに点灯

15 測光方式（p.103）
測光方式が（中央重点測光）／（スポット測光）のときに点灯

16 手ぶれ補正（p.122）
手ぶれ補正が有効なときに点灯

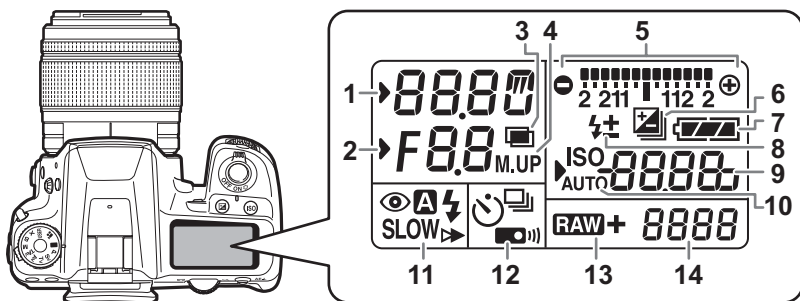
17 ストロボ光量補正（p.71）
ストロボ光量補正時に点灯

18 露出補正（p.105）／露出ブラケット（p.138）
露出補正時、露出ブラケット設定時に点灯

19 記録形式（p.180）
RAW／RAW+のときに画像保存形式を表示
JPEGのときは消灯

- ファインダー内の表示は、シャッターボタン半押し時と、測光作動時間（初期設定：10秒）の間に表示されます。（p.104）
- シャッターボタンを半押しにすると、オートフォーカスに使われた測距点が赤く点灯（スーパーインポーズ）します。（p.113）
- 「撮影5」メニューの「ボタンカスタマイズ」の「AFボタン」が「AFキャンセル」に設定されている場合、**AF** ボタンを押している間、ファインダー内に **MF** が表示されます。（p.110）
- 撮影可能枚数の最大表示は「9999」です。撮影可能枚数が 10000 枚以上の場合も「9999」と表示されます。

表示パネル

カメラ上部の表示パネルには、次の情報が表示されます。

1 シャッター速度／ノイズリダクション処理残り時間（p.85）

2 絞り値
nr：ノイズリダクション中（p.85）

3 多重露出（p.136）

4 ミラーアップ撮影（p.130）

5 露出バー（p.105）／電子水準器（p.39）

6 露出補正（p.105）／露出ブラケット（p.138）

7 バッテリー残量（p.51）

8 ストロボ光量補正（p.71）

9 ISO感度／露出補正値

10 ISO／ISO AUTO
ISO感度表示中に点灯

11 ストロボモード（p.78）
- ：内蔵ストロボ充電完了（点滅はストロボお勧め）
- ：赤目軽減
- ：自動発光
- SLOW：スローシンクロ
- ：後幕シンクロ
- W：ワイヤレス

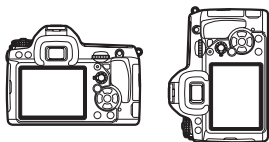
12 ドライブモード（p.78）
- ：1コマ撮影
- ：連続撮影
- ：セルフタイマー撮影
- ：リモコン撮影

13 記録形式（p.180）
- RAW：RAW
- RAW＋：RAW+JPEG

14 撮影可能枚数／USB接続モード（p.279）
- **Pc-S**：MSCモード
- **Pc-P**：PTPモード

測光を行うと、表示パネルのバックライトが点灯します。「**C** カスタム4」メニューの「22. 表示パネルの照明」で明るい／暗い／オフが設定できます。

電子水準器表示

左右方向にカメラが傾いていると、ファインダー内と表示パネルのバーグラフに表示されます。

水平時（傾き0°）

左下がりに5°傾いているとき

縦位置に構えて右下がりに3°傾いているとき

- 電子水準器は初期設定では□（オフ）に設定されています。「撮影4」メニューで設定します。（p.262）
- 三脚などでカメラを固定しているときは、カメラ内で構図が補正できます。（p.195）

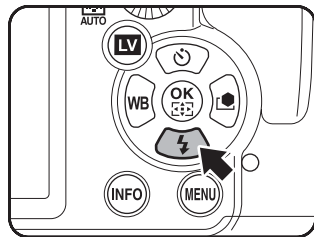
機能の設定方法

機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／メニューのいずれかで設定します。コントロールパネルとメニューの両方で設定できる機能もあります。ここでは、基本的な機能の設定方法を説明します。

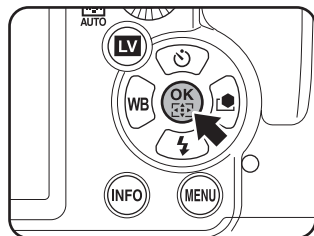
ダイレクトキーで設定する

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すと、ドライブモード／ストロボモード／ホワイトバランス／カスタムイメージが設定できます。（p.78）
ここでは「ストロボモード」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

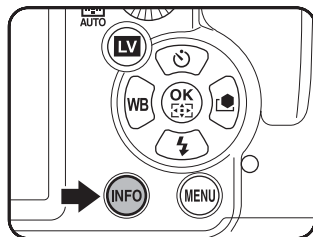
3 OK ボタンを押す

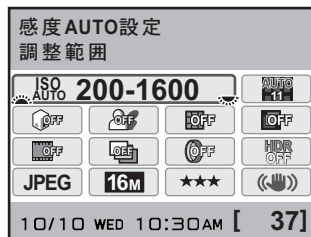
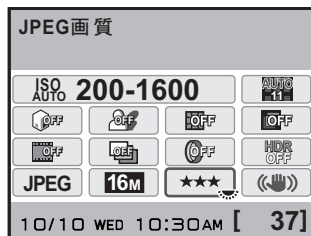
撮影できる状態になります。

ダイレクトキーの操作ができるときは、ステータススクリーンのダイレクトキーの操作ガイド部分が青（「🔧詳細設定1」の「ステータススクリーン」（p.258）の設定が「配色1」の場合）で表示されます。測距点切替ダイヤルが **SEL** で測距点を移動中は、ダイレクトキーの操作はできません。その場合は **OK** ボタンを長押ししてください。（p.114）

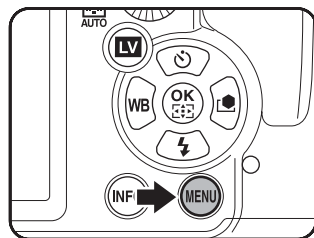
コントロールパネルで設定する

撮影時に表示されるステータススクリーンで設定を確認し、コントロールパネルに切り替えて設定を変更します。
ここでは「JPEG画質」を設定する場合を例に説明します。

1 ステータススクリーンを確認し、INFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。
ステータススクリーンが表示されていないときは、**INFO**ボタンを押します。

2 十字キー（▲▼◀▶）で変更する項目を選ぶ

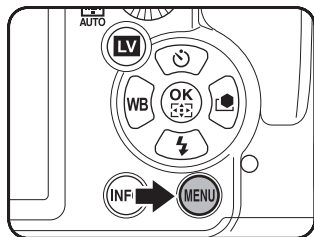
変更できない項目は選択できません。

3 前電子ダイヤル（）／後電子ダイヤル（）で設定を変更する

4 MENUボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

ステータススクリーンに戻り、撮影できる状態になります。

- 手順3で**OK**ボタンを押すと、選択した項目の詳細設定画面が表示されます。拡張ブラケット／デジタルフィルターなどは、詳細設定画面で設定値などを設定します。
- ライブビュー（p.146）表示中は、ステータススクリーン／コントロールパネルが表示されません。「撮影」メニューで設定してください。

メニューで設定する

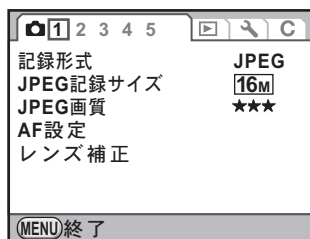
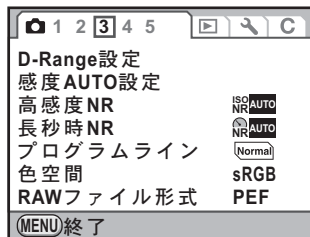
「撮影」／「再生」／「詳細設定」／「**C**カスタム」メニューの操作方法を説明します。
ここでは「撮影3」メニューの「プログラムライン」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影モードでMENUボタンを押す

画像モニターに「撮影1」メニューが表示されます。
再生モードで**MENU**ボタンを押すと「再生1」メニューが表示されます。

2 十字キー（▶）を2回押すか、後ダイヤル（）を右（🔍）に2クリック回す

1回押すごとに「📷撮影2」→・・・→「📷撮影5」→「▶再生1」・・・と順に切り替わります。

前電子ダイヤル（）を右に回すと、「📷撮影1」→「▶再生1」→「🔧詳細設定1」→「Cカスタム1」と切り替わります。

📷 1 2 3 4 5 ▶ 🔧 C
記録形式 JPEG
JPEG記録サイズ 16M
JPEG画質 ★★★
AF設定
レンズ補正
MENU終了

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

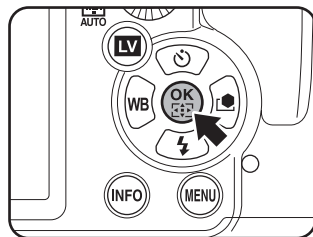
ポップアップまたはサブメニューに設定できる項目が表示されます。

📷 1 2 3 4 5 ▶ 🔧 C
D-Range設定
感度AUTO設定
高感度NR ISO NR AUTO
長秒時NR NR AUTO
プログラムライン ▶ Normal
色空間 sRGB
RAWファイル形式 PEF
MENU終了

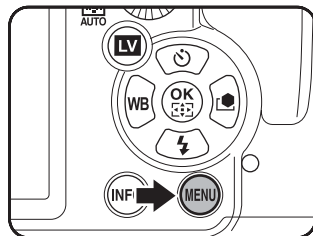
5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

MENUボタンを押すと、ポップアップの取り消し、または1つ前の画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

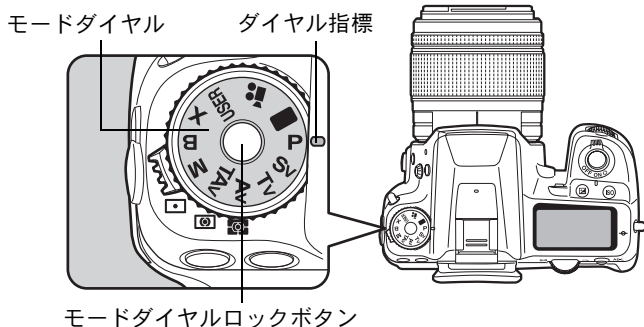
設定が決定されます。
サブメニューが表示されていたときは、**MENU**ボタンを押します。
続けて他の項目が設定できます。

7 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

注意

MENU ボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源を入れたままバッテリーを取り出したりするなど誤った操作で電源を切ると、設定は保存されません。

- 次にメニューを表示したときに、最後に選択したメニューのページから表示するか、常に「撮影1」から表示するかを設定できます。(p.258)
- 各メニューの設定内容については、以下を参照してください。
  - 「撮影」メニュー ☞p.79
  - 「再生」メニュー ☞p.209
  - 「詳細設定」メニュー ☞p.244
  - 「**C** カスタム」メニュー ☞p.81

モードダイヤルを使う

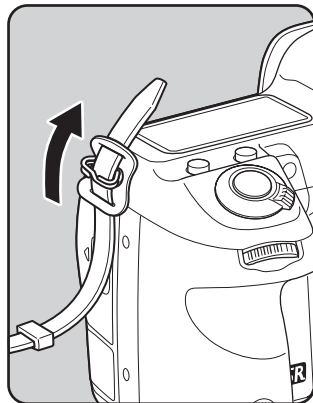
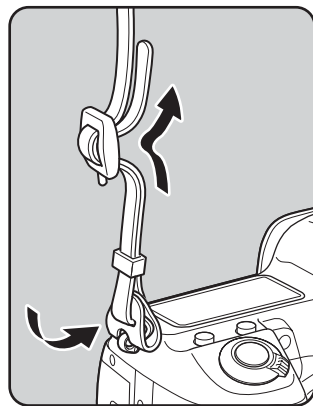
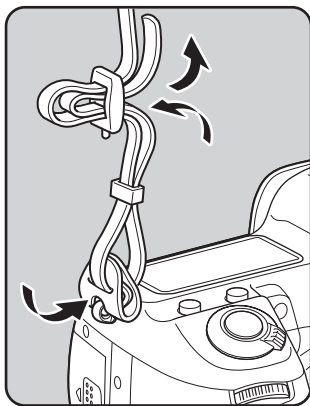
モードダイヤルのアイコンをダイヤル指標に合わせて、露出モードを切り替えます。
モードダイヤルは、モードダイヤルロックボタンを押しながら回します。

モード	特徴	参照
■ グリーン	フルオート設定で撮影します。	p.90
P プログラム自動露出	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。前／後電子ダイヤル操作で、シャッター優先／絞り優先に切り替えられます。	p.91
Sv 感度優先自動露出	任意に設定したISO感度に合わせてシャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。	p.92
Tv シャッター優先自動露出	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使用します。	p.94
Av 絞り優先自動露出	絞り値を任意の値に設定して、被写界深度を調整したいときに使用します。	p.95
TAv シャッター＆絞り優先自動露出	被写体の明るさに応じて、任意に設定したシャッター速度と絞り値で適正露出になるように、ISO感度が自動的に設定されます。	p.97
M マニュアル露出	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使用します。	p.98
B バルブ露出	花火や夜景などを長時間シャッターを開いたままで撮影したいときに使用します。	p.101

モード	特徴	参照
X ストロボ同調速度	シャッター速度を1/180秒に固定し、シャッター速度が自動的に切り替わらない外付けストロボと組み合わせる場合に使用します。	p.102
USER	任意に登録した撮影モードで撮影します。5パターンの設定が登録できます。	p.202
動画	動画を撮影します。	p.155

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでに必要な準備について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に操作してください。

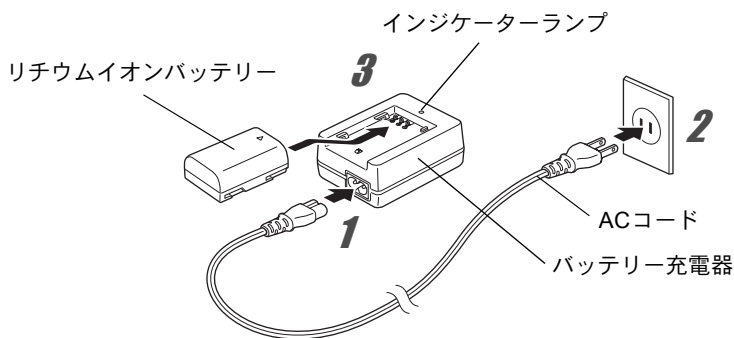
ストラップを取り付ける

1 ストラップの先端をキズ防止カバーと三角環に通す

2 ストラップの先端を留め具の内側に固定する

3 もう一方も同様に取り付ける

バッテリーをセットする

カメラにバッテリーをセットします。バッテリーは専用のD-LI90Pを使用します。

バッテリーを充電する

初めて使用するときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 **バッテリー充電器にACコードを接続する**

2 **ACコードをコンセントに差し込む**

3 **バッテリーを▲マークがある面を上にしてセットする**

充電中はインジケーターランプが点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4 **充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り外す**

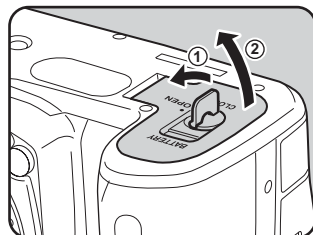
- 付属のバッテリー充電器D-BC90Pでは、D-LI90P以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- 次の場合は、新しいバッテリーと交換してください。
  - バッテリー充電器に正しくセットしてもインジケーターランプが点滅する、または点灯しない
  - 正しく充電しても使用できる時間が短い（バッテリーの寿命）

充電時間は、最大で約320分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0～40°Cの範囲で充電してください。

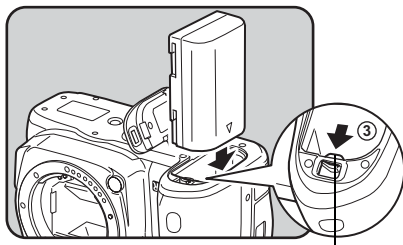
バッテリーを入れる

- 電源が入っているときは、バッテリーカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると、故障の原因になります。また、バッテリーの電極は、乾いた柔らかい布でよく拭いてから入れてください。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますので、ご注意ください。
- 長い間使わないときは、カメラからバッテリーを取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、バッテリーが液漏れを起こすことがあります。また、取り出したバッテリーを半年以上使用しない場合は、30分程度充電してから保管してください。その後も半年から1年ごとに再充電してください。
- バッテリーは、高温になる場所を避け、室温以下を保持できる場所に保管してください。
- 長期間バッテリーをセットしていないと、日時がリセットされることがあります。その場合は、「日時を設定する」（p.62）の手順に従って設定し直してください。

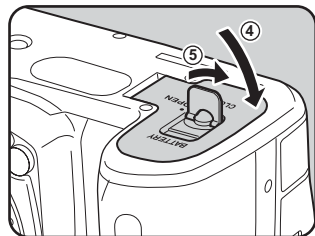
1 バッテリーカバーを開ける

バッテリーカバー開放ノブをつまみ上げ、OPENの方向に回して（①）ロックを外し、バッテリーカバーを引き上げます（②）。

2 **バッテリーの ▲ マークをカメラの外側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印③の方向に押しながら挿入する**

ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックレバーを矢印③の方向に手で押します。

バッテリーロックレバー

3 **バッテリーカバーを閉じ（④）、バッテリーカバー開放ノブをCLOSEの方向に回してロックする（⑤）**

閉じ終わったら、バッテリーカバー開放ノブを収納してください。

バッテリー容量の確認

ステータススクリーンと表示パネルに表示された　／　で、バッテリーの残量が確認できます。

ステータス スクリーン	表示パネル	バッテリーの状態
（緑）		バッテリーが十分に残っています。
（緑）		少し減っています。
（黄）		だいぶ減っています。
（赤）	点灯	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	点滅	メッセージ表示後、電源が切れます。（表示パネルの　は点滅を続けます。）

- 低温下や連続撮影を続けた場合、容量が十分に残っていても／／／が点灯することがあります。
- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリーを用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下したバッテリーの性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 海外旅行、寒冷地で撮影する場合や大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

リサイクルについて

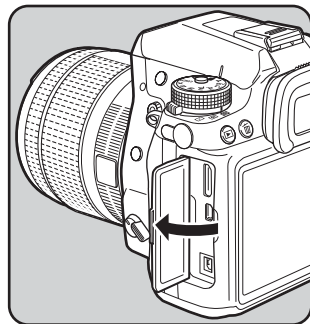
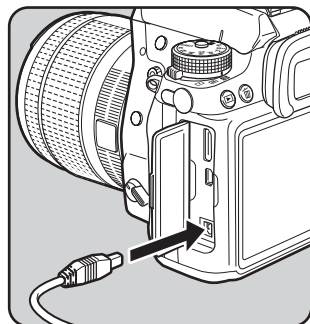
このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。
ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープを貼って、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ACアダプター（別売）を使用する

画像モニターを長時間使用するときや、パソコンやAV機器と接続するときは、ACアダプターキットK-AC132J（別売）のご使用をお勧めします。

ACアダプターキット K-AC132Jは、ACアダプター D-AC120、ACコード D-CO2Jのセットです。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 端子カバーを開ける

3 ACアダプターのDC端子の ▲ 印をカメラの▲印のある方向に向け、カメラのDC入力端子に接続する

4 ACコードをACアダプターに接続する

5 コンセントに電源プラグを差し込む

- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- 各端子はしっかり差し込んでください。カメラがSDメモリーカードにアクセス中に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損するおそれがあります。

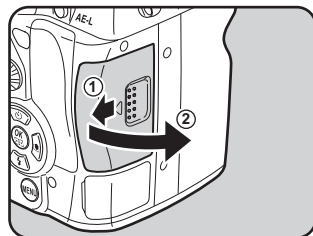
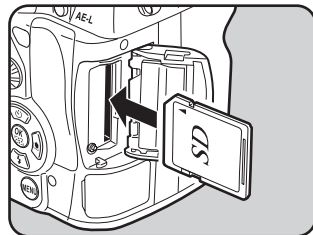
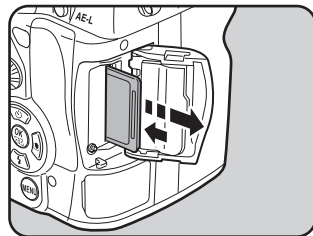
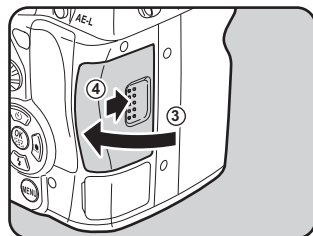
- ACアダプターを使用中は、ステータススクリーンに DCIN が表示されます。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットの使用説明書をあわせて参照してください。
- ACアダプターを接続しても、カメラ内のバッテリーを充電することはできません。

SDメモリーカードを入れる

本機では、市販のSDメモリーカードが使用できます。
SDメモリーカードを入れるときや取り出すときは、必ず電源をOFFにしてください。

注意
- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 未使用または他のカメラやデジタル機器で使用した SD メモリーカードは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットの方法については「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.246）を参照してください。
- 動画を撮影する場合は、高速のSDメモリーカードを使用してください。書き込みが間に合わなくなると、撮影途中で終了する場合があります。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 カードカバーを矢印の方向にスライドさせてから開く（①→②）

3 SD メモリーカードのラベル面を画像モニター側に向け、奥まで差し込む

SDメモリーカードを取り出すときは、カードをさらに押し込みます。

4 カードカバーを閉じ、矢印の方向にスライドさせる（③→④）

カードカバーは完全に閉じてください。カードカバーが開いていると電源が入りません。

メモ

SDメモリーカードに記録できる枚数の目安は「記録サイズ別撮影可能枚数の目安」（p.320）を参照してください。

レンズを取り付ける

カメラ本体にレンズを取り付けます。
本機では、以下のレンズを使うと、カメラの露出モードがすべて利用できます。

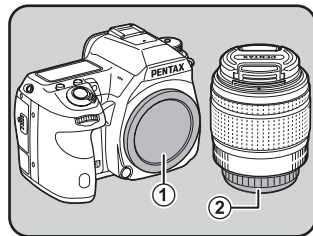
（a）DA・DA L・D FA・FA Jレンズ
（b）絞り**A**（オート）位置のあるレンズを**A**位置で使用

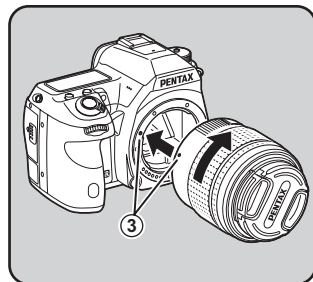
注意

- 不用意なレンズの動きを防ぐため、レンズを着脱するときは電源を切ってください。
- レンズの取り付け／取り外しは、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- 持ち運ぶときなどカメラ本体にレンズを取り付けていないときは、必ずボディマウントカバーを装着してください。
- 取り外したレンズには、必ずレンズマウントカバーとレンズキャップを取り付けてください。
- カメラやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やAFカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。
- （b）のレンズを絞り **A** 位置以外で使用する場合は、機能が制限されます。「絞りリングの使用を許可する」（p.299）を参照してください。
- 上記以外のレンズやアクセサリーを使用する場合は、工場出荷時の設定ではカメラが作動しません。「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」で「許可」に設定してください。（p.299）
- 本製品に他社製レンズを使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

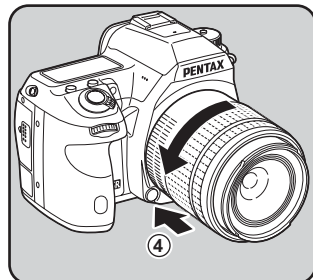
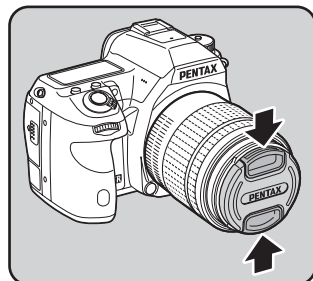
2 ボディマウントカバー（①）とレンズカバー（②）を取り外す

レンズマウントカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷つけないため、カメラに取り付ける面を上にして置いてください。

3 カメラとレンズのマウント指標（赤点、③）を合わせて差し込み、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

レンズ取り付け後、レンズを左に回して確実にロックされていることを確認してください。

4 図の矢印部分を内側に押してレンズキャップを取り外す

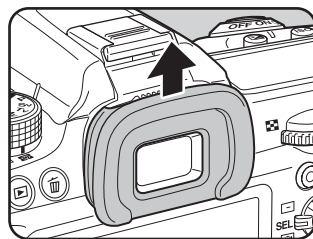
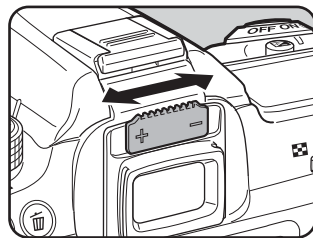
レンズの取り外し

レンズキャップを取り付け、レンズ取り外しボタン（④）を押しながらレンズを左へ回します。

メモ

ボディマウントカバー（①）は工場出荷時の傷やほこり防止用のものです。別売アクセサリーとしてロック機構付きのボディマウントキャップKをご用意しています。

ファインダーの視度を調整する

撮影者の視力に合わせて、ファインダーの視度が調整できます。
工場出荷時には、ファインダー部にアイカップFRが装着されています。アイカップを付けたままでも視度調整は可能ですが、アイカップを外すと調整しやすくなります。

1 アイカップを矢印の方向に引っ張って外す

2 ファインダーをのぞきながら視度調整レバーを左右に動かす

ファインダー内のAFフレームがはっきり見える位置に調整します。

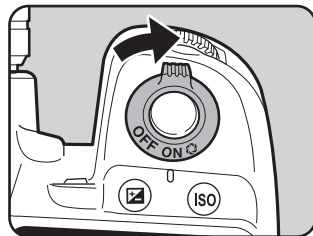
白い壁などの明るくて色ムラのない方へカメラを向けると調整しやすくなります。

視度調整レバーを使っても、ご自分の視力に合わせることができない方のために、別売アクセサリーとして視度調整レンズアダプター Mをご用意しています。ご利用の際は、アイカップFRを外してお使いください。

電源を入れる

1 電源レバーを「ON」に合わせる

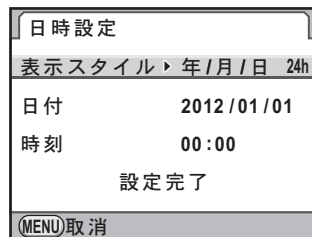
電源が入ります。

電源レバーを「OFF」に合わせると電源が切れます。

- カメラを使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れます。電源をONにするには、電源を入れ直すか、次の操作をしてください。
  - シャッターボタンを半押しする
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す
- 自動的に電源が切れるまでの時間は、初期設定では1分間です。「🔧詳細設定3」メニューの「オートパワーオフ」で変更できます。（p.266）

初期設定をする

工場出荷後カメラの電源を初めて入れると、画像モニターに「Language/言語」画面が表示されます。以下の手順に従って、画像モニターに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。

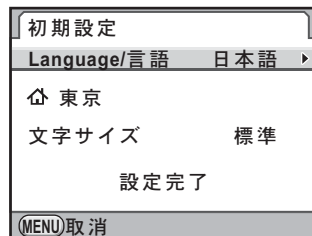
日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」(p.62)の手順に従って日時を設定してください。

日時設定
表示スタイル ▸ 年/月/日 24h
日付 2012/01/01
時刻 00:00
設定完了
MENU 取消

言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1 十字キー(▲▼◀▶)で「日本語」を選ぶ

2 OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。
右図のように⌂が「東京」に設定されていたら、十字キー(▼)を2回押し、p.61の手順10に進んでください。

3 十字キー(▼)を押す

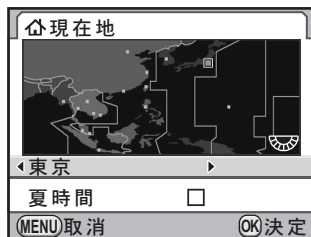
カーソルが⌂に移動します。

4 十字キー(▶)を押す。

「⌂現在地」画面が表示されます。

5 十字キー（◀▶）で「東京」を表示する

後電子ダイヤル（ ）を回すと、地図表示が切り替わります。

指定できる都市については、「都市名一覧」（p.255）を参照してください。

6 十字キー（▼）を押す

カーソルが「夏時間」の□に移動します。

7 十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

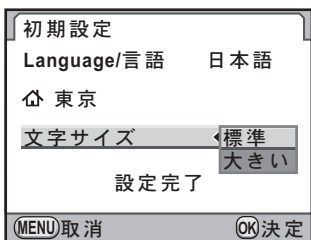
8 OKボタンを押す

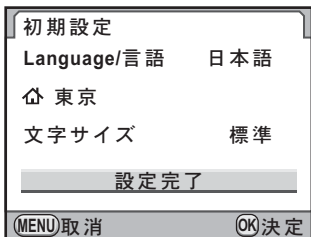
「初期設定」画面に戻ります。

9 十字キー（▼）を押す

カーソルが「文字サイズ」に移動します。

10 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で標準／大きいを選ぶ

「大きい」を選ぶと、選択しているメニュー項目が拡大して表示されます。

11 OKボタンを押す

12 十字キー（▼）を押し、「設定完了」を選ぶ

13 OK ボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。

- 「文字サイズ」は、「🔧詳細設定1」メニューであとから変更することもできます。本書では、以降のメニュー画面は「文字サイズ」を「標準」に設定して説明します。
- 現在地や日時を設定していない場合は、電源を入れ直したときに、再度「初期設定」画面または「日時設定」画面が表示されます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを設定する

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）で24h（24時間表示）／12h（12時間表示）を設定する

5 OKボタンを押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が西暦年に移動します。

8 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

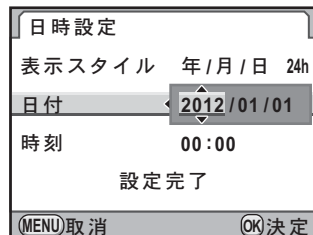
同様に「月」「日」を設定します。

続いて時刻を設定します。

手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　2012/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消　OK 決定

9 十字キー（▼）を押し、「設定完了」を選ぶ

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　2012/10/10
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消　OK 決定

10 OKボタンを押す

ステータススクリーンが表示され、撮影できる状態になります。

メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定1」メニューに戻るので、**MENU**ボタンを押してください。

- 手順10で**OK**ボタンを押したときに、秒数は0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。
- 日時設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、撮影できる状態になります。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更できます。（p.253、p.256）

3 使ってみよう

この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルをグリーンモード（プログラムラインAUTOによる自動露出）に設定した場合の基本操作について説明しています。

高度な機能や意図に合った撮影をするための設定については、4章以降を参照してください。

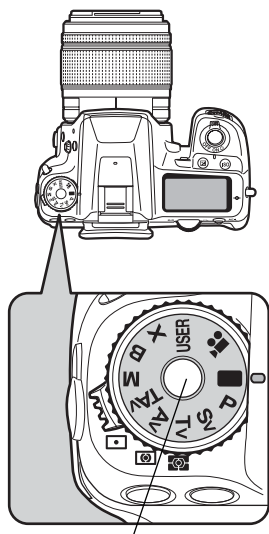
撮影の基本操作

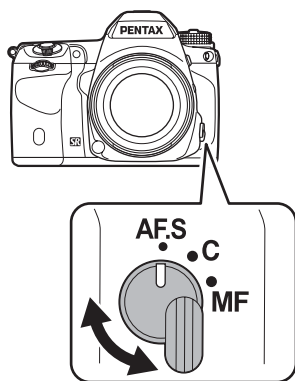
カメラまかせで撮影する

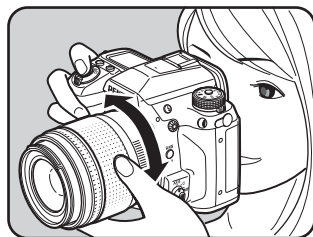
本機には、撮影者の意図に的確に応じるさまざまな露出モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの、最も簡単な撮影方法を説明します。

1 モードダイヤルを■に合わせる

モードダイヤルは、モードダイヤルロックボタンを押しながら回します。

露出モードが■（グリーン）モードになります。■モードでは適正露出をカメラが判断し、シャッター速度と絞り値が自動的に設定されます。

2 フォーカスモードレバーを AF.S に合わせる

フォーカスモードが**AF.S**（オートフォーカス・シングル）モードになります。**AF.S**では、シャッターボタンを半押しにすると自動的にピントを合わせ、シャッターがきれます。（p.108）

3 ファインダーをのぞいて、被写体を確認する

ズームレンズを使うと被写体の大きさを変えることができます。（p.68）

4 AFフレームの中に被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります（フォーカスロック）。

周囲が暗い場合はAF補助光が発光しますが、ストロボは自動的にポップアップしません。ストロボ発光が必要な場合には、ファインダー内のストロボ発光表示ϟが点滅するので、ϟボタンを押してストロボをポップアップしてください。

☞内蔵ストロボを使う （p.69）
☞ピント合わせ位置（測距点）を選択する （p.113）

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

この動作を「シャッターをきる」「レリーズ」といいます。

6 画像モニターで撮影した画像を確認する

撮影直後には、画像モニターに画像が1秒間表示されます（クイックビュー）。

☞クイックビューの表示を設定する （p.259）

クイックビュー表示中に、後電子ダイヤル（）で拡大表示できます。（p.211）

クイックビュー表示中に🗑ボタンを押すと、画像を消去できます。

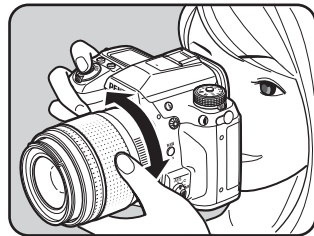
☞画像を消去する （p.74）

- ■（グリーン）モードの詳細は、p.90を参照してください。
- 合焦時の電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.252）
- シャッターボタン半押しによる合焦動作を、**AF**ボタンで行うこともできます。（p.110）
- 撮影前にプレビューを表示して、構図・露出・ピントを確認できます。（p.118）

ズームレンズを使う

ズームレンズを使うと、写したいものを大きくしたり（望遠）、広い範囲で撮影したり（広角）自由に変えることができます。好みの大きさに合わせて撮影してください。

1 ズームリングを左右に回す

ズームリングを右に回すと望遠に、左に回すと広角になります。

FAレンズで、パワーズームに対応しているレンズを使うと、パワーズーム（電動ズーム）が使用できます。（p.297）

内蔵ストロボを使う

背景が撮りたいものより明るい場合や逆光撮影など、内蔵ストロボを発光させたい場合は、次の手順で使用します。
内蔵ストロボが有効なのは、被写体との距離がおおよそ0.7～5mの範囲です。0.7mより近いと、露出が正しく制御されず、ケラレ（撮影した写真の周辺部が配光不足で黒くなる現象）などが発生します。（この距離は使用するレンズや、ISO感度の設定によって多少異なります。（p.165））

内蔵ストロボとレンズの適合

内蔵ストロボは、ご使用のレンズや撮影条件によってケラレが生じることがあります。事前にテスト撮影をして確認されることをお勧めします。

☞レンズと内蔵ストロボの適合 （p.166）

- 内蔵ストロボを使用する場合は、レンズフードを外して撮影してください。
- 絞り**A**（オート）位置の機能がないレンズでは、内蔵ストロボは常にフル発光になります。

内蔵ストロボの特徴や外付けストロボを使った撮影など、ストロボについての詳細は「ストロボの活用」（p.161）を参照してください。

ストロボモードを設定する

ストロボモード		機能
⚡A	自動発光	周りの明るさをカメラが自動的に測定し、ストロボの発光をカメラが判断します。
⚡A👁	自動発光+ 赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
⚡	強制発光	ストロボが常に発光します。
⚡👁	強制発光+ 赤目軽減	強制発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。

ストロボモード	機能
SLOW スローシンクロ	明るさによって、遅いシャッター速度に設定されます。夕景などを背景に人物撮影をするときに利用すると、人物も背景もきれいに写すことができます。
SLOW スローシンクロ+赤目軽減	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW 後幕シンクロ	シャッターの後幕が閉じる直前に発光するので、乗り物など動く被写体の光跡を、後ろに流れるように写し込むことができます。（p.164）
W ワイヤレスモード	専用外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ）とシンクロコードを使わずに同調させることができます。（p.170）

露出モードによって、選択できるストロボモードが異なります。

露出モード	選択できるストロボモード	制限
■	A／A	光量補正不可
P／Av／Sv	／／SLOW／SLOW／SLOW／W	—
Tv／TAv／M／B	／／／W	—
X	／／W	—
USER	保存されている設定による	

1 撮影モードで十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。
設定されている露出モードで選択できるストロボモードだけが表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

■（グリーン）モード以外では、後電子ダイヤル（）を回してストロボ光量の補正ができます。（p.71）

3 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

ストロボ光量を補正する

ストロボの光量を–2.0～+1.0の範囲で変えることができます。設定ステップが1/3 EVか1/2 EVかで、光量補正値は以下のようになります。

ステップ幅	光量補正値
1/3 EV	–2.0／–1.7／–1.3／–1.0／–0.7／–0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0
1/2 EV	–2.0／–1.5／–1.0／–0.5／0.0／+0.5／+1.0

ステップ幅は、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.106）

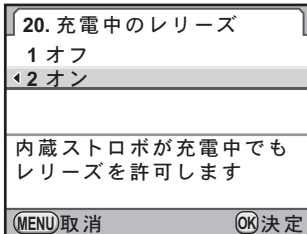
1 **「ストロボモード」画面で後電子ダイヤル（）を回す**

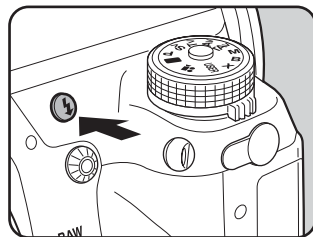
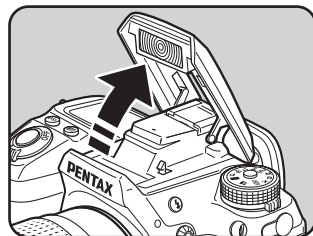
光量補正値が表示されます。
⦿ボタンを押すと、ストロボ光量補正値は0.0にリセットされます。

- （グリーン）モードではストロボ光量補正は設定できません。
- ストロボ光量補正中は、ファインダー内と表示パネルに が点灯します。（p.36、p.38）
- +側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、ISO感度を高く設定している場合などは、-側に補正をしても効果がないことがあります。
- ストロボ光量補正は、P-TTL対応の外付けストロボでも有効です。

ストロボ充電中に撮影できるようにする

内蔵ストロボが充電中でも撮影ができます。
「**C** カスタム3」メニューの「20. 充電中のレリーズ」で「オン」を選択します。
初期設定では、内蔵ストロボの充電中は撮影できません。

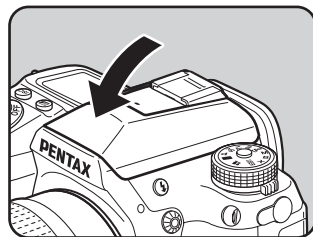
20. 充電中のレリーズ
1 オフ
2 オン
内蔵ストロボが充電中でもレリーズを許可します
MENU取消　OK決定

内蔵ストロボを使用する

1　⚡ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。充電が終わると、ファインダー内と表示パネルに⚡が表示されます。（p.36、p.38）

2　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

モードダイヤルが■の場合は、内蔵ストロボをポップアップしていても適正露出であれば発光しません。

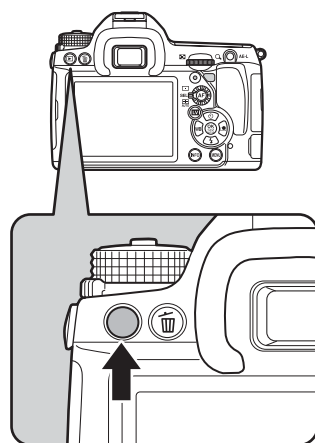
モードダイヤルが■以外の場合は、内蔵ストロボをポップアップすると強制発光します。

3　図の矢印の部分を押し下げ、内蔵ストロボを収納する

再生する

撮影した画像を再生する

撮影した画像をカメラで再生する方法を説明します。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになり、最後に撮影した画像（ファイルNo.が一番大きい画像）が画像モニターに表示されます。

2 画像を確認する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（◀）／前電子ダイヤル（ ）左	前の画像を表示
十字キー（▶）／前電子ダイヤル（ ）右	次の画像を表示
INFOボタン	表示情報切り替え（p.30）
AE-Lボタン	RAW画像追加保存（保存可能なときのみ）

- JPEG　形式で撮影した直前の画像がカメラ内の撮影バッファに残っている場合、再生時に**AE-L**ボタンを押してRAW形式で追加保存できます。(バッファ RAW保存)
  以下の機能を設定して撮影した場合は、それぞれ次のRAW画像が保存されます。

機能	保存されるRAW画像
• インターバル撮影	最後に撮影した画像のRAW画像
• 多重露出	多重露出されたRAW画像
• 拡張ブラケット	3枚の中から選択可能
• デジタルフィルター	フィルターオフのRAW画像
• HDR撮影	標準露出のRAW画像
• クロスプロセス	クロスプロセスオフのRAW画像

- 再生モード機能の詳細は、「いろいろな再生」(p.207)を参照してください。

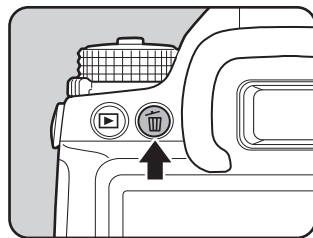
画像を消去する

画像を1つずつ消去します。

- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像は消去できません。(p.222)

1 ▶ボタンを押し、十字キー(◀▶)で消去したい画像を選ぶ

2 🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

RAW+で保存されている画像は、どの記録形式の画像を消去するか選択します。

JPEG消去	JPEG画像のみを消去します。
RAW消去	RAW画像のみを消去します。
RAW+JPEG消去	両形式とも消去します。

4 OKボタンを押す

画像が消去されます。

複数の画像をまとめて消去する場合は、「複数画像を消去する」（p.220）を参照してください。

4 いろいろな撮影

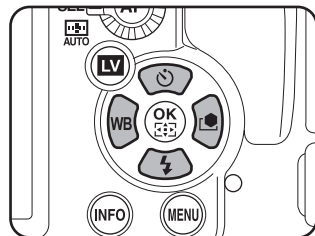
撮影の基本から応用まで、本機でできるさまざまな撮影方法をご紹介します。

撮影関連機能の操作

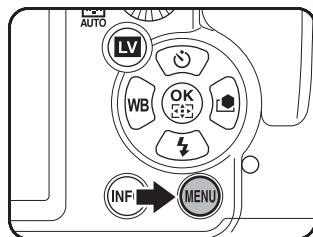
撮影に関する機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／「撮影」メニュー／「Cカスタム」メニューで指定します。

ダイレクトキー／メニューの操作方法については、「機能の設定方法」（p.40）を参照してください。

ダイレクトキーの設定項目

撮影モードで十字キー（▲▼◀▶）を押すと、以下の項目が設定できます。

キー	項目	機能	参照
▲	ドライブモード	連続撮影／セルフタイマー／リモコン／露出ブラケット／ミラーアップを設定します。	p.132 p.125 p.127 p.138 p.130
▼	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.69
◀	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.183
▶	カスタムイメージ	色味やコントラストなどの画像の仕上がり具合を設定します。	p.197

撮影メニューの設定項目

「撮影1～5」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影モードで**MENU**ボタンを押すと、「撮影1」メニューが表示されます。

メニュー	項目	機能	参照
1	USERモード切替 *1	USERモードで使用する設定を選択します。	p.206
	露出モード *1	USERモードのときの露出モードを設定します。	p.205
	記録形式 *2	ファイルフォーマットを設定します。	p.180
	JPEG記録サイズ *2	JPEGで記録した場合の記録サイズを設定します。	p.178
	JPEG画質 *2	JPEGで記録した場合の画質を設定します。	p.179
	AF設定 測距点AUTO設定 *2	測距点がAUTO（オート）のときの測距点の数を設定します。	p.113
	AF設定 セレクトエリア拡大	測距点が**SEL**（セレクト）のときに、設定した測距点の周囲の情報を利用してファインダー撮影時のピント合わせを行います。	p.115
	レンズ補正 *2	レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を補正します。	p.193
2	クロスプロセス *2	色合いやコントラストを変化させるデジタル・クロスプロセスを行います。	p.200
	拡張ブラケット *2	拡張ブラケット撮影の設定をします。	p.141
	デジタルフィルター *2	フィルター効果をかけて撮影します。	p.143
	HDR撮影 *2	ハイダイナミックレンジ撮影を行います。	p.191
	多重露出	任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。	p.136
	インターバル撮影	指定した時刻に等間隔で自動撮影します。	p.133
	構図微調整	Shake Reductionユニットを移動することによって、構図の位置と傾きを補正します。	p.195

メニュー	項目	機能	参照
3	D-Range設定 *2	ダイナミックレンジを拡大し、白とび・黒つぶれを防ぎます。	p.190
	感度AUTO設定 *2	ISO AUTOで自動調整するISO感度の範囲を設定します。	p.84
	高感度NR	高感度撮影時にノイズリダクションをかけるかどうかを設定します。	p.85
	長秒時NR	低速シャッター時にノイズリダクションをかけるかどうかを設定します。	p.87
	プログラムライン	プログラムラインを選択します。	p.89
	色空間	使用する色空間を設定します。	p.189
	RAWファイル形式	RAWで記録する場合のファイルフォーマットを設定します。	p.181
4	動画	動画の設定を行います。	p.152
	ライブビュー	ライブビューの設定をします	p.147
	電子水準器	カメラの傾きを検知する電子水準器を表示するかどうか設定します。	p.262
	自動水平補正	画像の左右の傾きを補正します。	p.123
	Shake Reduction *2	縦・横方向の手ぶれを補正します。	p.122
	焦点距離入力	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合に、レンズ焦点距離を設定します。	p.124
	GPS	別売のGPSユニットを装着したときの動作を設定します。	p.305
5	クイックビュー	クイックビューの表示を設定します。	p.259
	デジタルプレビュー	デジタルプレビューの設定を行います。	p.119
	電子ダイヤル	各露出モードでの電子ダイヤルの機能の割り当てを設定します。	p.247
	ボタンカスタマイズ	**RAW/Fx**ボタン／**AF**ボタン／プレビューレバー／シャッターボタン半押しの動作を設定します。	p.249
	モードメモリ	電源を切ったとき、どの項目の設定を保存しておくかを設定します。	p.274
	USERモード登録	現在のカメラの設定を**USER**に登録します	p.202

*1 モードダイヤルが**USER**のときのみ表示されます。
*2 コントロールパネルで設定することもできます。

カスタムメニューの設定項目

「Cカスタム1～4」メニューでは、一眼レフカメラの機能をフルに生かして撮影するための機能を設定します。

メニュー	項目	機能	参照
C1	1. 露出設定ステップ	露出設定の調整ステップを設定します。	p.106
	2. ISO感度ステップ	ISO感度の調整ステップを設定します。	p.84
	3. 拡張感度	ISO感度の下限と上限を拡張します。	p.84
	4. 測光作動時間	測光タイマーの作動時間を設定します。	p.104
	5. AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するかどうかを設定します。	p.115
	6. 測距点と露出の関連付	分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点を関連付けるかどうかを設定します。	p.104
	7. 連動外の自動補正	適正露出が得られないときに自動補正をするかどうかを設定します。	—
C2	8. ブラケット撮影順	オートブラケット撮影時の順序を設定します。	p.138
	9. ワンプッシュブラケット	露出ブラケット撮影時に1回のレリーズで全コマ撮影するかどうかを設定します。	p.140
	10. WBの光源調整範囲	ホワイトバランス設定で、光源を指定した場合に自動的に微調整を行うかどうかを設定します。	p.185
	11. ストロボ発光時のWB	ストロボ発光時のホワイトバランスの設定を行います。	p.185
	12. 白熱灯下のAWB	ホワイトバランスが **AWB** のときに白熱灯の色味を残すか補正するかを設定します。	—
	13. 色温度ステップ	色温度の調整ステップを設定します。	p.188
	14. スーパーインポーズ	選択された測距点をファインダー内に表示するかどうかを設定します。	p.113

メニュー	項目	機能	参照
C3	15. AF.Sの動作	フォーカスモードが **AF.S** でシャッターボタンを全押ししたときの優先動作を設定します。	p.109
	16. AF.Cの動作	フォーカスモードが **AF.C** で連続撮影するときの優先動作を設定します。	p.109
	17. AF補助投光	暗い場所でオートフォーカスするときに、AF補助投光を行うかどうか設定します。	p.109
	18. リモコン時のAF	リモコン撮影するときにオートフォーカスするかどうかを設定します。	p.129
	19. B時のリモコン撮影	**B**（バルブ露出）モードでリモコンを使用するときのリモコンの動作を設定します。	p.102
	20. 充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするかどうかを設定します。	p.71
	21. ワイヤレス時の発光	内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方法を設定します。	p.172
C4	22. 表示パネルの照明	表示パネルの照明の設定をします。	p.38
	23. 回転情報の記録	撮影時に回転情報を記録するかどうかを設定します。	p.219
	24. メニュー選択の記憶	直前に操作したメニューを記憶し、次に **MENU** ボタンを押したときも同じ画面を表示するかどうか設定します。	p.258
	25. キャッチインフォーカス	「オン」に設定すると、マニュアルフォーカスレンズを取り付けて、フォーカスモードを **AF.S** にしたときに、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。	p.117
	26. AF微調整	オートフォーカスのピント位置の微調整を行います。	p.111
	27. 絞りリングの使用	レンズの絞りリングが **A** 位置以外のときに撮影可能にするかどうかを設定します。	p.299
	カスタムのリセット	「**C**カスタム1～4」メニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.296

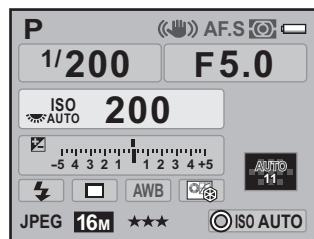
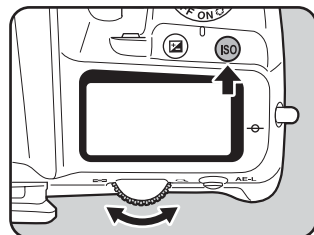
露出を設定する

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、ISO感度を設定します。
ISO感度は、「ISO AUTO（自動調整）」か、ISO 100～12800相当の間で設定できます。初期設定は「ISO AUTO」です。

1 撮影モードでISOボタンを押しながら後電子ダイヤル（）を回す

ステータススクリーン／表示パネル／ファインダー内のISO感度が変わります。

ISO感度を「ISO AUTO」に切り替えるときは、⦿ボタンを押します。

2 ISOボタンと後電子ダイヤル（）から手を離す

ISO感度が確定します。

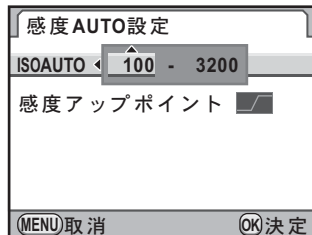
- ISO感度の設定は、ISOボタンを1回押して指を離してから後電子ダイヤル（）を回して変更することもできます。この場合、もう一度ISOボタンを押すか、測光タイマー（p.104）がオフになると、ISO感度が確定します。
- 露出モードが（グリーン）／TAv（シャッター＆絞り優先自動露出）／（動画）のときは「ISO AUTO」固定になり、ISO感度は変更できません。
- 露出モードがSv（感度優先自動露出）／M（マニュアル露出）／B（バルブ露出）／X（ストロボ同調速度）のときは、「ISO AUTO」に設定できません。
- 「Cカスタム1」メニューの「3. 拡張感度」を「オン」に設定すると、ISO感度の範囲をISO 80～51200まで広げることができます。ただし、この状態で「撮影3」メニューの「D-Range設定」（p.190）でハイライト補正をオンに設定すると、最低感度はISO 160になります。
- ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「撮影3」メニューの「高感度NR」でノイズを軽減できます。（p.85）
- ISO感度設定のステップを1 EVに固定するか、露出設定ステップ（p.106）に合わせるかを「Cカスタム1」メニューの「2. ISO感度ステップ」で設定できます。

ISO AUTOの自動調整範囲を設定する

ISO感度を「ISO AUTO」にしているときに、どの範囲でISO感度を自動調整するか設定します。初期設定では「ISO 100-3200」の範囲で自動調整します。

1 「撮影3」メニューの「感度AUTO設定」を選び、十字キー（▶）を押す

「感度 AUTO設定」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で最低感度を設定する

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で最高感度を設定する

4 OKボタンを押す

5 **十字キー（▲▼）で「感度アップポイント」を選び、十字キー（▶）を押す**

6 **十字キー（▲▼）で感度の上げ方を選び、OKボタンを押す**

SLOW	低速側	できるだけ感度を上げない
	標準	（初期設定）
FAST	高速側	積極的に感度を上げる

7 **MENUボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

ノイズを減らす（ノイズリダクション）

デジタルカメラは、次のようなときに、画像にノイズ（画像のざらつきやムラ）が目立つようになります。

- 長時間露光のとき
- ISO感度を高く設定しているとき
- CMOSセンサーが高温になっているとき

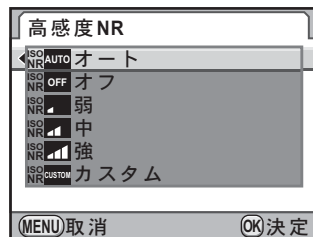
ノイズリダクションを設定すると、ノイズを低減できます。ただし、画像保存に時間がかかります。

高感度NR

ISO高感度時にノイズリダクション処理をします。

1 **「撮影3」メニューの「高感度NR」を選び、十字キー（▶）を押す**

「高感度NR」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でオート／オフ／弱／中／強／カスタムを選ぶ

オート	ISO感度の設定に応じて最適なノイズリダクションを行います。（初期設定）
オフ	ノイズリダクションを行いません。
弱／中／強	ISO感度の設定に関係なく、一定のノイズリダクションを行います。
カスタム	ISO感度別にノイズリダクション処理を設定できます。

3 OKボタンを押す

オート／オフ／弱／中／強を選んだ場合は、手順7に進みます。

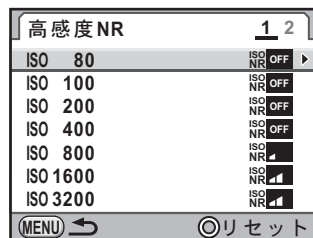
4 十字キー（▲▼）で「設定」を選び、十字キー（▶）を押す

ISO感度別に設定する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でISO感度を選び、十字キー（◀▶）で強度を選択する

後電子ダイヤル（　）で「高感度NR 2」画面に切り替えます。

⦿ボタンを押すと、選択されている設定をリセットします。
表示されるISO感度は、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」「2. ISO感度ステップ」の設定によって異なります。

高感度NR 1 2
ISO 80 OFF
ISO 100 OFF
ISO 200 OFF
ISO 400 OFF
ISO 800
ISO 1600
ISO 3200
MENU ⮌ ⦿リセット

6 MENUボタンを押す

手順2の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

長秒時NR

長時間露光したときのノイズリダクション処理を設定します。

1 「撮影3」メニューの「長秒時NR」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でオート／オン／オフを選び、OKボタンを押す

オート	シャッター速度・ISO感度・カメラ内部温度等を判断して、自動的にノイズリダクションを行います。（初期設定）
オン	露光時間が1秒を超えた場合にノイズリダクションを行います。
オフ	ノイズリダクションを行いません。

3 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 長秒時NRをオンに設定して撮影した場合、処理が終了するまで時間がかかることがあります。その間、次の撮影はできません。
- ノイズリダクション処理中は、ファインダー内／表示パネルの絞り値表示部に「**nr**」と点滅表示され、シャッター速度表示部には処理時間がカウントダウン表示されます。

露出モードを切り替える

本機には、以下の露出モードが用意されています。露出モードはモードダイヤルで切り替えます。（p.45）
各露出モードで設定できる項目は以下のとおりです。

露出モード	シャッター速度変更	絞り値変更	ISO感度変更	露出補正	参照
グリーン	×	×	×	×	p.90
P プログラム自動露出	○	○	○	○	p.91
Sv 感度優先自動露出	×	×	ISO AUTO以外	○	p.92
Tv シャッター優先自動露出	○	×	○	○	p.94
Av 絞り優先自動露出	×	○	○	○	p.95
TAv シャッター＆絞り優先自動露出	○	○	ISO AUTOのみ	○	p.97
M マニュアル露出	○	○	ISO AUTO以外	–	p.98
B バルブ露出	×	○	ISO AUTO以外	×	p.101
X ストロボ同調速度	×	○	ISO AUTO以外	–	p.102

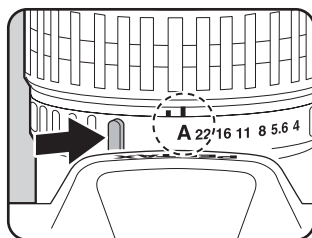
前／後電子ダイヤルと⦿ボタンを操作したときにどのように動作するかを、露出モードごとに設定できます。「撮影5」メニューの「電子ダイヤル」で設定します。（p.247）電源を入れたとき、またはモードダイヤルを回したときに画像モニターに表示されるガイド表示で、その時点の前／後電子ダイヤルと⦿ボタンの機能が確認できます。（p.25）

プログラムライン

「撮影3」メニューの「プログラムライン」では、下記のプログラムラインが選択できます。**P** ／**Sv**モードと、**TAv** ／**M**モードで⦿ボタンの設定が「**P** LINE」に設定されているとき（p.247）は、設定されたプログラムラインに従って、露出が制御されます。

設定	特徴
AUTO オート	カメラが適切な設定を判断します。
Normal ノーマル	基本となるプログラム自動露出です。（初期設定）
高速優先	なるべく速いシャッター速度がきれるよう、高速シャッターを優先するプログラム自動露出です。
深度優先（深い）	なるべく絞りを絞り込んで被写界深度を深くして撮影するプログラム自動露出です。
深度優先（浅い）	なるべく絞りを開いて被写界深度を浅くして撮影するプログラム自動露出です。
MTF MTF優先	DA・DA L・D FA・FA J・FAレンズと組み合わせたときに有効で、使用レンズの性能が最もよくなる絞り値を優先するプログラム自動露出です。

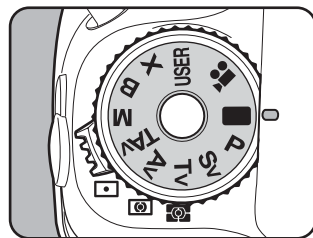
絞りリング付のレンズを使用する場合

絞りリングの付いたレンズをご使用の場合はレンズのオートロックボタンを押しながら、絞りを**A**（オート）位置に合わせてください。

■モードを利用する

フルオート設定で撮影できます。
■モードは、以下の設定で撮影されます。

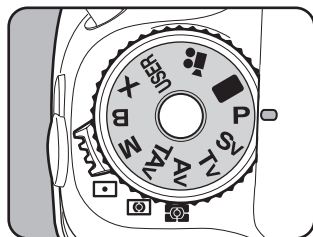
- プログラムライン　AUTO（オート）
- 記録形式　JPEG
- ISO感度　ISO AUTO
- 測光方式　（分割測光）
- 測距点　AUTO（オート）
- 測距点AUTO設定　11点
- ホワイトバランス　**AWB**（オート）
- カスタムイメージ　鮮やか
- 高感度NR　オート
- 長秒時NR　オン
- Shake Reduction　（オン）
- 色空間　sRGB

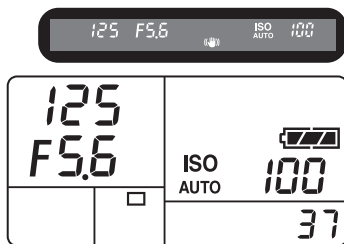
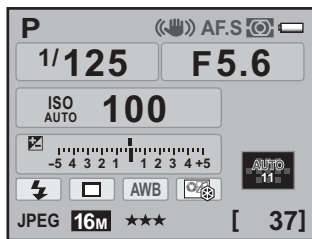
■モードで**MENU**ボタンを押すとグリーンモード用のメニューが表示され、変更できない項目は選択できません。

1　**モードダイヤルを■に合わせる**

- ■モードでは、以下の機能は使用できません。
  - シャッター速度変更
  - 絞り値変更
  - 露出補正
  - ストロボ（強制発光／スローシンクロ／後幕シンクロ／ワイヤレスモード／光量補正）
  - 連続撮影
  - フォーカスモード **AF.C**（**AF.S** で動作）
  - D-Range設定
  - レンズ補正
  - 露出ブラケット
  - ミラーアップ撮影
  - 多重露出
  - インターバル撮影
  - 拡張ブラケット
  - デジタルフィルター
  - HDR撮影
  - クロスプロセス
  - 自動水平補正
  - **USER** モード登録
  - **AE-L**／**RAW**/**Fx** ボタン操作
  - ボタンカスタマイズ（すべて初期値で動作）
  - カスタムメニューの設定（すべて初期値で動作）
- ■モードでは、コントロールパネルは表示できません。

P モードを利用する

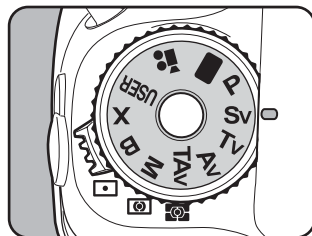
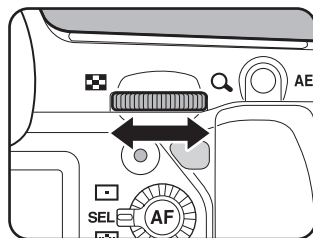
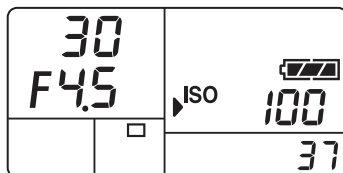
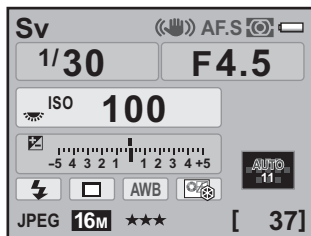
プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。
前／後電子ダイヤルを使用して、適正露出のままシャッター速度と絞り値を変更することもできます。（p.247）

1 モードダイヤルを P に合わせる

2 シャッター速度と絞り値を確認する

ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルのいずれかで確認します。

メモ　使用するプログラムラインは「撮影3」メニューの「プログラムライン」で設定します。（p.89）

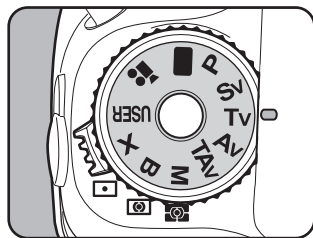
Svモードを利用する

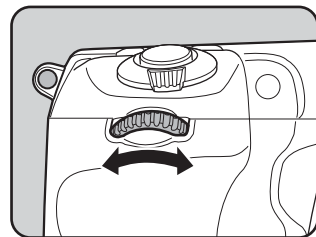
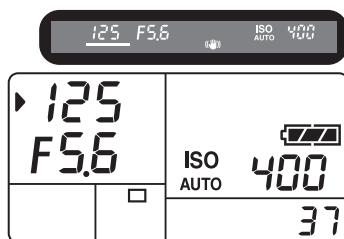
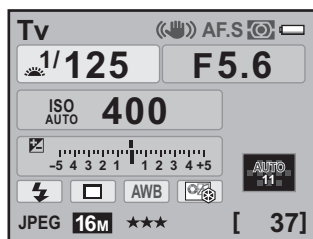
ISO感度を任意に設定して、被写体の明るさに応じた撮影ができます。設定したISO感度に合わせて、シャッター速度と絞り値が適正露出になるように自動的に設定されます。

1 モードダイヤルをSvに合わせる

2 後電子ダイヤル（）を回してISO感度を調整する

ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルに設定した値が表示されます。

- ISO感度は、ISO 100～12800相当の間で設定できます。「ISO AUTO」には設定できません。
- ISO感度は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.106）

Tvモードを利用する

シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使います。シャッター速度を速くして動きの速い被写体を止まっているように撮影したり、シャッター速度を遅くして躍動感を出したりできます。
なお、絞り値は使用するシャッター速度に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。

1 モードダイヤルをTvに合わせる

2 前電子ダイヤル（）を回してシャッター速度を調整する

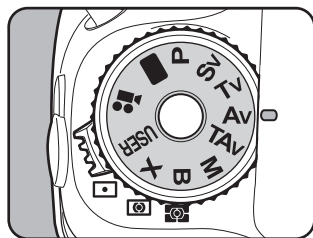
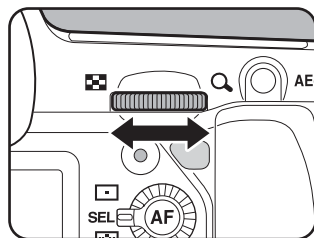
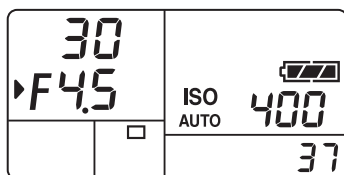
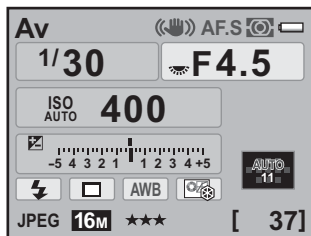
シャッター速度の設定可能範囲は1/8000～30秒です。

ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルに設定した値が表示されます。

- シャッター速度は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.106）
- ISO感度を「ISO AUTO」以外に設定する（p.83）と、設定したシャッター速度で適正露出が得られない場合があります。

露出警告

撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルの絞り値表示が点滅します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。
明るすぎるときは、市販の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

Avモードを利用する

絞り値を任意の値に設定して、被写界深度（ピントが合って見える範囲）を調整したいときに使います。絞り値を大きくすると被写界深度が深くなり、ピントを合わせた被写体の前後まで鮮明に撮影できます。また、絞り値を小さくすると被写界深度が浅くなり、ピントを合わせた被写体の前後をぼかすことができます。
なお、シャッター速度は使用する絞り値に合わせて、適正露出になるよう自動的に設定されます。

1 モードダイヤルをAvに合わせる

2 後電子ダイヤル（）を回して絞り値を調整する

ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルに設定した値が表示されます。

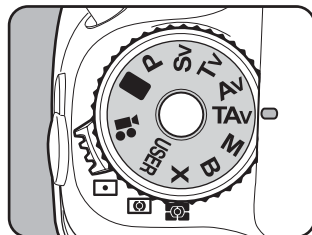
- 絞り値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.106）
- ISO感度を「ISO AUTO」以外に設定する（p.83）と、設定した絞り値で適正露出が得られない場合があります。

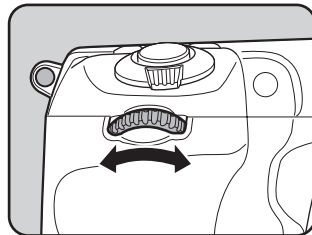
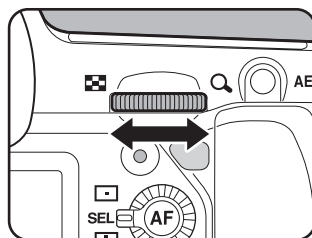
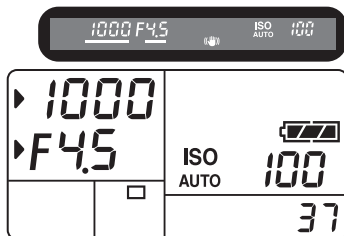
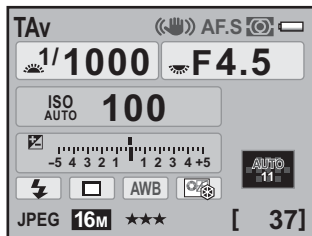
露出警告

撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルのシャッター速度表示が点滅します。明るすぎるときは絞り値を小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞り値を開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば適正露出で撮影できます。
明るすぎるときは、市販の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

TAvモードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意に設定して、撮影します。
被写体の明るさに応じて、任意に設定したシャッター速度・絞り値で適正露出になるように、ISO感度が自動的に設定されます。

1 モードダイヤルをTAvに合わせる

2 前電子ダイヤル（）を回してシャッター速度を調整する

シャッター速度の設定可能範囲は1/8000～30秒です。

3 後電子ダイヤル（）を回して絞り値を調整する

ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルに設定した値が表示されます。

- シャッター速度と絞り値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.106）
- **TAv** モードのときは、ISO感度は「ISO AUTO」固定になります。

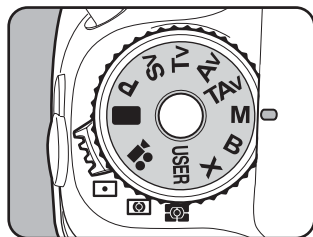
露出警告

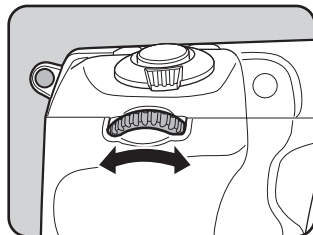
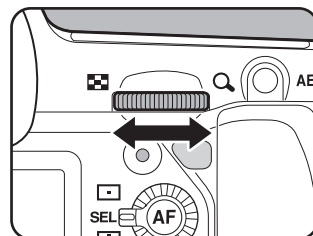
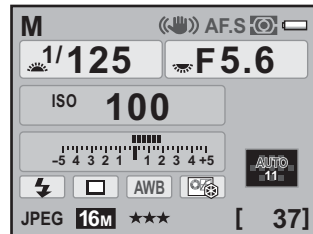
撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルのISO感度表示が点滅します。シャッター速度と絞り値を変えて点滅が止まれば適正露出で撮影できます。

明るすぎるときは、市販の減光（ND）フィルターをお使いください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

Mモードを利用する

シャッター速度と絞り値の両方を任意の値に設定し、それを組み合わせて思いどおりの画作りをするのに適しています。常に同じシャッター速度と絞り値の組み合わせで撮影したいときや、意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）にしたいときに使います。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 前電子ダイヤル（）を回してシャッター速度を調整する

シャッター速度の設定可能範囲は1/8000～30秒です。

3 後電子ダイヤル（）を回して絞り値を調整する

ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルに設定した値が表示されます。

シャッター速度または絞り値の調整中は、適正露出との差（EV値）がバーグラフで表示されます。▮が中心にあれば適正、-側に並んでいるときは露出不足、+側に並んでいるときは露出オーバーです。露出バーの表示限界を超えた場合、または撮りたいものが明るすぎたり暗すぎるときは、+／-が点滅します。

- **M**モードでは、ISO感度の「ISO AUTO」は使用できません。ISO感度が「ISO AUTO」に設定された状態で露出モードを**M**モードに変更した場合は、「ISO AUTOの自動調整範囲を設定する」(p.84)で設定した下限のISO感度で作動します。
- シャッター速度と絞り値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとに設定できます。設定ステップは、「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.106）
- 電子水準器が ☑（オン）のときは、ファインダー内と表示パネルのバーグラフに左右方向の傾きが表示されるため、適正露出との差は数値で表示されます。

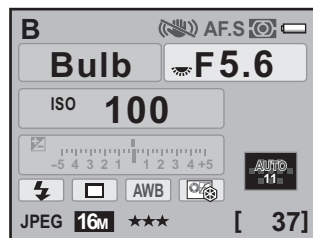
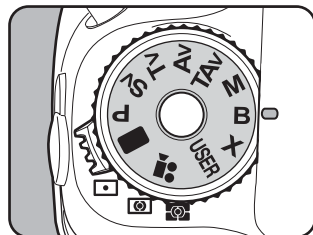
AE-Lとの組み合わせ

Mモードで**AE-L**ボタンを押して露出を記憶（p.107）させた状態でシャッター速度／絞り値を変更すると、露出値を保持したままシャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。

例）シャッター速度が1/125秒で、絞り値がF5.6の状態を**AE-L**ボタンで記憶した場合、前電子ダイヤル（）でシャッター速度を1/30秒に変えると絞り値は自動的にF11へ変わります。

Bモードを利用する

花火や夜景などの撮影で、長時間シャッターを開いておく必要があるときに利用します。

1 モードダイヤルをBに合わせる

2 シャッターボタンを押す

シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

3 シャッターボタンから指を離す

露光が終了します。

注意

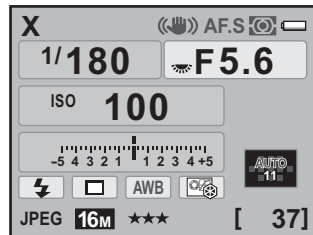
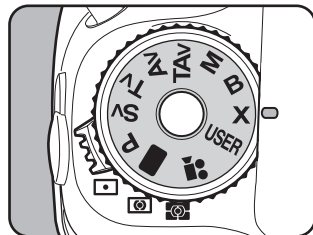
Bモードでは、以下の機能は使用できません。

- 露出補正
- 露出ブラケット
- 連続撮影
- インターバル撮影
- HDR撮影
- AEロック
- Shake Reduction

- 絞り値は、1/3 EVまたは1/2 EVごとになるように設定できます。設定ステップは、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で設定します。（p.106）
- **B**モードで撮影するときは、ぶれ防止のためしっかりした三脚を使用し、ケーブルスイッチCS-205（別売）、またはリモコン（別売）を使用してください。ケーブルスイッチはケーブルレリーズ端子（p.20）に接続してください。
- リモコンを使用するときに、撮影開始時と終了時にシャッターボタンを押して撮影するか、シャッターボタンを押している間に撮影を行うかを、「**C** カスタム3」メニューの「19. B時のリモコン撮影」で設定できます。
- **B**モードでは、ISO感度の「ISO AUTO」は使用できません。ISO感度が「ISO AUTO」に設定された状態で露出モードを**B**モードに変更した場合は、「ISO AUTOの自動調整範囲を設定する」（p.84）で設定した下限のISO感度で作動します。
- バルブ撮影の露光時間に制限はありません。ただし、シャッターを開いている間もバッテリーは消費しますので、長時間露光の際には、ACアダプターキット（別売）のご使用をお勧めします。（p.52）

Xモードを利用する

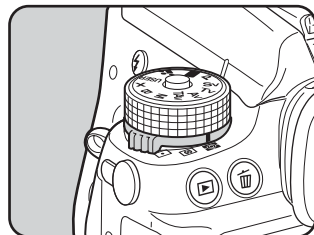
シャッター速度を1/180秒に固定し、シャッター速度が自動的に切り替わらない外付けストロボと組み合わせる場合に使用します。

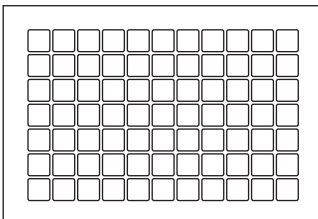
1 モードダイヤルをXに合わせる

- 絞り値を調整するときは、後電子ダイヤル（ ）を回します。
- ⦿ボタンを押すと、シャッター速度が1/180秒のまま絞り値を自動調整します。
- **X** モードでは、ISO感度の「ISO AUTO」は使用できません。ISO感度が「ISO AUTO」に設定された状態で露出モードを **X** モードに変更した場合は、「ISO AUTOの自動調整範囲を設定する」（p.84）で設定した下限のISO感度で作動します。

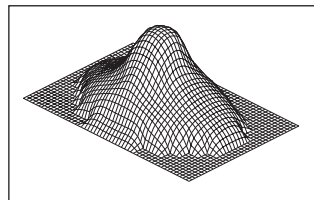
測光方式を選択する

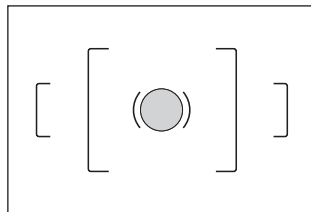
ファインダーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。次の3つの測光方式が用意されています。工場出荷時は、 （分割測光）に設定されています。

1 測光モード切替レバーを回す

ステータススクリーン／ファインダー内に設定した測光方式が表示されます。

● 分割測光

ファインダーを77に分割して明るさが測定されます。逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるのかが自動的に判断され、補正されます。

● 中央重点測光

ファインダー中央部分に重点を置いて測光します。露出を決めるときにカメラまかせではなく、経験的に補正をして決めるときなどに利用します。中央重点測光では、図のように高さが高い部分（中央部分）ほど感度が高くなります。逆光の場合でも自動補正は行われません。

● ⊡スポット測光

ファインダー中央の限られた狭い範囲の明るさだけを測光します。撮影したいものが非常に小さく、適正な露出を得るのが難しいときに、AEロック機能（p.107）と組み合わせて利用すると便利です。

DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・A以外のレンズ、または絞りリングが**A**（オート）位置でないときには、分割測光に設定しても中央重点測光になります。（「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」（p.299）で許可を設定した場合のみ使用可能）

分割測光時に測距点と露出を関連付ける

「**C**カスタム1」メニューの「6. 測距点と露出の関連付」で、分割測光時に露出値とAFエリア内の測距点（ピントを合わせた位置）を関連付けることができます。

1	オフ	露出値は、測距点の位置と関係なく設定されます。（初期設定）
2	オン	露出値は、測距点の位置に応じて調整されます。

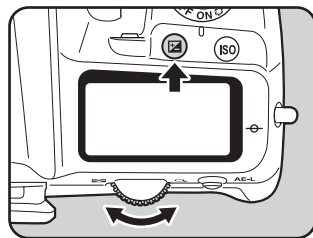
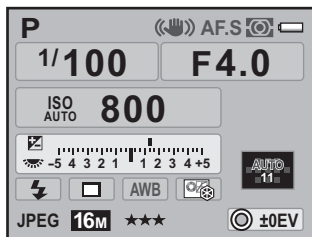
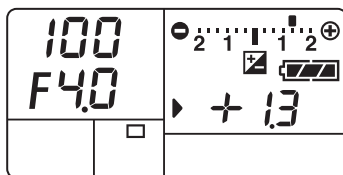
測光時間を設定する

「**C**カスタム1」メニューの「4. 測光作動時間」で、測光タイマーの作動時間を10秒（初期設定）／3秒／30秒から設定できます。

露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影できます。
設定ステップは、「C カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で、1/3 EVステップまたは1/2 EVステップのいずれかを選びます。–5～+5（EV）の範囲で露出を補正できます。

1 ボタンを押しながら後電子ダイヤル（）を回す

露出が調整されます。

補正中はステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルにが表示されます。

⦿ボタンを押すと、露出補正値は0.0にリセットされます。
補正値を確認するときはボタンを押します。

露出モードを（グリーン）／B（バルブ露出）モードに設定しているときは、露出補正はできません。

- 露出補正の設定は、ボタンを 1 回押して指を離してから後電子ダイヤル（）を回して変更することもできます。この場合、もう一度ボタンを押すか、測光タイマー（p.104）がオフになると、露出補正値が確定します。
- 電源を切ったり、他の露出モードにしても露出補正は解除されません。

M／Xモードでの露出補正

M（マニュアル露出）／X（ストロボ同調速度）モードのときに、たとえば露出補正値を+1.5に設定すると、露出バーは1.5 EVアンダーの表示をします。露出バーのIが中心に表示されるよう露出値を設定すれば、補正した値で撮影ができます。

露出設定ステップを変更する

「C カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」で、露出設定のステップを1/3 EVか1/2 EVに設定できます。

1. 露出設定ステップ
1 1/3 EVステップ
2 1/2 EVステップ
露出設定ステップを
1/3 EVにします
MENU 取消　OK 決定

ステップ幅	露出設定値
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0／±3.3／±3.7／±4.0／±4.3／±4.7／±5.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0／±3.5／±4.0／±4.5／±5.0

露出を自動的に変化させて撮影するには

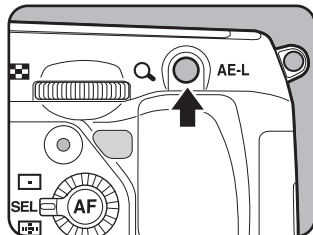
露出をアンダー側とオーバー側に補正した画像を自動的に連続して撮影する機能を「オートブラケット」といいます。1度に2枚／3枚／5枚の画像が撮影されます。「露出を変化させて撮影する（露出ブラケット）」（p.138）を参照してください。

撮影前の露出を記憶させる（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出を記憶させる機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどにお使いください。

1 露出を設定し、AE-Lボタンを押す

その時点の露出（明るさ）をカメラが記憶します。

AEロック中は、ステータススクリーン／ファインダー内に✱が表示されます。

- **AE-L**ボタンを押し続けたり、シャッターボタンを半押ししている間は露出が記憶され続けます。**AE-L**ボタンから指を離しても、測光タイマー（p.104）の2倍の時間は露出が記憶されています。
- **AE-L**ボタンを押すと、電子音が鳴ります。電子音が鳴らないように設定することもできます。（p.252）
- ■（グリーン）／**B**（バルブ露出）／**X**（ストロボ同調速度）モードでは、AEロックは利用できません。
- 以下のいずれかの操作を行うと、AEロックは解除されます。
  - 再度**AE-L**ボタンを押す
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す
  - モードダイヤルを回す
  - レンズを交換する
  - 絞り**A**（オート）位置のあるレンズを、絞り**A**位置以外にする
- 焦点距離によって開放F値が変わるズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。ただし露光量は変わりませんので、AEロックした時点の明るさで画像は撮影されます。
- フォーカスロック時に露出を固定できます。「**C**カスタム1」メニューの「5. AFロック時のAE-L」で設定します。（p.115）

ピントを合わせる

ピント合わせの方法には、以下の2つあります。

AF オートフォーカス	シャッターボタンを半押しすると自動的にピントを合わせます。
MF マニュアルフォーカス	マニュアルでピントを調整します。（p.116）

オートフォーカスを利用する

オートフォーカスには、シャッターボタンを半押ししてピントが合うとその位置に固定する**AF.S**（シングルモード）と、半押ししている間、被写体に合わせて常にピントを調整する**AF.C**（コンティニュアスモード）があります。工場出荷時は**AF.S**に設定されています。

1 フォーカスモードレバーをAF.S／Cに合わせる

<table>
<tr>
<td>AF.S
シングルモード</td>
<td>シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、その位置にピントを固定（フォーカスロック）します。ピントを合わせたい被写体が構図の中心にないときなどは、被写体をファインダーの中心にしてフォーカスロックしてから構図を調整します。
• 必要に応じてAF補助光が発光します。（p.109）
• 「Cカスタム3」メニューの「15. AF.Sの動作」で、シャッターボタンを全押ししたときの優先動作を設定します。
<table>
<tr><td>1</td><td>フォーカス優先</td><td>ピントが合うまでシャッターがきれません。（初期設定）
被写体に近づきすぎている場合は、離れた位置から撮影してください。オートフォーカスの苦手なものの場合は、マニュアルでピントを調整してください。（p.116）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>レリーズ優先</td><td>ピントが合っていなくても撮影できます。</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>AF.C（C）
コンティニュアスモード</td>
<td>シャッターボタンを半押ししている間、被写体に合わせて常にピントを調整します。ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ⬣ が点灯し、電子音が鳴ります。ピントが合っていなくてもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターがきれます。
• シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合、レンズが自動的に駆動し、常にピント合わせをし続けます。
• 「Cカスタム3」メニューの「16. AF.Cの動作」で、連続撮影時の優先動作を設定します。
<table>
<tr><td>1</td><td>フォーカス優先</td><td>被写体の追従を優先して連続撮影します。（初期設定）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>コマ速優先</td><td>撮影速度を優先して連続撮影します。</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>

AF補助光

「**C**カスタム3」メニューの「17. AF補助投光」で **AF.S** 時の補助光の発光について設定します。

1	オン	被写体が暗い場合に、シャッターボタンを半押しするとAF補助光が発光し、ピントを合わせやすくします。（初期設定）
2	オフ	AF補助光を発光しません。

AFボタンを使ってピントを合わせる

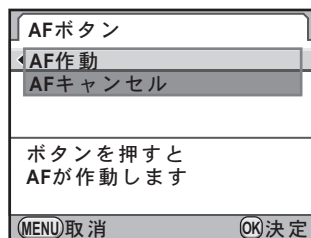
AFボタンを押したときにピント合わせをするように設定できます。

1 「📷撮影5」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「AFボタン」を選び、十字キー（▶）を押す

「AFボタン」画面が表示されます。

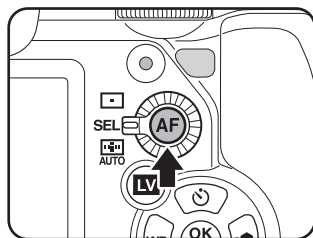
3 十字キー（▶）を押してから、十字キー（▲▼）で「AF作動」を選択する

AF作動	**AF**ボタンとシャッターボタンのどちらでもオートフォーカスができます。（初期設定）
AFキャンセル	**AF**ボタンを押している間は、ファインダー内に**MF**が表示され、シャッターボタンを押してもオートフォーカスしません（**AF**ボタンを離すと、通常のオートフォーカス撮影に戻ります）。

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを3回押す

撮影できる状態になります。

6 ファインダーをのぞきながらAFボタンを押す

ピント合わせが行われます。

AF.S シングルモード	**AF**ボタンを押してピントが合うと、ボタンを押し続けている間フォーカスロックが働きます。
AF.C コンティニアスモード	**AF**ボタンを押している間ピントを合わせ続けます。

7 シャッターボタンを押す

「ボタンカスタマイズ」の「シャッターボタン半押し」を「AF作動」に設定している場合は、**AF**ボタンを押したままシャッターボタンを押します。

撮影されます。

AF微調整

オートフォーカスでのピント位置を微調整できます。

- **AF微調整は、必要な場合のみ行ってください。また、調整をすることで適切なピントで撮影できなくなることがありますので、十分注意の上、ご利用ください。AF微調整が不要なときは「オフ」に設定してください。**
- テスト撮影の際、手ぶれすると正確なピント位置を確認しづらくなります。必ず三脚を使用してテスト撮影を行ってください。

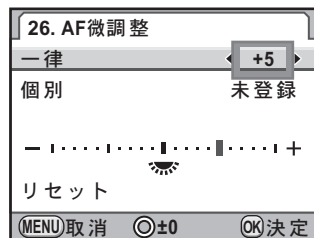
1 「Cカスタム4」メニューの「26. AF微調整」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「オン」を選び、十字キー（▶）を押す

「26. AF微調整」画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で一律／個別を選ぶ

一律	すべてのレンズで同じ調整値を適用します。
個別	レンズIDが取得できた場合に表示されます。レンズの種類ごとに調整値を登録／適用します。（最大20種類）
リセット	登録済みの調整値をリセットします。

4 十字キー（▶）を押してから調整する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▶）／ 後電子ダイヤル（）右（🔍）	前ピン方向に調整します。
十字キー（◀）／ 後電子ダイヤル（）左（⊞）	後ピン方向に調整します。
⦿ボタン	調整値を±0にリセットします。

5 OKボタンを押す

調整値が登録されます。

6 MENUボタンを3回押す

撮影モードに戻ります。

7 テスト撮影する

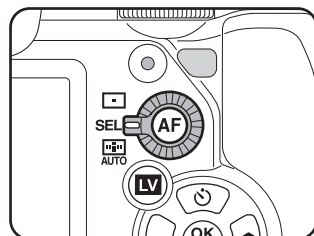
デジタルプレビュー（p.120）やライブビュー（p.146）の拡大表示を使用するとピント確認が容易にできます。

メモ

個別に調整値を登録してある場合でも、手順3で「一律」を選択した状態で**OK**ボタンを押すと、「個別」ではなく一律の調整値で動作します。

ピント合わせ位置（測距点）を選択する

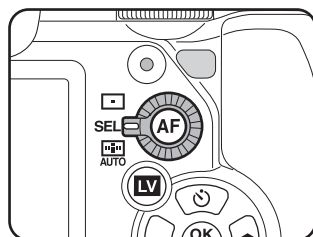
ファインダーのどの位置にピントを合わせるかを設定できます。工場出荷時は、AUTO（オート）に設定されています。
選択された測距点は、ファインダー内で赤く点灯します（スーパーインポーズ）。

⊡ 中央	ファインダー内の中央にピントを合わせます。
SEL セレクト	AFフレーム内の11の測距点から任意のエリアにピントを合わせます。
AUTO オート	被写体が中央になくても、自動的にファインダー内の最適な位置にピントを合わせます。「撮影1」メニューの「AF設定」の「測距点AUTO設定」で、測距点の数を11点（初期設定）／5点に変更できます。

1 測距点切替ダイヤルを回す

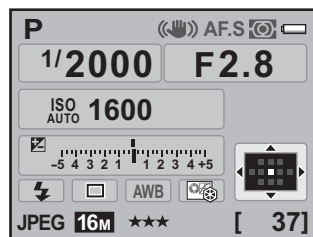
- 「C カスタム2」メニューの「14. スーパーインポーズ」で「オフ」を選択すると、ファインダー内に測距点が表示されません。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外では、設定にかかわらず測距点は⊡に固定されます。（p.297）

ファインダー内の任意の位置にピントを合わせる

1 測距点切替ダイヤルを SEL に合わせる

ファインダー内の[測距点]が点灯し、測距点が移動できるようになります。

2 ファインダーをのぞきながら、被写体の位置を確認する

3 十字キー（▲▼◀▶）で、測距点を設定する

ステータススクリーンには設定した測距点が表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

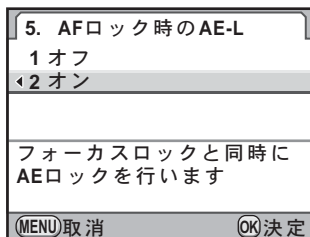
OK ボタン	測距点を中央に設定します。
OK ボタン長押し	測距点の移動を無効にし、十字キー（▲▼◀▶）をダイレクトキー操作に切り替えます。ダイレクトキー操作が有効のときに **OK** ボタンを押すと、測距点が移動できるようになります。有効／無効の切り替え時には電子音が鳴ります。

ファインダー内の測距点表示が赤く点灯（スーパーインポーズ）し、どの位置に設定したかが確認できます。

- 移動した測距点は、電源を切ったり、⊡／▦に変更しても記憶されています。
- 測距点が移動できるときは、ファインダー内の⊞が点灯します。
- 「📷撮影1」メニューの「AF設定」の「セレクトエリア拡大」を☑（オン）に設定すると、フォーカスモードが**AF.C**のときに設定した測距点の周囲の情報を利用してピント合わせを行います。利用される測距点は、ステータススクリーンにピンクで表示されます。

フォーカスロック時に露出値も固定する

「**C**カスタム1」メニューの「5. AFロック時のAE-L」を使ってフォーカスロック時に露出値を固定できます。

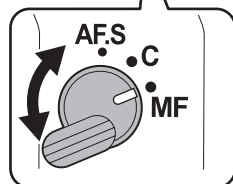
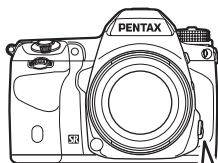
5. AFロック時のAE-L
1 オフ
2 オン
フォーカスロックと同時にAEロックを行います
MENU 取消　OK 決定

1	オフ	フォーカスロック時に露出値を固定しません。（初期設定）
2	オン	フォーカスロック時に露出値を固定します。

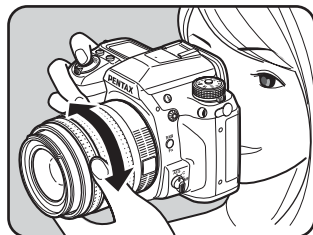
マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）

マニュアルでピントを調整するには、ファインダー内の合焦マークを利用する方法と、ファインダーのマット面を利用する方法があります。

合焦マークを利用する

マニュアルフォーカスでもピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク⬣が点灯します。
合焦マーク⬣を利用して、手動でピントを調整します。

1 **フォーカスモードレバーをMF に合わせる**

2 **ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを半押しにし、レンズの距離リングを回す**

ピントが合うとファインダー内の合焦マーク⬣が点灯し、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

- 被写体がオートフォーカスの苦手なものに該当し、合焦マークが点灯しないときは、ファインダーのマット面を利用したマニュアルフォーカスをしてください。
- 合焦時に電子音が鳴らないように設定できます。（p.252）

マット面を利用する

ファインダーのマット面を利用して、手動でピントを調整します。

1 **フォーカスモードレバーをMFに合わせる**

2 **ファインダーをのぞきながらファインダー内の像が最もはっきり見えるように、レンズの距離リングを回す**

キャッチインフォーカス撮影

「**C** カスタム4」メニューの「25. キャッチインフォーカス」を「オン」に設定すると、下記の条件にあてはまるレンズを取り付けて、フォーカスモードを**AF.S**に設定したときに、ピントが合うと自動的にシャッターがきれるキャッチインフォーカス撮影ができます。

- マニュアルフォーカスレンズ
- レンズ側で**AF**／**MF**の切り替えが可能なDA・FAレンズ（撮影前にレンズ側を**MF**に切り替えておきます）

● **撮影方法**

1 カメラにレンズを取り付ける
2 フォーカスモードレバーを**AF.S**に合わせる
3 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせる
4 シャッターボタンを押しきった状態にする
写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

撮影前に構図／露出／ピントを確認する（プレビュー）

プレビュー機能を利用すると、被写界深度・構図・露出・ピントなどを撮影前に確認できます。
プレビューは、以下の2つがあります。

プレビュー方式	確認方法
光学プレビュー	被写界深度をファインダーで確認します。
デジタルプレビュー	構図・露出・ピントなどを画像モニターで確認します。

画像モニターにリアルタイムで画像を表示し、表示中に設定を変更したり、拡大表示ができる「ライブビュー」で確認することもできます。（p.146）

プレビュー方式を設定する

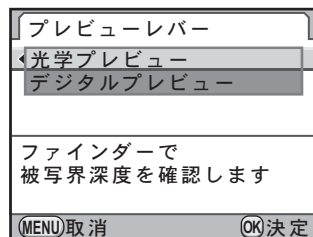
電源レバーをプレビュー位置（）に合わせたときに、光学プレビュー／デジタルプレビューのどちらを行うかを設定します。
初期設定では光学プレビューを行います。

1 「撮影5」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「プレビューレバー」を選び、十字キー（▶）を押す

「プレビューレバー」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押してから、十字キー（▲▼）で光学プレビュー／デジタルプレビューを選ぶ

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを3回押す

撮影できる状態になります。

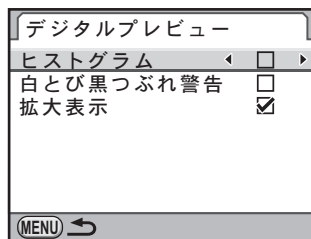
- ミラーアップ撮影／インターバル撮影／多重露出／ライブビュー撮影時は、設定にかかわらず光学プレビューになります。
- デジタルプレビューは**RAW**/**Fx**ボタンに割り当てることもできます。光学プレビューをプレビューレバーに割り当て、デジタルプレビューを**RAW**/**Fx**ボタンに割り当てておけば、簡単に両方の使い分けができます。**RAW**/**Fx**ボタンの機能の割り当ては、p.249を参照してください。

デジタルプレビューの表示を設定する

デジタルプレビューで、ヒストグラム／白とび黒つぶれ警告／拡大表示をするかどうかを設定します。

1 「撮影5」メニューの「デジタルプレビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

「デジタルプレビュー」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でヒストグラム／白とび黒つぶれ警告／拡大表示を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

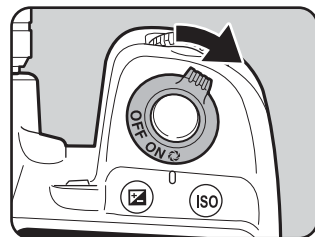
4 MENUボタンを2回押す

光学プレビューを表示する

1　撮りたいものにピントを合わせる

2　ファインダーをのぞきながら、電源レバーを ◎ に合わせる

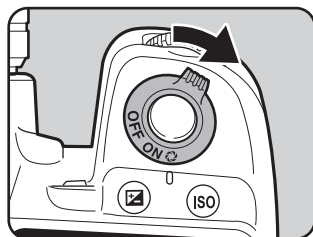
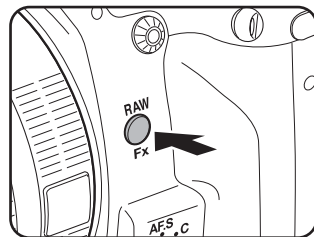
レバーを合わせている間、ファインダー内で被写界深度を確認できます。

この間、ファインダー内の撮影情報の表示は消え、シャッターはきれません。

3　電源レバーから指を離す

光学プレビューが終了し、撮影できる状態になります。

デジタルプレビューを表示する

1　撮りたいものにピントを合わせ、ファインダーで構図を決める

2　電源レバーを ◎ に合わせる

RAW/**Fx** ボタンにデジタルプレビューを割り当てているときは、**RAW**/**Fx** ボタンを押します。

画像モニターにプレビュー中を示すアイコン（）が表示され、構図・露出・ピントを確認できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（）	プレビュー画像を拡大表示します。（p.211）
AE-L ボタン	プレビュー画像を保存します。

3 シャッターボタンを半押しする

デジタルプレビューが終了し、カメラが合焦動作に入ります。

デジタルプレビューの表示時間は最長60秒です。

手ぶれを防いで撮影する

手ぶれ補正機能を利用する

手ぶれ補正機能（Shake Reduction）とは、シャッターボタンを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。
次のようなシーンでの撮影に適しています。

- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

手ぶれ補正には、縦・横方向の補正と傾きの補正があります。

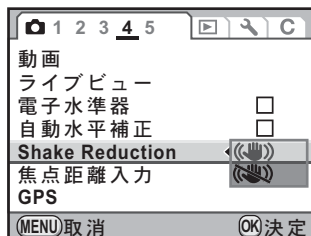
注意

- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによるぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれを補正しきれないことがありますので、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用して撮影することをお勧めします。
- 本機に装着できる当社製レンズであれば、手ぶれ補正機能が使用できます。ただし、焦点距離が自動取得できないレンズを使用している場合は、焦点距離を設定する必要があります。「焦点距離が自動検出されない場合」（p.124）を参照してください。

縦・横方向の手ぶれを補正する

1 「撮影4」メニューで「Shake Reduction」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で(手ぶれ補正オン)／(手ぶれ補正オフ)を切り替えてOKボタンを押す

(手ぶれ補正オン)	手ぶれ補正を行う（初期設定）
(手ぶれ補正オフ)	手ぶれ補正を行わない

3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

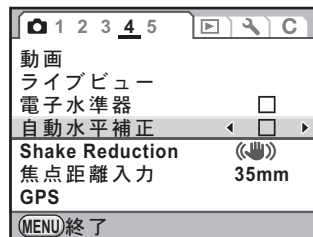
4 シャッターボタンを半押しする

ファインダー内に が表示され、手ぶれ補正機能が有効になります。

- 三脚を使用する場合や手ぶれ補正が必要ない場合は、Shake Reductionを （オフ）にしてください。
- 次のときには、Shake Reductionは自動的にオフになります。また、これらの機能が設定されているときは、Shake Reductionは選択できません。
  - **B**（バルブ露出）モード
  - セルフタイマー撮影
  - リモコン撮影
  - ミラーアップ撮影
  - HDR撮影で「自動位置調整」がオフに設定されているとき
  - ストロボをワイヤレスモードで使用するとき

画像の傾きを補正する

1 「撮影4」メニューで「自動水平補正」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

4 シャッターボタンを半押しする

ステータススクリーンには、次のマークが表示されます。

((✋))	Shake Reductionオン+自動水平補正オフ
((✋))	Shake Reductionオフ+自動水平補正オフ
((✋))	Shake Reductionオン+自動水平補正オン
((✋))	Shake Reductionオフ+自動水平補正オン

- カメラの電源を入れた直後やオートパワーオフからの復帰直後（それぞれ約2秒間）は、手ぶれ補正機能が安定していません。手ぶれ補正の効果を十分に得るには、手ぶれ補正機能の安定を待って、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください。シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に((✋))が点灯すれば撮影可能です。
- 本機に装着できる当社製レンズであれば、種類を問わず、手ぶれ補正機能が使用できます。ただし、絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、**A**位置のないレンズを装着した場合、「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しませんので、あらかじめ設定してください。なお、その場合は機能制限がありますので、「絞りリングの使用を許可する」（p.299）もあわせて参照してください。

焦点距離が自動検出されない場合

手ぶれ補正機能は、レンズの焦点距離などの情報を取得して動作します。ご使用のレンズがDA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズの場合は、手ぶれ補正機能を使用するときにレンズ焦点距離などの情報が自動的に取得されます。
レンズ焦点距離などの情報が取得できないレンズ（p.297）を使用している場合は、手動で設定する必要があります。

- レンズ焦点距離などの情報が取得できるレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面は表示されません。
- 絞り**A**位置がないレンズの場合および絞りを**A**位置から外して使用する場合は、「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」を「許可」に設定してください。（p.299）
- 手ぶれ補正の効果は、焦点距離の情報だけでなく撮影距離にも影響されます。近距離での撮影には十分な効果が現れない場合があります。

4 いろいろな撮影

1 「Shake Reduction」が((✋))（オン）に設定されていることを確認し、電源を切る

「縦・横方向の手ぶれを補正する」（p.122）を参照してください。

2 レンズを装着し、電源を入れる

「焦点距離入力」画面が表示されます。

3 後電子ダイヤル（ ）でレンズ焦点距離を設定する

レンズ焦点距離は以下から選択します。（初期設定：35mm）

8	10	12	15	18	20	24	28	30	35
40	45	50	55	65	70	75	85	100	120
135	150	180	200	250	300	350	400	450	500
550	600	700	800						

- ご使用のレンズの焦点距離が上記にない場合は、最も近い値（例：17mmの場合は「18」、105mmの場合は「100」）を設定してください。
- ズームレンズを使用している場合は、ズーム撮影時の実際の焦点距離を設定してください。

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

レンズ焦点距離の設定を変更する場合は、「撮影4」メニューの「焦点距離入力」で設定します。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマー（12秒）	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
セルフタイマー（2秒）	シャッターボタンを押すとすぐにミラーがアップし、約2秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを避けて撮影するときに使います。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で⏲を選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で⏲／⏲2sを選ぶ

5 OK ボタンを押す

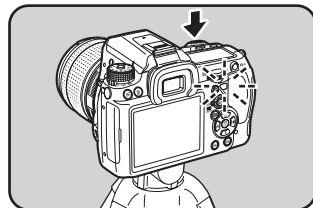
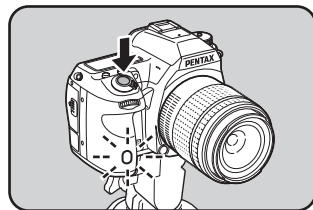
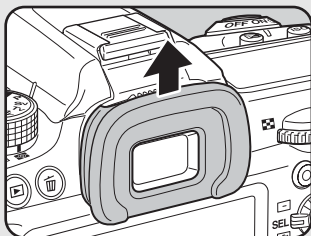
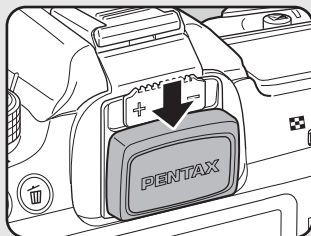
撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。

7 シャッターボタンを全押しする

⏲の場合、カメラ正面／背面のセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを全押ししてから、約12秒後にシャッターがきれます。

⏲2sの場合は、約2秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマー撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、⏲／⏲2s以外のモードに切り替えてください。なお「📷撮影5」メニューの「モードメモリ」で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。（p.274）
- ⏲／⏲2sに設定すると、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- セルフタイマーの電子音が鳴らないように設定できます。（p.252）
- セルフタイマー撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.107）や付属のMEファインダーキャップをご利用ください。露出モードを**M**（マニュアル露出）に設定している場合はファインダーから入る光は影響しません。

アイカップFRを取り外す

MEファインダーキャップを取り付ける

リモコン（別売）を使って撮影する

別売のリモコンを使うと、カメラから離れたところから撮影できます。

リモコン	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
リモコン（3秒後レリーズ）	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターがきれます。
リモコン連続撮影	リモコンのシャッターボタンを押すと、連続撮影がスタートします。もう一度リモコンのシャッターボタンを押すと、連続撮影が終了します。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で 🔘 を選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で 🔘 ／🔘3s ／🔘 を選ぶ

表示パネルに ■◎)) が表示され、セルフタイマーランプが点滅してリモコン待機状態になります。

5 OK ボタンを押す

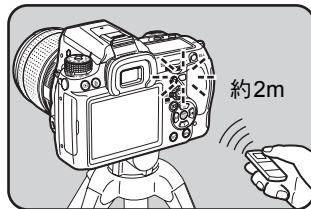
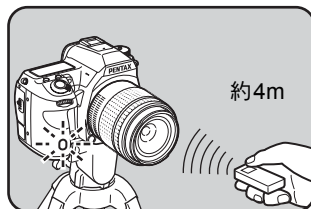
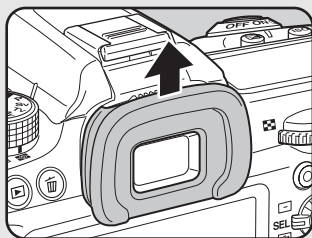
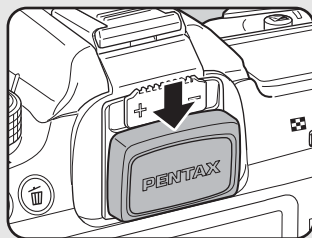
撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。

7 リモコンをカメラ正面／背面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約4m、背面から約2mです。

撮影が終了すると、セルフタイマーランプが2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

- 初期設定では、リモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてから、リモコン操作をしてください。「**C** カスタム3」メニューの「18. リモコン時のAF」で、リモコンでピント合わせができるように設定することもできます。（ライブビュー中は、リモコンでAF動作はできません。）
- リモコン撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、 ／ ／ 以外のモードに切り替えてください。なお「撮影5」メニューの「モードメモリ」で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。（p.274）
- ／ ／ に設定すると、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- リモコン撮影をするときは、ファインダーから入る光が露出に影響を与えることがありますので、AEロック機能（p.107）や付属のMEファインダーキャップをご利用ください。露出モードを**M**（マニュアル露出）に設定している場合はファインダーから入る光は影響しません。

アイカップFRを取り外す

MEファインダーキャップを取り付ける

- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- 防水リモートコントロールO-RC1を使用した場合は、ボタンでAF動作ができます。**Fn**ボタンは機能しません。
- リモートコントロールFは、約30,000回リモコン送信ができます。電池の交換（有料）については当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。

ミラーアップして撮影する

三脚などに固定してリモコンやケーブルスイッチなどを使ってもまだカメラぶれが気になるときは、ミラーアップ機能を使う方法があります。
ミラーアップ撮影は、シャッターボタンを押してまずミラーのみアップし、もう一度シャッターボタンを押してシャッターをきります。

M.UP	ミラーアップ	シャッターボタンでミラーアップ撮影します。
M.UP（リモコン）	ミラーアップ+リモコン	リモコンを使用してミラーアップ撮影します。リモコンの動作は、即レリーズ（p.127）になります。

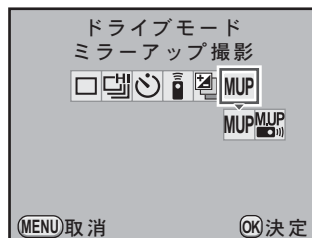
1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でM.UPを選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）でM.UP／M.UP（リモコン）を選ぶ

ステータススクリーン／表示パネルにM.UPが表示されます。

5 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。

7 シャッターボタンを全押しする

ミラーがアップし、電子音が鳴ります。露出値はミラーアップ直前の値でAEロックされます。

8 もう一度シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれ、撮影されます。

- ミラーアップ撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、M.UP／M.UP以外のモードに切り替えてください。なお「撮影5」メニューの「モードメモリ」で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。（p.274）
- 一度目のシャッターでミラーアップしたあと 1 分経過すると、自動的にミラーが元に戻ります（多重露出時を除く）。
- M.UP／M.UPに設定すると、「Shake Reduction」は自動的にオフになります。
- ミラーアップの電子音が鳴らないように設定できます。（p.252）

連続して撮影する

連続撮影

連続撮影では、シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターがきれます。

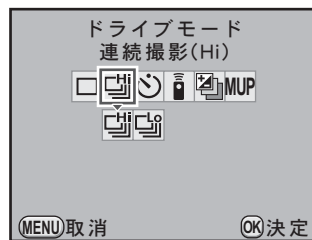
連続撮影（Hi）	16M・★★★のJPEG画像の場合、最高約7.0コマ/秒で連続撮影します。一度に撮影できるのは、最大約30コマまでです。
連続撮影（Lo）	16M・★★★のJPEG画像の場合、最高約1.6コマ/秒で、SDメモリーカードの容量いっぱいまで連続して撮影します。

記録形式がRAW形式（PEF）の場合、は最大約20コマ、は最大約40コマまで連続撮影できます。

1 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／を選ぶ

4 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。

6 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影されます。シャッターボタンから指を離すと、連続撮影は終了します。

- フォーカスモードが **AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、最初の合焦位置にピントが固定され、等間隔に撮影されます。
- フォーカスモードが **AF.C**（コンティニュアスモード）に設定されている場合は、連続撮影中も常にピント合わせが行われます。
- リモコンを使用して連続撮影をすることもできます。（p.127）
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。「**C** カスタム3」メニューの「20. 充電中のレリーズ」で、充電中でもシャッターがきれるように設定できます。（p.71）
- 連続撮影を解除したいときは、「ドライブモード」画面で、▢／▢以外のモードに切り替えてください。なお「▢撮影5」メニューの「モードメモリ」で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。（p.274）
- 「レンズ補正」（p.193）をオンに設定すると、撮影速度が遅くなる場合があります。

インターバル撮影

インターバル撮影では、指定した時刻に等間隔で自動撮影ができます。

- 以下のときは、インターバル撮影は選択できません。
  - 露出モードが▢（グリーン）／**B**（バルブ露出）／**USER**／▢（動画）になっているとき
  - 拡張ブラケット／デジタルフィルター／HDR撮影が設定されているとき
- インターバル撮影を設定すると、多重露出は設定できません。

1 「▢撮影2」メニューの「インターバル撮影」を選び、十字キー（▶）を押す

「インターバル撮影」画面が表示されます。

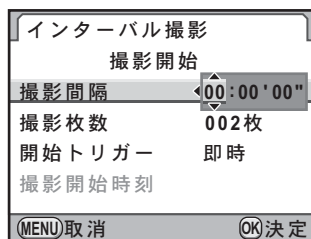
2 十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選ぶ

インターバル撮影
撮影開始
撮影間隔 00:00'00"
撮影枚数 002枚
開始トリガー 即時
撮影開始時刻
MENU 取消 OK 決定

2枚以上撮影する場合の待機時間を設定します。

十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定します。

設定できる時間は24時間00分00秒までです。

設定が終わったら、**OK**ボタンを押します。

3 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を選ぶ

撮影する枚数を設定します。

十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で枚数を設定します。

設定できる枚数は1～999枚です。

設定が終わったら、**OK**ボタンを押します。

4 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選ぶ

1枚目を撮影する時間を設定します。

十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を切り替えます。

即時	すぐに撮影が開始されます。撮影枚数は2枚～になります。
時刻指定	指定した時刻に撮影が開始されます。十字キー（▼）を押して「撮影開始時刻」を選び、十字キー（◀▶）で時／分を選んで十字キー（▲▼）で開始時刻を設定します。

5 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

撮影中は、このときのピント位置にフォーカスロックされます。

7 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、1枚目が撮影されます。「時刻指定」の場合は、設定した時刻に撮影が開始されます。

2枚以上撮影する場合は、手順2で設定した撮影間隔で撮影されます。

撮影を途中で終了する場合は、**MENU**ボタンを押します。

設定した枚数の撮影が終了すると、「インターバル撮影を終了しました」と表示され、通常の撮影待機状態に戻ります。

- 撮影の途中でモードダイヤルまたは電源レバーを回すと、それまで撮影した画像が保存されてインターバル撮影が終了します。
- ドライブモードの設定にかかわらず、「1コマ撮影」となります。
- フォーカスモードが**AF.S**（シングルモード）でピントが合わないとき、「撮影間隔」が短くて直前の画像処理が終了していないときなどは、撮影されない場合があります。
- 撮影されるごとにクイックビューが表示されますが、拡大表示／消去／バッファ RAW保存はできません。
- SDメモリーカードの空き容量がなくなると、インターバル撮影は終了します。
- オートパワーオフにより一度電源が切れた場合でも、撮影時刻が近づくと自動的に電源が入ります。
- 長時間インターバル撮影をするときは、ACアダプターキット（別売）のご使用をお勧めします。（p.52）

多重露出

任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。

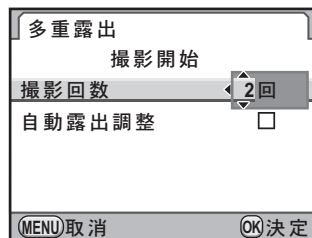
注意
- 以下のときは、多重露出は選択できません。
  - 露出モードが■（グリーン）／🎥（動画）になっているとき
  - 拡張ブラケット／デジタルフィルター／ HDR 撮影／クロスプロセスのいずれかが設定されているとき
- 多重露出を設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 露出ブラケット／インターバル撮影との併用（あとから設定した機能が有効）
  - レンズ補正

1 「📷撮影2」メニューで「多重露出」を選び、十字キー（▶）を押す

「多重露出」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影回数」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で撮影回数を選ぶ

2～9回が選択できます。

4 OK ボタンを押す

5 十字キー（▲▼）で「自動露出調整」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑（オン）にすると撮影回数に応じて自動的に露出補正を行います。

6 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

7 シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。

8 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを1回押すごとに合成された画面がクイックビューに表示されます。クイックビュー表示中に🗑ボタンを押すと、それまでに撮影した画像を破棄して、1回目から撮影をやり直すことができます。

設定した回数の撮影が終了すると画像が保存され、「多重露出」画面に戻ります。

- 撮影の途中で次のいずれかの操作を行うと、それまで撮影した画像が保存されて多重露出が終了します。
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／十字キー（▲▼◀▶）／**INFO**ボタン／**RAW/Fx**ボタンのいずれかを押す
  - モードダイヤルを回す
- ライブビューで多重露出撮影をした場合は、撮影済みの合成画像が半透過されて表示されます（AV機器と接続中は表示できません）。

設定を段階的に変化させて撮影する（オートブラケット）

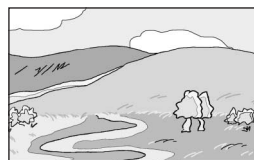
設定を段階的に変化させて自動で撮影する機能を「オートブラケット」といいます。オートブラケットには「露出ブラケット」と「拡張ブラケット」があります。
ブラケット撮影される順番は「**C**カスタム2」メニューの「8. ブラケット撮影順」で設定します。

1	0 – +	標準 → アンダー → オーバー（初期設定）
2	– 0 +	アンダー → 標準 → オーバー
3	+ 0 –	オーバー → 標準 → アンダー
4	0 + –	標準 → オーバー → アンダー

露出を変化させて撮影する（露出ブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出が異なる画像を連続して撮影します。2枚（標準・+側）／2枚（標準・-側）／3枚／5枚の撮影ができます。3枚撮影の場合、初期設定では1枚目は補正なしの画像、2枚目はアンダー露出（マイナス補正）の画像、3枚目はオーバー露出（プラス補正）の画像を撮影します。

標準露出

アンダー露出

オーバー露出

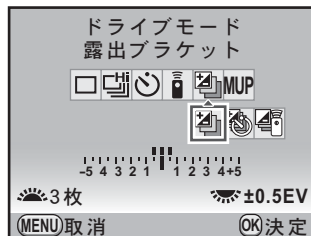
注意

- 以下のときは、露出ブラケット撮影はできません。
  - 露出モードが**B**（バルブ露出）に設定されているとき
  - HDR撮影が設定されているとき
- 露出ブラケットと多重露出を併用することはできません。あとから設定した方が有効になります。

1 撮影モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／／を選ぶ

	露出ブラケット	シャッターボタンで撮影します。
	露出ブラケット+セルフタイマー	タイマーで撮影します。タイマーの動作はセルフタイマー（p.125）の設定に従います。
	露出ブラケット+リモコン	リモコンで撮影します。リモコンの動作はリモコン（p.127）の設定に従います。（リモコン連続撮影）に設定されている場合は、即レリーズになります。

4 前電子ダイヤル（）を回して撮影枚数を設定する

2枚（+側）／2枚（-側）／3枚／5枚から選びます。

5 後電子ダイヤル（）を回してブラケット幅を設定する

最初に撮影される値が点滅表示されます。
「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」（p.106）で設定したステップ幅によって、下記のブラケット幅が設定できます。

ステップ幅	ブラケット幅
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0

ボタン・ダイヤル等の操作

ボタン+ 後電子ダイヤル（）	オーバー方向、またはアンダー方向のみの露出ブラケット撮影を行う場合に、露出を補正します。露出補正値を「0」（中間値）として撮影します。（最大±8 EVまで）
⦿ボタン	補正値を±0にリセットします。

6 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

7 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、ファインダー内の合焦マーク ● が点灯し、ステータススクリーン／ファインダー内／表示パネルに露出補正値が表示されます。

8 シャッターボタンを全押しする

指定した枚数の撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続けます。「**C** カスタム2」メニューの「8. ブラケット撮影順」で設定した順番に補正して、画像が連続撮影されます。

- フォーカスモードが **AF.S**（シングルモード）に設定されているときは、1枚目のピント位置にフォーカスロックされます。
- 撮影途中でシャッターボタンから指を離しても、測光タイマー（p.104）の2倍（初期設定：約20秒）は設定値が保持され、次の補正値で撮影できます。この場合、各コマごとにピント合わせが行われます。測光タイマーの2倍を過ぎると、1枚目からの撮影状態に戻ります。
- 「**C** カスタム2」メニューの「9. ワンプッシュブラケット」を「オン」に設定すると、シャッターボタンを全押しし続けなくても、1回のレリーズで自動的にすべてのコマが撮影されます。
- 内蔵ストロボ、または外付けストロボ（P-TTLオートの場合のみ）と露出ブラケット撮影を併用することで、ストロボの光量だけを連続的に変化させることができます。ただし、外付けストロボでは、カメラのシャッターボタンを押したまま連続して撮影すると、充電完了前に次のコマが撮影されてしまうことがあるので、必ず1コマごとに充電完了を確認してから撮影してください。
- 露出ブラケットを解除したいときは、「ドライブモード」画面で、／／以外のモードに切り替えてください。なお「撮影5」メニューの「モードメモリ」で、「ドライブモード」を□（オフ）にしておけば、カメラの電源を切ったときに、設定が解除されます。（p.274）
- 露出ブラケットを頻繁に使用する場合は、**RAW**/**Fx** ボタンに割り当てて利用することもできます。（p.249）

その他の設定を変化させて撮影する（拡張ブラケット）

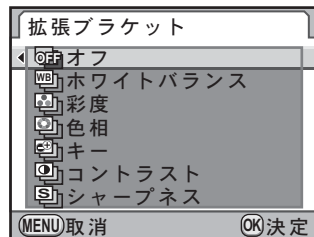
ホワイトバランス／彩度／色相／キー／コントラスト／シャープネスの任意の項目を3段階に変化させた画像を保存します。
露出ブラケットとは異なり、1回のレリーズで3枚保存します。

注意
- 拡張ブラケットを設定した場合、記録形式は常にJPEGになり、変更できません。また、記録形式がRAW／RAW+に設定されている場合は、拡張ブラケットを選択できません。
- 拡張ブラケットを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - インターバル撮影／多重露出
  - クロスプロセス／デジタルフィルター／ HDR 撮影との併用（あとから設定した機能が有効）

1 「撮影2」メニューで「拡張ブラケット」を選び、十字キー（▶）を押す

「拡張ブラケット」画面が表示されます。

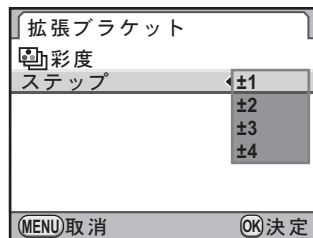
2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で設定したい項目を選び、OKボタンを押す

4 十字キー（▲▼）で「ステップ」を選び、十字キー（▶）を押す

5　十字キー（▲▼）でステップを選び、OKボタンを押す

±1（初期設定）／±2／±3／±4から選びます。

「ホワイトバランス」の場合は、BA±1（初期設定）／BA±2／BA±3／GM±1／GM±2／GM±3から選びます。

拡張ブラケット
彩度
ステップ　±1
±2
±3
±4
MENU 取消　OK 決定

6　MENUボタンを2回押す

撮影モードに戻ります。

7　シャッターボタンを半押しする

カメラが合焦動作に入ります。

8　シャッターボタンを全押しする

3枚の画像が保存されます。

- 露出ブラケットと拡張ブラケットは併用できます。その場合、露出ブラケットの1回のレリーズに対して拡張ブラケットが適用された3枚の画像が保存されます。
- カスタムイメージの「画像仕上」によって設定できないパラメーターは、拡張ブラケットでも選択できません。（例：画像仕上が「モノトーン」に設定されている場合、彩度／色相の拡張ブラケットは選択不可）（p.197）
- カスタムイメージでファインシャープネス／エクストラシャープネスが有効になっている場合、拡張ブラケットのシャープネスもファインシャープネス／エクストラシャープネスとして動作します。
- カスタムイメージで「コントラスト」の詳細設定が有効になっている場合、拡張ブラケットのコントラストもその設定に応じた動作をします。

デジタルフィルターを使って撮影する

フィルターをかけて撮影します。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像を撮影します。	シェーディング強度：弱／中／強
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
レトロ	古い写真のような画像を撮影します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太
ハイコントラスト	コントラストを強くして撮影します。	+1～+5
色抽出	特定の1色または2色だけを抽出し、他の部分を白黒で撮影します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：+1～+5
		抽出色2：OFF／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：+1～+5
ソフト *1	全体をぼかしたようなやわらかい画像を撮影します。	ソフトフォーカス：弱／中／強
		シャドーぼかし：OFF／ON
トゥインクル *1	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部に光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	形状：クロス／星／雪の結晶／ハート／音符
		個数：少／中／多
		大きさ：小／中／大
		角度：0／30／45／60°
フィッシュアイ *1	魚眼レンズで撮影したような画像を撮影します。	弱／中／強

フィルター名	効果	パラメーター
カスタム [*1]	好みのフィルターを作成して保存できます。	ハイコントラスト：OFF／+1～+5
		ソフトフォーカス：OFF／+1～+3
		トーンブレイク：OFF／レッド／グリーン／ブルー／イエロー
		シェーディングタイプ：6種類
		シェーディング強度：-3～+3
		ディストーションタイプ：3種類
		ディストーション強度：OFF／弱／中／強
		ネガポジ反転：OFF／ON
カラー [*2]	選択したカラーフィルターをかけて撮影します。	カラー：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：淡／中／濃

*1 露出モードが（動画）のときは選択できません。
*2 露出モードが（動画）のときのみ選択できます。

- デジタルフィルターを設定した場合、記録形式は常にJPEGになり、変更できません。また、記録形式がRAW／RAW+に設定されている場合は、デジタルフィルターを選択できません。
- デジタルフィルターを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - インターバル撮影／多重露出／連続撮影
  - 拡張ブラケット／HDR撮影との併用（あとから設定した機能が有効）

フィルターによっては、画像の保存に時間がかかることがあります。

1 「撮影2」メニューの「デジタルフィルター」を選び、十字キー（▶）を押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

電源を入れてから撮影した画像がある場合は、直前の画像が背景に表示されます。

2 十字キー（◀▶）でフィルターを選択する

3 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）でパラメーターの値を調整する

ボタン・ダイヤル等の操作

電源レバー（ ）	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで確認します。（露出モードが （動画）のときは無効）
AE-L ボタン	背景画像を保存します。

4 OK ボタンを押す

「 撮影2」メニューに戻ります。

5 MENU ボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 露出モードが （動画）のときは、「 撮影4」メニューの「動画」で設定します。（p.152）
- デジタルフィルター撮影を終了するときは、手順2で「フィルターオフ」を選択します。
- JPEG／RAW画像は、撮影後にデジタルフィルターで加工することもできます。（p.233）

ライブビューを利用して撮影する

画像モニターにリアルタイムで画像を表示して撮影できます。

- 低輝度または高輝度の撮影条件の場合、ライブビュー画像と撮影結果が異なる場合があります。
- ライブビュー中に撮影光源が変化すると、画面がちらつくことがあります。
- ライブビュー中にカメラの向きを変えるなどの急激な変化があると、適切な明るさで表示されない場合があります。表示が安定するのを待ってから撮影してください。
- 暗い場所ではライブビュー画像にノイズが生じる場合があります。
- ISO感度を高くすると、ノイズや色ムラが生じる場合があります。
- ライブビューの表示時間は最長5分です。5分経過してライブビューが解除されたときは、LVボタンを押すとライブビューが再開します。
- 長時間ライブビューで撮影を行うとカメラ内部の温度が上がり、画質が低下することがあります。撮影しないときは、ライブビューをこまめに停止するようにしてください。画質低下を軽減するため、長時間露光や動画撮影時は撮影の間隔をあけ、カメラ内の温度が上昇しないようにしてください。
- カメラ内部の温度が高いと🌡（温度警告）が表示され、ライブビューが表示できない場合があります。その場合は撮影を中断するか、ファインダーを使用して撮影してください。

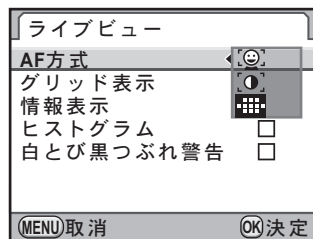
- ライブビュー中は、ファインダー内は表示されません。
- 画像モニターを見ながらの手持ち撮影は、カメラぶれの原因となります。三脚の使用をお勧めします。
- 画像表示の視野率は、ほぼ100％です。
- 付属のAVケーブルや市販のHDMIケーブルを使用して、テレビ等にライブビュー画像を表示できます。（p.224）
- SDメモリーカードへのデータ記録中は、ライブビューは表示できません。

ライブビュー撮影の設定をする

ライブビュー中の表示とオートフォーカス方式を設定します。

1 「📷 撮影 4」メニューの「ライブビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

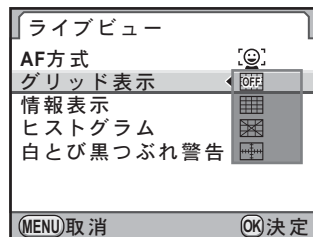
「ライブビュー」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でオートフォーカスの方式を選択する

顔検出AF	検出した顔に優先的にオートフォーカスを行いながら、コントラストAFを行います。検出したメインの顔には黄色（他の顔には白）の枠が表示され、メインの顔に対してオートフォーカスと自動露出が行われます。（初期設定） フォーカスモードが**MF**になっているときは、顔検出は行われません。
コントラストAF	ライブビューを継続しながら撮像素子から得られる情報をもとにオートフォーカスを行います。
位相差AF	ライブビューを中断し、AFセンサーがオートフォーカスを行います。 ライブビュー中にシャッターボタンを半押しすると、ライブビュー画像の表示がいったん消えてオートフォーカスが行われます。ピントが合うと再びライブビュー画像が表示されます。

3 OKボタンを押す

4 十字キー（▲▼）で「グリッド表示」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲▼）でグリッド表示の種類を選択してOKボタンを押す

オフ（初期設定）／▦（16分割）／▩（黄金分割）／▤（スケール）が選択できます。

6 十字キー（▲▼）で情報表示／ヒストグラム／白とび黒つぶれ警告を選ぶ

7 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

8 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ

AF方式の☺／◑は、▦に比べてピントが合うまでに時間がかかります。また、次のような条件のときは、ピントが合いにくくなります。

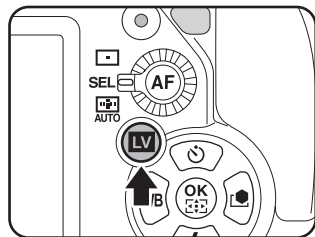
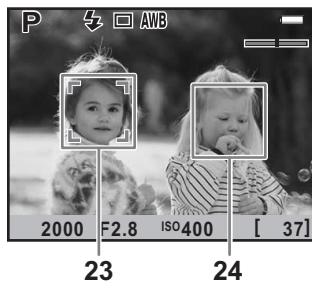
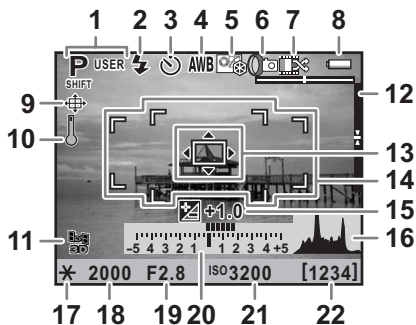
- コントラストがない被写体
- 横縞など縦方向のコントラストがないもの
- 噴水など明るさや形、色などが常に変化するもの
- 距離が変化しているもの
- 小さな被写体
- 遠近が混在している被写体
- 特殊フィルターを装着しているとき
- 被写体が画面の端にあるとき

静止画を撮影する

1 露出モードを設定する

モードダイヤルを🎥以外のいずれかに合わせます。

2 LV ボタンを押す

ミラーアップされ、画像モニターにリアルタイムで映像が表示されます。もう一度 LV ボタンを押と、ライブビューが終了します。

ライブビューの表示
（説明のため全項目を表示しています。）

1	露出モード	**8**	バッテリー残量
2	ストロボモード	**9**	構図微調整中
3	ドライブモード	**10**	温度警告
4	ホワイトバランス	**11**	GPS測位状態
5	カスタムイメージ	**12**	電子水準器
6	拡張ブラケット／多重露出／インターバル撮影／デジタルフィルター／HDR 撮影	**13**	コントラストAF枠
		14	位相差AF のAF フレーム／測距点
7	多重露出撮影回数／クロスプロセス	**15**	露出補正
		16	ヒストグラム

17	AEロック	**21**	ISO感度
18	シャッター速度	**22**	撮影可能枚数
19	絞り値	**23**	メイン顔検出枠（顔検出AF）
20	露出バー	**24**	顔検出枠（顔検出AF）

※ 9は、「撮影2」メニューの「構図微調整」（p.195）で調整後にライブビューに移行したときに表示されます。
※ 11は別売のGPSユニットを装着し、GPSユニットが動作している場合のみ表示されます。（p.305）
※ 12は、電子水準器の表示を☑（オン）に設定している場合に表示されます。（p.262）
※ 14のAFフレームは、ライブビュー中は白で表示され、ピントが合うと緑色の四角枠になります。ピントが合わなかったときは、赤色になります。フォーカスモードが**MF**になっているときは表示されません。
※ 18・19・21が変更できるときは、その数値の前に▶が表示されます。
※ 23・24は、AF方式を顔検出に設定して顔を検出した場合に表示されます。ピントが合うと緑、合わなかったときは赤で枠が表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

INFOボタン	拡大表示します。 （フォーカスモード**AF**時）2／4／6倍 （フォーカスモード**MF**時）2／4／6／8／10倍
⦿ボタン	（拡大表示中）移動した表示範囲を中央に戻します。
OKボタン長押し *1	十字キー（▲▼◀▶）の機能を、測距点移動／ダイレクトキー操作に切り替えます。
OKボタン *1	（測距点移動有効時）測距点を中央に戻します。
十字キー（▲▼◀▶）	（測距点移動有効時）測距点を移動します。 （拡大表示中）表示範囲を移動します。

*1 AF方式が顔検出／追尾でフォーカスモードが**AF.S**のとき、または測距点が**SEL**（セレクト）に設定されているときのみ有効

3 画像モニターに被写体を入れ、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

フォーカスモードが**MF**になっているときは、レンズの距離リングを回してピントを合わせます。

4 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- フォーカスモードが**AF.C**でAF方式が[◐]の場合、オートフォーカス開始時は画面中央でピントを合わせ、合焦すると自動追尾を行います。AF方式が[☺]の場合は、検出した顔を自動追尾します。
- 拡大表示で撮影しても、通常のサイズで記録されます。
- ライブビュー中に電源レバーを◎にすると、画像モニターで被写界深度が確認できます。

ライブビュー中は、ステータススクリーンとコントロールパネルは表示できません。設定を変更するときは、**MENU**ボタンを押して各メニューから設定してください。

動画を撮影する

動画もライブビューで撮影できます。

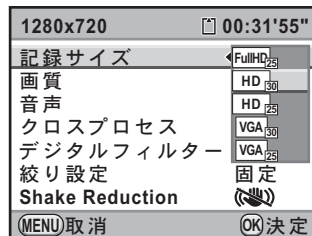
動画の設定を変更する

動画の音声はモノラル、ファイル形式はAVIです。

1 「📷撮影4」メニューの「動画」を選び、十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で記録サイズを選択してOKボタンを押す

1280x720 00:31'55"
記録サイズ FullHD25
画質 HD30
音声 HD25
クロスプロセス VGA30
デジタルフィルター VGA25
絞り設定 固定
Shake Reduction
MENU取消 OK決定

記録サイズ	画素数	アスペクト比	フレームレート
FullHD	1920×1080	16：9	25fps
HD （初期設定）	1280×720	16：9	30fps
HD	1280×720	16：9	25fps
VGA	640×480	4：3	30fps
VGA	640×480	4：3	25fps

3 十字キー（▲▼）で「画質」を選び、十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）で画質を選択してOKボタンを押す

★★★（スーパーファイン、初期設定）／★★（ファイン）／★（エコノミー）から選択します。

記録サイズ／画質を変更すると、その設定で撮影できる時間が画面右上に表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「音声」を選び、十字キー（▶）を押す

6 十字キー（▲▼）で／を切り替えてOKボタンを押す

	音声を録音する（初期設定）
	音声を録音しない

7 必要に応じてクロスプロセス／デジタルフィルターを設定する

設定の詳細については、クロスプロセスはp.200、デジタルフィルターはp.143を参照してください。

8 十字キー（▲▼）で「絞り設定」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（▲▼）で固定／オートを選択してOKボタンを押す

固定	撮影開始前に設定した任意の絞り値で撮影する（初期設定）
オート	自動で絞りを制御する

10 十字キー（▲▼）で「Shake Reduction」を選び、十字キー（▶）を押す

11 十字キー（▲▼）で／を選択してOKボタンを押す

	手ぶれ補正を行う
	手ぶれ補正を行わない（初期設定）

12 MENUボタンを2回押す

動画が撮影できる状態になります。

マイクを接続する

マイク端子に市販のステレオマイクを接続すると、音声がステレオで録画できます。また外部マイクを利用すると、カメラの動作音などが録音されることを軽減できる場合があります。

外部マイクは、以下の仕様を推奨します。
- プラグ　　　　　　ステレオミニ（Φ3.5mm）
- 形式　　　　　　　ステレオ エレクトレットコンデンサ
- 電源　　　　　　　プラグインパワー方式（動作電圧2.0V以下）
- インピーダンス　　2.2kΩ

1 カメラの電源を切る

2 マイク端子のカバーを開け、マイクのプラグをマイク端子に接続する

3 カメラの電源を入れる

撮影中に外部マイクを外すと、撮影終了まで内蔵マイクには切り替わりません。無音となりますので、ご注意ください。

外部マイクを利用してステレオ録音した場合、市販のHDMIケーブルを用いて対応のAV機器に出力すると、音声がステレオで再生されます。AVケーブルでビデオ出力した場合は、モノラルで再生されます。（p.224）

動画を撮影する

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

動画撮影用のライブビューが表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（⌒）	「絞り設定」が「固定」に設定されているときに、絞り値を変更します。（初期設定）
⦿ボタン	絞り値を適正露出にします。（初期設定） （拡大表示中）移動した表示範囲を中央に戻します。
☒ボタン+ 後電子ダイヤル（⌒）	露出を補正します。（±2 EVまで）
INFOボタン	拡大表示します。 （フォーカスモード**AF**時）2／4／6倍 （フォーカスモード**MF**時）2／4／6／8／10倍
OKボタン長押し *1	十字キー（▲▼◀▶）の機能を、測距点移動／ダイレクトキー操作に切り替えます。
OKボタン *1	（測距点移動有効時）測距点を中央に戻します。

十字キー（▲▼◀▶）	（測距点移動有効時）測距点を移動します。 （拡大表示中）表示範囲を移動します。

*1 AF方式が[顔検出]／[追尾]でフォーカスモードが**AF.S**のとき、または測距点が**SEL**（セレクト）に設定されているときのみ有効

2 画像モニターに被写体を入れ、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

フォーカスモードが**MF**になっているときは、レンズの距離リングを回してピントを合わせます。

3 シャッターボタンを全押しする

動画の撮影が開始されます。

4 もう一度シャッターボタンを押す

撮影が終了します。

- 動画の音声が 🔊（オン）になっている場合、カメラの動作音なども録音されます。動画を撮影するときは三脚などで固定し、撮影中はカメラを操作しないようにしてください。
- 動画撮影中は、オートフォーカスは動作しません。
- ストロボは使用できません。
- デジタルフィルターなどの画像処理を設定して撮影した場合、部分的にコマが抜けて記録されることがあります。
- 動画撮影中にカメラ内部が高温になったときは、回路保護のため強制終了する場合があります。

- 動画は最大4GB、または最長25分まで連続して撮影できます。SDメモリーカードがいっぱいになると撮影を中断し、保存されます。
- 🎥モードでの画面表示は「📷撮影4」メニューの「ライブビュー」の設定に従います。（p.147）ただし白とび黒つぶれ警告は、撮影中は表示されません。
- 前／後電子ダイヤルと ⦿ ボタンを操作したときにどのように動作するかを設定できます。（p.247）
- 長時間撮影するときは、ACアダプターキット（別売）のご使用をお勧めします。（p.52）
- 別売のリモコンで撮影することもできます。（p.127）
- ISO感度は「ISO AUTO」固定です。
- 動画を撮影しながらAV機器に出力する場合は、mini HDMI端子をご利用ください。（p.226）ビデオ端子では、撮影中の出力はできません。

撮影した動画を再生する

撮影した動画は、静止画と同様に再生モードで再生できます。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになります。

2 十字キー（◀▶）で再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が画像モニターに表示されます

3 十字キー（▲）を押す

動画が再生されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	一時停止／再開
後電子ダイヤル（◯）	音量調節（6段階）
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	押している間、早送り再生
十字キー（◀）	逆方向に再生 （一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	押している間、早戻し再生
十字キー（▼）	停止 （停止中）再生モードパレットを表示（p.208）
AE-Lボタン	（一時停止中）表示中の画像をJPEG形式で保存

再生が終わると停止し、1コマ目の画像が表示されます。

- 付属のAVケーブルや市販のHDMIケーブルを利用すると、テレビなどのAV機器で動画が再生できます。（p.224）
- 外部マイクを利用してステレオ録音した場合でも、PC/AV端子で外部出力すると、音声はモノラルで再生されます。mini HDMI端子で出力した場合はステレオで再生されます。

動画から静止画を切り出す

撮影した動画の1コマを切り出し、JPEG形式の静止画として保存できます。

1 p.157 の手順 3 の画面で十字キー（▲）を押して一時停止し、静止画で保存する1コマを表示する

一時停止中は、十字キー（◀▶）でコマ送り／コマ戻しができます。

画面右上に、フレーム番号/総フレーム数が表示されます。

フレーム番号/総フレーム数

2 AE-L ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選んでOK ボタンを押す

動画から切り出された画像が新規保存されます。

動画を編集する

動画を分割したり、不要な範囲を消去できます。

1 ▶ボタンを押す

再生モードになります。

2 十字キー（◀▶）で再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が画像モニターに表示されます。

3 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で ✂（動画編集）を選び、OK ボタンを押す

動画を編集する画面が表示されます。

5 分割する箇所を指定する

画面上部に分割位置の先頭のコマが表示されます。

4箇所（5分割）まで指定できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	再生／一時停止
十字キー（▶）	（一時停止中）1秒進む （再生中）次の分割位置へ移動
十字キー（◀）	（一時停止中）1秒戻る （再生中）前の分割位置へ移動
後電子ダイヤル（ ）	音量調節（6段階）
⦿ボタン	分割位置指定／解除

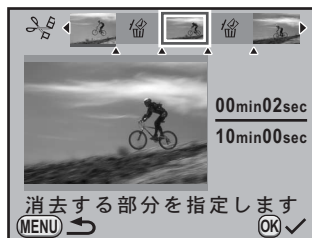
消去しない場合は、手順9に進みます。

6 🗑ボタンを押す

消去範囲を指定する画面が表示されます。

7 十字キー（◀▶）で選択枠を移動し、OKボタンを押す

消去する範囲が選択されます。複数の範囲が選択できます。

もう一度**OK**ボタンを押すと、選択が解除されます。

8 MENUボタンを押す

手順5の画面に戻ります。

9 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

10 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選択し、OKボタンを押す

指定した箇所が分割／消去された画像が新規保存され、1画像表示に戻ります。

- 分割位置は、動画の時系列に沿って先頭から順に指定します。分割位置を解除するときは、逆方向（後ろから前）に順に指定します。分割指定している途中に分割位置を追加したり、途中の分割指定を解除することはできません。
- 録画時間が短い動画は分割できません。

5 ストロボの活用

本機の内蔵ストロボの詳細、および外付けストロボを使用した撮影方法をご紹介します。

内蔵ストロボの詳細

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tvモードでストロボを使う

- 1/180秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影ができます。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズ以外のレンズを使用した場合、シャッター速度は1/180秒固定になります。

Avモードでストロボを使う

- シャッター速度は1/180秒から低速側はカメラぶれをしにくいシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用のレンズの焦点距離によって変化します。
- DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合、シャッター速度は1/180秒固定になります。

スローシンクロを利用する

夕景などを背景にして人物撮影をするときは、**Tv**（シャッター優先自動露出）モードを使ってスローシンクロを行うと、人物も背景もきれいに撮影できます。

- スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、手ぶれ補正機能を使用するか、手ぶれ補正機能をオフにしてカメラを三脚などに固定してください。また、撮影される側が動いても、写真はぶれてしまいますのでご注意ください。
- スローシンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

P／Sv／Avモードを使用する場合

1 モードダイヤルをP／Sv／Avに合わせる

2 ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

3 十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

4 SLOW／SLOWを選択し、OKボタンを押す

背景も適正露出になるようにシャッター速度が遅く設定されます。

Tv／TAv／Mモードを使用する場合

1 モードダイヤルをTv／TAv／Mに合わせる

2 十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

3 ／を選択し、OKボタンを押す

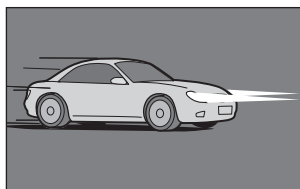
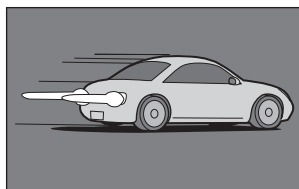
4 Tvモードの場合はシャッター速度、TAv／Mモードの場合はシャッター速度と絞り値を設定する

1/180秒以下で背景が適正露出になるように設定します。

5 ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

後幕シンクロを利用する

後幕シンクロではシャッター幕が閉じる直前にストロボが発光します。動いている被写体などを低速で撮影する場合、ストロボの発光タイミングの違いにより、スローシンクロとは違う効果の写真になります。
たとえば、走っている車を後幕シンクロで撮影すると、シャッターが開いている間にライトの光跡などが露光され、ストロボ発光によって最後に車の姿を露光します。そのため、光跡が流れるような写真を撮影できます。

スローシンクロ
（先幕シンクロ）

後幕シンクロ

1 モードダイヤルを■／X／🎥以外に合わせる

2 十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

3 SLOW⊳⊳⚡／⊳⊳⚡を選択し、OKボタンを押す

4 ⚡ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップします。

メモ

後幕シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、手ぶれ補正機能を使用するか、手ぶれ補正機能をオフにしてカメラを三脚などに固定してください。

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影する場合、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影の距離の間には、一定の条件が必要です。
計算してみて光量が不足する場合、撮影条件を見直してください。

ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー	ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 100	約13	ISO 3200	約73.5
ISO 200	約18.4	ISO 6400	約104
ISO 400	約26	ISO 12800	約147
ISO 800	約36.8	ISO 25600 *1	約208
ISO 1600	約52	ISO 51200 *1	約294

*1「**C** カスタム1」メニューの「3. 拡張感度」がオン時

絞り値から撮影距離を算出する方法

ストロボが使用できる距離は、次の式で計算できます。

遠距離側の目安　距離L1＝ガイドナンバー÷絞り値
近距離側の目安　距離L2＝遠距離側目安÷5 *

*「5」という数値は、本機の内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

例）ISO感度がISO 100の場合、絞り値F2.8で使用すると、

L1＝13÷2.8＝約4.6（m）

L2＝4.6÷5＝約0.9（m）

すなわち、約0.9～4.6mの範囲でストロボが使えます。
ただし、本機の内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出オーバーの原因となります。

撮影距離から絞り値を算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

絞り値F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）ISO感度がISO 100の場合、撮影距離4mで計算すると、

F＝13÷4＝3.25

上記のように計算で出た数字が「3.25」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値、この例では「2.8」に設定します。

レンズと内蔵ストロボの適合

本機と組み合わせるレンズによっては、ケラレが発生するために内蔵ストロボが使用できなかったり、機能に制限がある場合があります。
また、絞り**A**（オート）位置があるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、Aレンズ以前のレンズやソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
下記の一覧表にないDA・DA L・D FA・FA J・FAレンズは、問題なく使用できます。
※一覧表はいずれもフードなしの評価です。

ケラレが発生するので内蔵ストロボ使用不可

レンズ名
DA FISH-EYE 10-17mm F3.5-4.5ED (IF)
DA12-24mm F4ED AL
DA14mm F2.8ED (IF)
FA★300mm F2.8ED (IF)
FA★600mm F4ED (IF)
FA★250-600mm F5.6ED (IF)

条件付きで内蔵ストロボ使用可能

レンズ名	制限
F FISH-EYE 17-28mm F3.5-4.5	焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DA16-45mm F4ED AL	焦点距離が28mm未満のとき、および焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生することがあります。
DA★16-50mm F2.8ED AL (IF) SDM	焦点距離が20mm以下の場合と、35mmで撮影距離が1.5m未満ではケラレが発生します。
DA17-70mm F4AL (IF) SDM	焦点距離が24mm未満のとき、および焦点距離が24mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生します。
DA18-250mm F3.5-6.3ED AL (IF)	焦点距離が35mm未満ではケラレが発生します。
FA★28-70mm F2.8AL	焦点距離が28mmで撮影距離が1m未満では、ケラレが発生することがあります。
FA SOFT 28mm F2.8／ FA SOFT 85mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。

外付けストロボ（別売）を利用する

別売の外付けストロボAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCを使用すると、P-TTLオートストロボ撮影が可能なほか、さまざまなストロボ撮影ができます。

（○：使用可　△：条件付きで使用可　×：使用不可）

カメラの機能＼ストロボ	内蔵ストロボ	AF540FGZ AF360FGZ	AF200FG AF160FC
赤目軽減機能が使用できる	○	○	○
ストロボ自動発光ができる	○	○	○
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる	○	○	○
P／**Tv**モードで絞り値が自動セットされる	○	○	○
P-TTLオートストロボ撮影ができる（連動ISO感度：ISO 100～3200）	○*1	○*1	○*1
スローシンクロ撮影ができる	○	○	○
ストロボ光量補正ができる	○	○	○
外付けストロボのAF補助光が使用できる	×	○	×
後幕シンクロ撮影ができる *2	○	○	×
光量比制御モードで撮影ができる	△*3	○	△*4
スレーブ機能が働く	×	○	×
ハイスピードシンクロで撮影ができる	×	○	×
ワイヤレスで撮影ができる	△*4	○*5	×

*1 DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ可能
*2 シャッター速度は、1/90秒以下に限定
*3 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせたとき、内蔵ストロボ1/3、外付けストロボ2/3の光量配分で可能
*4 AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせた場合のみ可能
*5 AF540FGZ／AF360FGZが複数台、または1台と内蔵ストロボと組み合わせることが必要

注意

- 極性が逆（ホットシューの中心の接点がマイナス）のストロボは使用できません。カメラやストロボが壊れるおそれがあります。
- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると誤動作の原因となるので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGの使用をお勧めします。

AF360FGZの表示パネルについて

AF360FGZの場合、ストロボ単体ではFORMATサイズを「DIGITAL」に設定する機能はありませんが、デジタル一眼レフカメラと組み合わせることで、画角差から生じる35ミリ判カメラと本機との焦点距離の差を自動で換算し、表示します。（DA・DA L・D FA・FAJ・FA・Fレンズ使用時）。
換算表示は本機の測光タイマーがオンの間のみ行われ、FORMATサイズ表示は消灯となります（測光タイマーがオフになると、35ミリ判表示に戻ります）。

使用レンズの焦点距離	85mm／77mm	50mm	35mm	28mm／24mm	20mm	18mm
測光タイマーオフ	85mm	70mm	50mm	35mm	28mm	24mm※
測光タイマーオン	58mm	48mm	34mm	24mm	19mm	16mm※

※ワイドパネル使用

P-TTLで撮影する

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCは、「P-TTLオートストロボ撮影」ができます。
本発光前に小光量を発光して、被写体の状態（距離・輝度・輝度差・逆光など）をカメラ側の77分割測光センサーで確認し、その情報をもとに本発光の光量を調整しますので、通常のTTLオートよりさらに正確な露出でストロボ撮影ができます。

1 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

2 カメラと外付けストロボの電源を入れる

3 外付けストロボの発光モードを「P-TTL」に設定する

4 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の ϟ が点灯します。

- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの使用説明書を参照してください。
- ストロボモードが⚡A／⚡Aの場合は、撮りたいものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影ではご注意ください。
- 外付けストロボを取り付けた状態で、⚡ボタンを押さないでください。内蔵ストロボが外付けストロボに接触します。内蔵ストロボと外付けストロボを同時に使用する場合は、ワイヤレスモードを使用するか延長コードを利用して接続してください。（p.173）

ハイスピードシンクロモードで使う

AF540FGZ／AF360FGZを使用すると、1/180秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影できます。

1 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

2 カメラの露出モードをP／Tv／TAv／Mに設定する

シャッター速度が設定できる露出モードにします。

3 カメラと外付けストロボの電源を入れる

4 外付けストロボのシンクロモードをHS⚡（ハイスピードシンクロ）に設定する

5 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

ストロボの充電が完了すると、ファインダー内の⚡が点灯します。

- シャッター速度が 1/180 秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- カメラの露出モードが**B**（バルブ露出）の場合、ハイスピードシンクロはできません。
- 内蔵ストロボでハイスピードシンクロはできません。

ワイヤレスモードで使う

外付けストロボ AF540FGZ／AF360FGZの組み合わせ、または内蔵ストロボとの組み合わせで、ストロボ同士をコードで接続しないでP-TTL撮影ができます。

- 外付けストロボの電源スイッチはWIRELESSに合わせてください。
- ハイスピードシンクロモードをワイヤレスで使用するには、AF540FGZ ／AF360FGZが2台以上必要です。内蔵ストロボとの組み合わせでは利用できません。
- カメラから離す側の外付けストロボのワイヤレスモードは、SLAVE に設定してください。

外付けストロボのチャンネルをカメラに登録する

まず外付けストロボのチャンネルをカメラに登録します。

1 外付けストロボのチャンネルを設定する

2 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

3 カメラと外付けストロボの電源を入れ、シャッターボタンを半押しする

外付けストロボと同じチャンネルが内蔵ストロボに設定されます。

使用するすべてのストロボは、必ず同じチャンネルに合わせてください。外付けストロボのチャンネルの設定方法は、AF540FGZ／AF360FGZの使用説明書を参照してください。

内蔵ストロボと外付けストロボでのワイヤレス撮影

外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合は、カメラのストロボモードをワイヤレスモードに設定します。

1 カメラとチャンネルを合わせた外付けストロボを、発光させたい位置に固定する

2 十字キー（▼）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。

3 W⚡を選択し、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

ファインダー内／表示パネルには、内蔵ストロボのチャンネル（工場出荷時はCH1）が表示されます。

4 カメラの⚡ボタンを押す

5 両方のストロボが充電完了していることを確認し、撮影する

- 露出モードが■（グリーン）のときは、W⚡に設定できません。
- ドライブモードが3s（リモコン3秒後レリーズ）／M.UP（ミラーアップ）／M.UP（ミラーアップ+リモコン）の場合、またはレンズの絞りがA位置以外の場合は、W⚡は選択できません。

内蔵ストロボの発光方式を変更する

内蔵ストロボのワイヤレス時の発光方式を変更できます。
「**C** カスタム3」メニューの「21. ワイヤレス時の発光」で設定します。

1	オン	内蔵ストロボをマスター発光させます。（初期設定）
2	オフ	内蔵ストロボをコントローラー発光させます。

内蔵ストロボでHS⚡（ハイスピードシンクロ）は利用できません。

外付けストロボを組み合わせたワイヤレス撮影

1 カメラに取り付けた側のストロボのワイヤレスモードを、MASTER／CONTROLに設定する

MASTER	カメラ側のストロボと離して設置するストロボの両方を本発光させます。
CONTROL	カメラ側のストロボはコントロール発光のみで本発光しません。

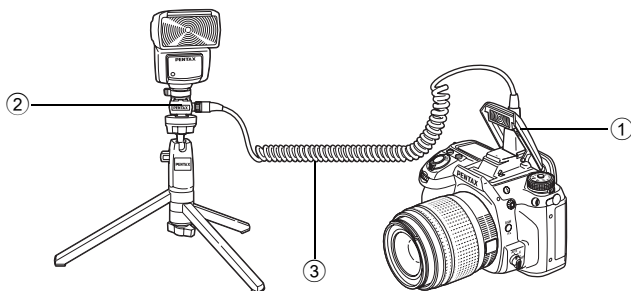
2 カメラから離して使う側のストロボのワイヤレスモードをSLAVEに、チャンネルをカメラ側のストロボと同じチャンネルに設定し、発光させたい位置に固定する

3 両方のストロボが充電完了していることを確認し、撮影する

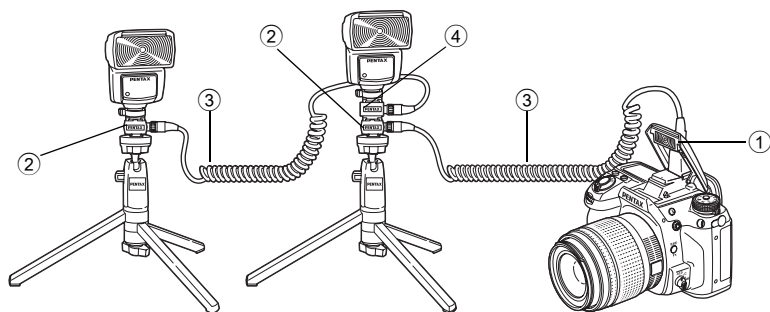
- ワイヤレスモードでは、手ぶれ補正機能は自動的にオフになります。
- AF540FGZ／AF360FGZを複数台使用して、ワイヤレスモードでハイスピードシンクロ撮影を行う場合、カメラに取り付けた方のストロボをハイスピードシンクロモードに設定してください。
- カメラ側の外付けストロボのワイヤレスモードが MASTER、または内蔵ストロボの「21. ワイヤレス時の発光」（p.172）が「オン」の場合は、すべてのストロボが同時に本発光します。

外付けストロボを延長コードで接続する

外付けストロボをカメラから離して使用する場合は、カメラのホットシュー部分にホットシューアダプター FG（①、別売）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプター F（②、別売）を付け、延長コード F5P（③、別売）で接続します。オフカメラシューアダプター Fの下には三脚取り付け用のねじがあるので、三脚に固定できます。

内蔵ストロボと組み合わせて使用する場合

延長コードを使用したストロボの多灯撮影

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG）を複数台組み合わせるか、外付けストロボ複数台と内蔵ストロボを組み合わせて使用できます。
AF540FGZを使用する場合は、ストロボの延長コード接続用端子が使用できます。AF360FGZ／AF200FGを使用する場合は図のように、外付けストロボとホットシューアダプターF（④、別売）にオフカメラシューアダプターF（②、別売）を付け、もう一方の外付けストロボに付けたオフカメラシューアダプターF（②）と、延長コードF5P（③、別売）で接続します。
接続方法については、ストロボの使用説明書も参照してください。

2台以上の外付けストロボを組み合わせて使用する場合

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGを複数台、またはAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

光量比制御シンクロ撮影

外付けストロボ（AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG）を複数台組み合わせるか、外付けストロボと内蔵ストロボを組み合わせることで、複数のストロボの光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）ができます。

AF200FGを使用する場合は、AF540FGZ／AF360FGZと組み合わせる必要があります。

1 外付けストロボをカメラから離して接続する

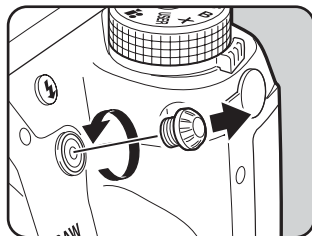
p.173を参照してください。

2 外付けストロボのシンクロモードを光量比制御モードに設定する

3 外付けストロボと内蔵ストロボの充電完了を確認し、撮影する

- 光量の比率は、外付けストロボ同士の場合、光量比制御に設定しているストロボが「2」に対して、それ以外のストロボが「1」、外付けストロボと内蔵ストロボの場合は、外付けストロボが「2」に対して内蔵ストロボが「1」になります。
- AF540FGZ ／ AF360FGZ ／ AF200FG を複数台、または AF540FGZ ／AF360FGZ／AF200FGと内蔵ストロボを組み合わせて使用する場合、ストロボの制御はP-TTLで行われます。

Xシンクロソケットについて

カメラのXシンクロソケットを利用して、シンクロコードでストロボが接続できます。
Xシンクロソケットからシンクロソケット2Pキャップを外し、シンクロコードを接続します。

- 故障の原因となりますので、高電圧や高電流のストロボは使用しないでください。
- 極性が逆（シンクロプラグの中心がマイナス）のストロボは使用できません。カメラやストロボが壊れるおそれがあります。
- カメラのXシンクロソケットにシンクロコードを接続した場合は、連動機能は働きません。
- 後幕によるケラレを防ぐため、念のため同調速度より一段低いシャッター速度を使用して、事前にテスト撮影をされることをお勧めします。
- Xシンクロソケットの接点部には防塵・防滴処理が施されていません。使用しないときは常に付属のシンクロソケット2Pキャップを取り付けておいてください。

6 撮影のための設定

この章では、画像の保存形式などの設定方法を説明しています。

画像の保存形式を設定する

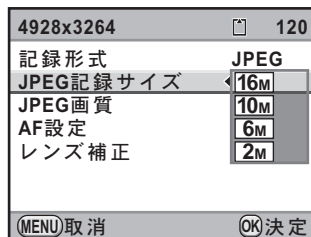
JPEG記録サイズを設定する

JPEG画像の記録サイズを 16M ／ 10M ／ 6M ／ 2M から選択できます。初期設定は、16M です。

記録サイズ	画素数
16M	4928×3264
10M	3936×2624
6M	3072×2048
2M	1728×1152

1 **「撮影1」メニューの「JPEG記録サイズ」を選び、十字キー（▶）を押す**

2 **十字キー（▲▼）で記録サイズを選択し、OK ボタンを押す**

記録サイズを変更すると画面左上に画素数が表示され、その記録サイズで撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

3 **MENUボタンを押す**

撮影できる状態になります。

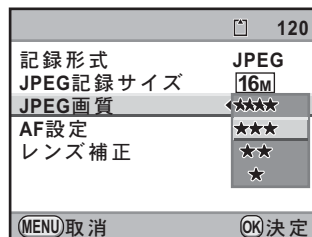
JPEG画質を設定する

JPEG画像の画質（圧縮比）を設定します。初期設定は、★★★（スーパーファイン）です。

★★★★	プレミアム	↑ 画質は鮮明になりますが、画像の容量が大きくなります。
★★★	スーパーファイン	
★★	ファイン	
★	エコノミー	↓ 画質は粗くなりますが、画像の容量が小さくなります。

1 「撮影1」メニューの「JPEG画質」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で画質を選択し、OKボタンを押す

画質を変更すると、その画質で撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

3 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

記録形式を設定する

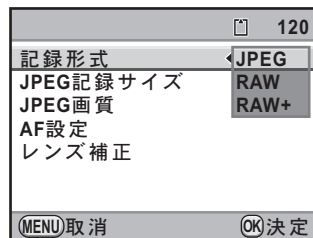
画像のファイルフォーマットを設定します。

JPEG	JPEG形式で記録します。（初期設定） 画像の記録サイズは「JPEG記録サイズ」、画質は「JPEG画質」の設定によって変わります。
RAW	RAW形式は、CMOSセンサーの出力を加工せずに記録するデータ形式です。 ホワイトバランス／カスタムイメージ／色空間などの設定は画像に反映されませんが、情報として記録されます。RAW展開（p.238）時は、これらの設定を使ってJPEGなどの画像データを作成します。
RAW+	RAW形式とJPEG形式の両方で記録します。 **RAW/Fx** ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときは、**RAW/Fx** ボタンを押して一時的に両形式で記録できます。（p.181）

拡張ブラケット／デジタルフィルター／HDR撮影／クロスプロセスのいずれかが設定されていると、記録形式はJPEGから変更できません。変更するときは、これらの機能をオフに設定してください。

1 **「撮影1」メニューの「記録形式」を選び、十字キー（▶）を押す**

2 **十字キー（▲▼）で記録形式を選択する**

記録形式を変更すると、その記録形式で撮影できる枚数が画面右上に表示されます。

3 **OK ボタンを押す**

4 **MENU ボタンを押す**

撮影できる状態になります。

RAWファイルの形式を設定する

RAW形式で記録する場合は、「◘撮影3」メニューの「RAWファイル形式」でPEF／DNGを選択します。

PEF	ペンタックス独自のRAWファイルフォーマット（初期設定）
DNG	Adobe Systems社が提唱する汎用の公開RAWファイルフォーマット

RAW/Fxボタンで一時的に保存形式を変更する

RAW/Fxボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てると、一時的に保存形式が変更できます。

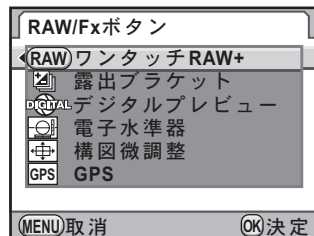
1 「◘撮影5」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「RAW/Fxボタン」を選び、十字キー（▶）を押す

「**RAW/Fx**ボタン」画面が表示されます。

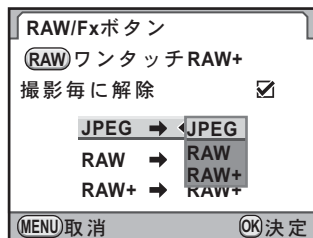
3 十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）で「ワンタッチRAW+」を選び、OKボタンを押す

5 十字キー（▲▼）で「撮影毎に解除」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	1回撮影するたびに「記録形式」の設定に戻ります。（初期設定）
□	次のいずれかの操作をしたときに設定が解除されます。 ・再度**RAW/Fx**ボタンを押す ・▶ボタン／**MENU**ボタンのどちらかを押す ・電源レバーをOFFにする ・モードダイヤルを回す

6 十字キー（▲▼）で設定したい記録形式を選ぶ

左側が「記録形式」の設定、右側が**RAW/Fx**ボタンを押したときの記録形式になります。

7 十字キー（▶）を押し、RAW/Fxボタンを押したときの記録形式を十字キー（▲▼）で選ぶ

8 OKボタンを押す

9 MENUボタンを3回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ホワイトバランスを調整する

白いものが白く写るように撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整します。

項目	設定	色温度 *1
AWB オート	カメラが自動調整します。（初期設定）	約4000～8000K
太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。	約5200K
日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。	約8000K
曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。	約6000K
蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類が選択できます。 D　昼光色蛍光灯 N　昼白色蛍光灯 W　白色蛍光灯 L　電球色蛍光灯	 約6500K 約5000K 約4200K 約3000K
白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。	約2850K
WB ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。	約5400K
CTE *2	光源の特徴を誇張し、色味を残します。	—
マニュアル1～3	撮影時の光の状態で手動でホワイトバランスを調整します。設定は3種類保存できます。	—
K 色温度1～3	色温度を数値で設定します。設定は3種類保存できます。	—

*1 色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。
*2 CTE ＝ Color Temperature Enhancement

露出モードが■（グリーン）のとき、またはクロスプロセスが設定されているときは、**AWB**固定です。

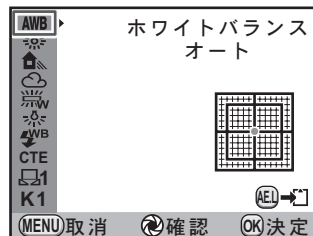
1 撮影モードで十字キー（◀）を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

電源を入れてから撮影した画像がある場合は、直前の画像が背景に表示されます。

2 十字キー（▲▼）でホワイトバランスを選択する

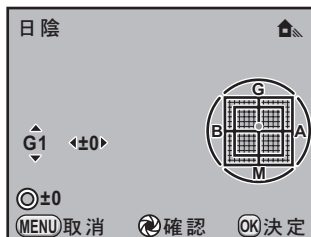
蛍光灯の場合は、十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で**D**／**N**／**W**／**L**を選択します。

微調整が必要ないときは、手順6に進みます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電源レバー（プレビュー）	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで確認します。（ライブビュー中は使用できません。）
AE-Lボタン	背景画像を保存します。（ライブビュー中は使用できません。）

3 十字キー（▶）を押す

微調整画面が表示されます。

4 微調整をする

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	G-M（グリーン–マゼンタ）間の色味を調整します。
十字キー（◀▶）	B-A（ブルー –アンバー）間の色味を調整します。
⦿ボタン	調整値をリセットします。

5 OK ボタンを押す

手順2の画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

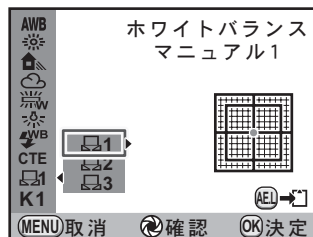
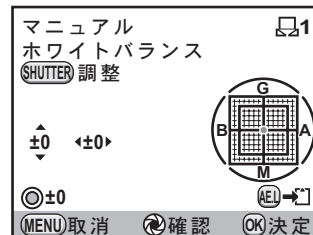
撮影できる状態になります。

- 光源を指定してもカメラは自動的に微調整を行っています。「**C**カスタム2」メニューの「10. WBの光源調整範囲」を「固定」にすると、光源ごとの色温度に固定されます。
- ストロボが発光すると光源が変化するため、ストロボを発光したときのホワイトバランスを設定できます。「**C**カスタム2」メニューの「11. ストロボ発光時のWB」で、**AWB**／変更しない／ストロボから選択します。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

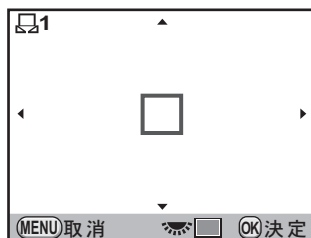
撮影時の光源に合わせて任意の場所のホワイトバランスを測定します。3種類の設定が保存できます。

1 p.184の手順2で⊒を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で⊒1〜⊒3を選び、十字キー（▶）を押す

3 ホワイトバランスを測定する照明の下で、ファインダーいっぱいに白い紙等を入れるか、白くしたい場所を被写体に選ぶ

4 シャッターボタンを全押しする

シャッターがきれないときは、フォーカスモードを**MF**にしてください。

測定範囲を選択する画面が表示されます。

5 後電子ダイヤル（）で、測定範囲を画面全体／スポットから選ぶ

6 スポットを選んだ場合は、十字キー（▲▼◀▶）で測定枠を測定したい位置に移動する

7 OKボタンを押す

ホワイトバランスが測定され、手順3の画面に戻ります。

必要に応じて微調整をしてください。

測定がうまくいかなかったときは、「正しく処理できませんでした」と表示されます。**OK**ボタンを押すと、再測定ができます。

8 OKボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

- 極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。
- モードダイヤルが（動画）になっているときは、ホワイトバランスを測定できません。他の露出モードで調整してから撮影してください。

撮影済み画像のホワイトバランス設定を登録する

撮影した画像のホワイトバランスの設定をコピーし、マニュアルホワイトバランスに登録できます。

注意

ホワイトバランスをコピーできるのは、本機で撮影した静止画のみです。また、次の画像は選択できません。
- 多重露出画像
- インデックス画像
- 動画から切り出した静止画

1 再生モードでホワイトバランスをコピーする画像を表示する

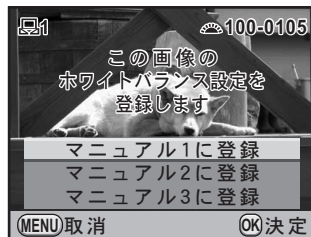
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で 品（マニュアル WB 登録）を選び、OK ボタンを押す

登録の確認画面が表示されます。
前電子ダイヤル（ ）で画像を切り替えることもできます。

4 十字キー（▲▼）で登録する番号を選び、OK ボタンを押す

選択した画像のホワイトバランスがマニュアルホワイトバランスに登録され、撮影モードになります。ホワイトバランスの設定は品（マニュアル）になります。

色温度でホワイトバランスを調整する

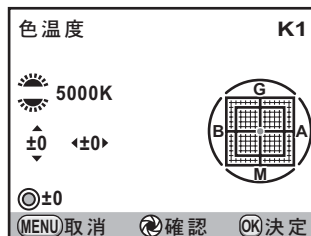
色温度を数値で設定します。3種類の設定が保存できます。

1 p.184の手順2でKを選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でK1～K3を選び、十字キー（▶）を押す

「色温度」画面が表示されます。

3 前／後電子ダイヤルで色温度を調整する

2500～10000Kの範囲で設定できます。

電子ダイヤルによって色温度のステップが異なります。

電子ダイヤル	ケルビン	ミレッド *1
前（ ）	1ステップ（100K）	1ステップ（20ミレッド）
後（ ）	10ステップ（1000K）	5ステップ（100ミレッド）

*1 色温度のステップ単位の初期設定はケルビンです。「**C** カスタム 2」メニューの「13. 色温度ステップ」でステップ単位をミレッドに設定できます。ただし、数値はケルビン換算で表示されます。

4 OK ボタンを押す

「ホワイトバランス」画面に戻ります。

5 OK ボタンを押す

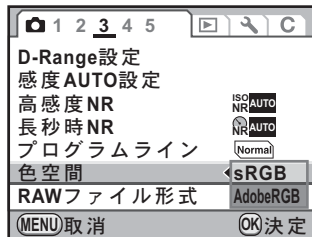
撮影できる状態になります。

色空間を設定する

使用する色空間を設定できます。

sRGB	sRGB色空間に設定します。（初期設定）
AdobeRGB	AdobeRGB色空間に設定します。

「撮影3」メニューの「色空間」で設定します。

メモ

色空間の設定によって、ファイル名の付け方が次のように変わります。
sRGBのとき　：IMGPxxxx.JPG
AdobeRGBのとき：_IGPxxxx.JPG
「xxxx」はファイルNo.です。4桁の連番で表されます。（p.264）

画像を補正して撮影する

カメラやレンズの特性を自動的に補正して撮影できます。

明るさを補正する

明るさを補正し、白とび・黒つぶれを防ぎます。

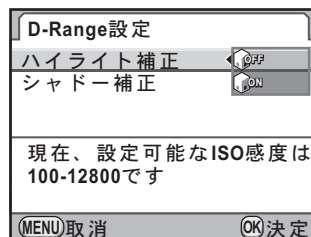
D-Range設定

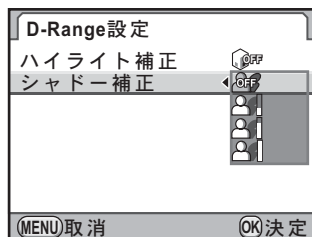
ダイナミックレンジを拡大し、表現できる階調の幅を広げて白とび・黒つぶれを防ぎます。

1 「撮影 3」メニューの「D-Range 設定」を選び、十字キー（▶）を押す

「D-Range設定」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「ハイライト補正」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）でオフ／オンを選び、OK ボタンを押す

4 十字キー（▲▼）で「シャドー補正」を選び、十字キー（▶）を押す

5 **十字キー（▲▼）でオフ／弱／中／強を選び、OK ボタンを押す**

6 **MENUボタンを2回押す**

撮影できる状態になります。

ハイライト補正をオンに設定すると、最低感度はISO 200になります。「**C** カスタム1」メニューの「3. 拡張感度」を「オン」に設定した場合は、最低感度はISO 160になります。

HDR撮影

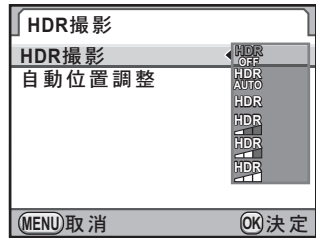
ハイダイナミックレンジ撮影を行います。自動的に標準／-3 EVアンダー／+3 EVオーバーの画像を撮影して合成します。

注意

- 以下のときは、HDR撮影は選択できません。
  - 記録形式がRAW／RAW+に設定されているとき（JPEG固定）
  - 露出モードが**B**（バルブ露出）／**X**（ストロボ同調速度）に設定されているとき
- HDR撮影を設定すると、以下の機能は使用できません。
  - ストロボ
  - ドライブモードの□（1コマ撮影）／⏲（セルフタイマー 12秒）／⏲2s（セルフタイマー 2秒）／リモコン（リモコン即レリーズ）／リモコン3s（リモコン3秒後レリーズ）以外
  - インターバル撮影／多重露出
  - 拡張ブラケット／デジタルフィルター／クロスプロセスとの併用（あとから設定した機能が有効）
- HDR撮影では画像を合成するため、画像の保存に時間がかかります。

1 **「📷 撮影2」メニューの「HDR撮影」を選び、十字キー（▶）を押す**

「HDR撮影」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でオフ／オート／標準／誇張1／誇張2／誇張3を選択する

3 OKボタンを押す

4 十字キー（▲▼）で「自動位置調整」を選び、十字キー（◀▶）で□／☑を切り替える

□	Shake Reductionはオフ固定になります。三脚などを使用して撮影してください。（初期設定）
☑	Shake Reductionはメニューの設定に従って動作します。三脚なしでもHDR撮影ができます。 「プログラムライン」（p.89）は（高速優先）、「感度アップポイント」（p.84）はFAST（高速側）固定になります。

5 MENUボタンを2回押す

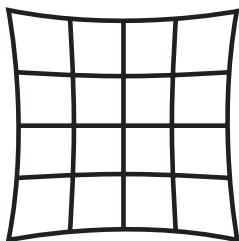
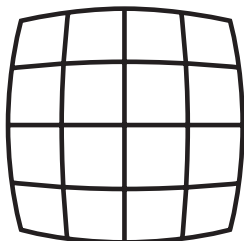
撮影できる状態になります。

- HDR撮影の画像保存中に**MENU**ボタンを押すと、合成処理を中止し、標準画像が保存されます。
- 「Shake Reduction」と「自動位置調整」が両方ともオンの場合、次の点に注意してください。
  - 3コマの撮影中に構図がずれないように、しっかりと構えて撮影してください。コマ間の構図のずれが大きいと、自動位置調整ができない場合があります。
  - 手ぶれや被写体ぶれの影響を受けやすいため、シャッター速度を速めに、ISO感度を高めに設定してください。
  - 露出モードが**P**（プログラム自動露出）の場合、プログラムラインは（高速優先）になります。
  - ISO感度が「ISO AUTO」に設定されている場合、通常より感度が上がりやすくなります。
  - 焦点距離が100mmを超えるレンズでは、自動位置調整ができない場合があります。
  - 被写体全体が格子模様や単調な面の場合は、自動位置調整ができない場合があります。

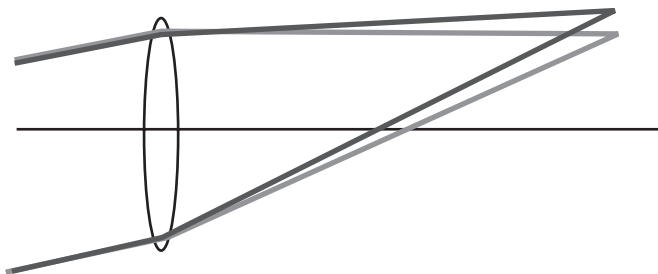
レンズ特性を補正する

レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を軽減します。

● **歪曲収差（ディストーション）**

画像の両端が縮まり、中央部分が膨らんだように写ったり（樽型歪曲）、逆に中央部分が縮まったように写る（糸巻型歪曲）現象をいいます。歪曲収差はズームレンズや小口径のレンズに発生しやすい現象で、壁や水平線が曲がったように写ります。

糸巻型歪曲

樽型歪曲

● **倍率色収差**

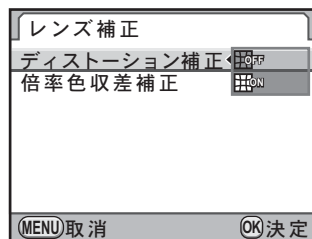
画像を写す際に色（光の波長）によって画像の倍率が異なり、画像がずれてしまう現象をいいます。焦点距離が短くなると、色収差が起こりやすくなります。

- DA・DA L・D FAレンズと一部のFAレンズを使用したときのみ、補正できます。対応レンズ以外を装着している場合は、レンズ補正は選択できません。（p.297）
- 接写リングやリアコンバーターなどレンズとカメラの間に装着するアクセサリーを使用すると、レンズ補正機能は無効になります。
- レンズ補正機能をオンにすると、クイックビューが表示されるまでに時間がかかります。また、連続撮影の撮影速度が遅くなる場合があります。
- 撮影条件等により、レンズ補正の効果がほとんど感じられない場合があります。

1 「撮影1」メニューの「レンズ補正」を選び、十字キー（▶）を押す

「レンズ補正」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でディストーション補正／倍率色収差補正を選ぶ

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でオフ／オンを切り替える

レンズ補正
ディストーション補正 OFF
倍率色収差補正 ON
MENU 取消　OK 決定

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

メモ

対応レンズを装着し、記録形式がRAW／RAW+の場合は、RAWファイルのパラメーターとして補正情報が記録され、RAW展開時にオン／オフが選択できます。（p.238）

構図を補正する

Shake Reductionユニットを X-Y 方向／回転方向に移動することによって、構図の位置と傾きを補正します。三脚などにカメラを固定した状態で構図を調整したいときに使用します。

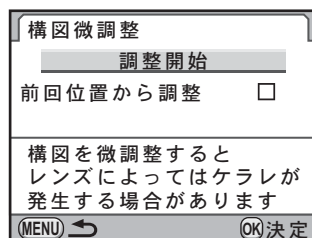
1 「📷撮影2」メニューの「構図微調整」を選び、十字キー（▶）を押す

「構図微調整」画面が表示されます。

2 「調整開始」を選び、OK ボタンを押す

前回設定した調整位置から調整を開始する場合は、十字キー（▲▼）で「前回位置から調整」を選び、十字キー（◀▶）で☑に切り替えます。

ライブビューが表示され、構図が調整できるようになります。

構図微調整
調整開始
前回位置から調整 ☐
構図を微調整すると
レンズによってはケラレが
発生する場合があります
MENU ↩ OK決定

3 構図を補正する

補正量が画面右上にステップ数で表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	構図を上下左右に移動します。撮像素子上で±1.5mm程度（最大24ステップ）まで調整できます。
後電子ダイヤル（⌒）	上下左右の移動量が±1.0mm（16ステップ）以下のときに、構図の傾きを調整します。±1°程度（最大8ステップ）まで調整できます。
⦿ボタン	調整値をリセットします。

4 OK ボタンを押す

通常のライブビュー表示になり、撮影できる状態になります。

- 「Shake Reduction」と「自動水平補正」は無効です。
- ライブビューを終了すると、構図微調整の値はリセットされます。
- 構図微調整を頻繁に使用する場合は、**RAW**/**Fx** ボタンに割り当てて利用することもできます。（p.249）

画像の仕上がりイメージを設定する

どのような雰囲気の画像にしたいかを設定して撮影します。

カスタムイメージを設定する

画像の仕上がりイメージ（画像仕上）を設定して撮影できます。
以下の画像仕上が選択できます。

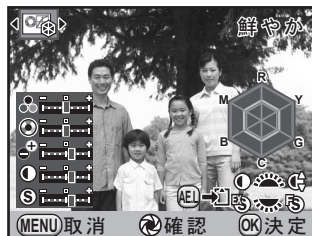
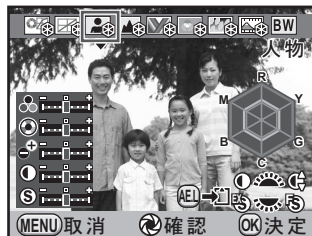
画像仕上	イメージ
鮮やか	彩度・色相・コントラストを高めにし、メリハリのある画像に仕上げます。（初期設定）
ナチュラル	実際の色合いに近い自然な仕上がりです。
人物	肌色を健康的に仕上げます。
風景	木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色に仕上げます。
雅（MIYABI）	色合いを変化させて古風な雰囲気に仕上げます。
ほのか	彩度を低めにして柔らかな雰囲気に仕上げます。
銀残し	彩度を低くし、コントラストを高めにして古い写真のような雰囲気に仕上げます。
リバーサルフィルム	リバーサルフィルムで撮影したような、明暗差を強調した仕上がりです。
モノトーン	モノクロ用の色フィルターを使用して撮影します。

次のときは、画像仕上は「鮮やか」固定となり、パラメーターは変更できません。
- 露出モードが■（グリーン）に設定されているとき
- クロスプロセスが設定されているとき

1 撮影モードで十字キー（▶）を押す

カスタムイメージを設定する画面が表示されます。

電源を入れてから撮影した画像がある場合は、直前の画像が背景に表示されます。

2 十字キー（◀▶）で画像仕上を選択する

3 十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する

選択した画像仕上によって以下のパラメーターが変更できます。

画像仕上	パラメーター
鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）	彩度：-4～+4
	色相：-4～+4
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4
ほのか／銀残し	彩度：-4～+4
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4
リバーサルフィルム	シャープネス：-4～+4

画像仕上	パラメーター
モノトーン	フィルター効果：なし／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／赤外調
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4

4 十字キー（◀▶）で設定を変更する

設定に応じて背景画像も変化します。

彩度／色相は、レーダーチャートで視覚的に確認できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

前電子ダイヤル（ ）	コントラスト詳細設定の有効／無効を切り替えます。
後電子ダイヤル（ ）	シャープネスをファインシャープネス／エクストラシャープネスに切り替えます。ファインシャープネス／エクストラシャープネスにすると、輪郭線などがより繊細に表現できます。
⦿ボタン	設定値をリセットします。
電源レバー（ ）	設定を適用した背景画像をデジタルプレビューで確認します。（ライブビュー中は使用できません。）
AE-L ボタン	背景画像を保存します。（ライブビュー中は使用できません。）

5 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

クロスプロセス処理を設定する

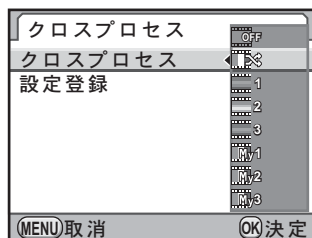
「クロスプロセス」とは、フィルム現像の際に正しい現像処理を行わずに、色合いやコントラストを故意に変化させる現像方法をいいます。本機ではカメラ内で処理を行うデジタル・クロスプロセスができます。

注意
- クロスプロセスを設定した場合、記録形式はJPEGになり、変更できません。また、記録形式がRAW／RAW+に設定されている場合は、クロスプロセスを選択できません。
- クロスプロセスを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 多重露出
  - 拡張ブラケット／HDR撮影との併用（あとから設定した機能が有効）
  - ホワイトバランス／カスタムイメージの設定変更

1 「撮影2」メニューの「クロスプロセス」を選択し、十字キー（▶）を押す

露出モードが（動画）のときは、「撮影4」メニューの「動画」から選択します。（p.152）
「クロスプロセス」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で選択してOKボタンを押す

オフ／シャッフル／プリセット1～3／お気に入り1～3から選択します。

3 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

撮影済み画像のクロスプロセス設定を登録する

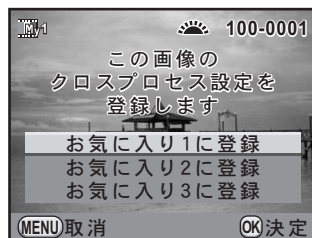
クロスプロセス処理は、撮影するたびに処理結果が異なります。気に入ったクロスプロセス画像が撮影できたときは、その設定を登録しておくことができます。静止画・動画合わせて3つまで登録できます。

動画のクロスプロセス設定を登録するときは、モードダイヤルを（動画）に合わせた状態で「撮影4」メニューの「動画」から設定します。

1 p.200の手順2の画面で「設定登録」を選択し、十字キー（▶）を押す

最新の画像から順にクロスプロセス画像を検索します（検索中は砂時計のアイコンが表示されます）。クロスプロセス画像が見つかると、登録の画面が表示されます。

クロスプロセス画像がない場合は、「クロスプロセス撮影画像がありません」と表示されます。

2 前電子ダイヤル（）でクロスプロセス画像を選択する

3 十字キー（▲▼）で登録する番号を選択し、OKボタンを押す

指定した画像の設定がお気に入り1～3に登録されます。

4 登録を終了する場合は、MENUボタンを2回押す

よく使う設定値を登録する

現在のカメラの設定をまとめて登録し、簡単に呼び出すことができます。登録できる設定は以下のとおりです。

- 露出モード（■／🎥は不可）
- ドライブモード
- ストロボモード／ストロボ光量補正値
- ホワイトバランス
- ISO感度／感度AUTO設定
- 露出補正値
- プログラムライン
- 拡張ブラケット
- JPEG記録サイズ
- JPEG画質
- 記録形式
- RAWファイル形式
- AF設定
- 高感度NR
- 長秒時NR
- D-Range設定
- HDR撮影
- カスタムイメージ
- クロスプロセス
- デジタルフィルター
- Shake Reduction／自動水平補正
- レンズ補正
- 色空間
- 電子ダイヤル／ボタンカスタマイズ
- 「**C**カスタム1〜4」メニューの設定

モードダイヤルが■（グリーン）／🎥（動画）になっているときは、設定できません。

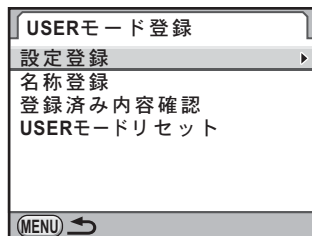
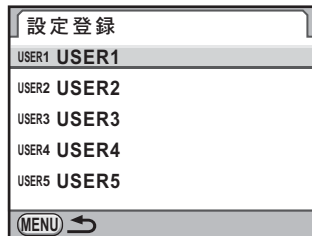
設定を登録する

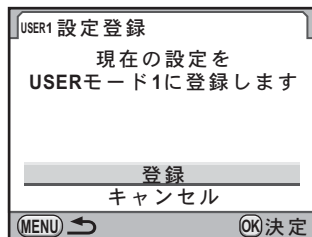
設定をモードダイヤルのUSERに登録します。5パターンの設定が登録できます。

1　必要な設定を行う

2　「📷撮影5」メニューの「USERモード登録」を選び、十字キー（▶）を押す

「USERモード登録」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）でUSER1〜USER5を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲）で「登録」を選び、OKボタンを押す

設定が登録され、手順3の画面に戻ります。

名前を登録する

登録した設定に名前を付けることができます。

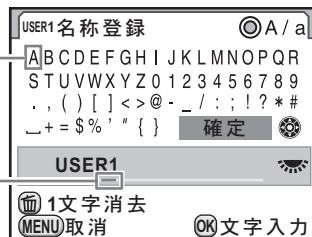
1 「設定を登録する」の手順3の画面で「名称登録」を選び、十字キー（▶）を押す

「名称登録」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でUSER1〜USER5を選び、十字キー（▶）を押す

文字を入力する画面が表示されます。

3 文字を入力する

半角18文字までの英数字・記号が入力できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	文字選択カーソルを移動します。
後電子ダイヤル（ ）	文字入力カーソルを移動します。
⦿ボタン	大文字／小文字を切り替えます。
OK ボタン	文字選択カーソルが選択している文字を文字入力カーソルの位置に入力します。
🗑ボタン	文字入力カーソル位置の文字を消去します。

4 文字が全部入力できたら、文字選択カーソルを「確定」まで移動し、OK ボタンを押す

名前が確定します。

他の名前も登録する場合は、手順2～4を繰り返します。

5 MENU ボタンを押す

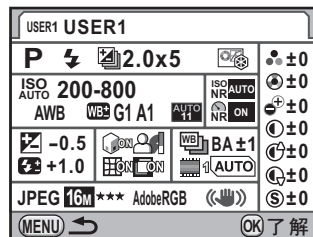
「USERモード登録」画面に戻ります。

登録されている設定を確認する

1 p.203の手順3の画面で「登録済み内容確認」を選び、十字キー（▶）を押す

「登録済み内容確認」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でUSER1～USER5を選び、十字キー（▶）を押す

登録されている現在の設定が表示されます。

3 OKボタンを押す

「USERモード登録」画面に戻ります。

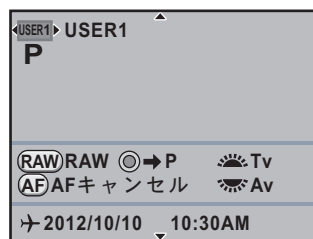
登録した設定を利用する

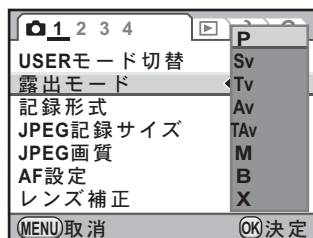
登録した設定は簡単に呼び出せます。

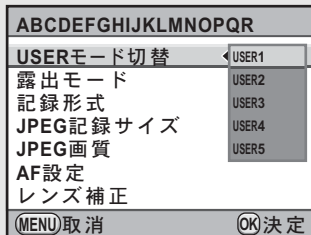
1 モードダイヤルをUSER に合わせる

USERモードのガイドが表示されます。

2 十字キー（◀▶）または後電子ダイヤル（）でUSER1～USER5を選択する

十字キー（▲▼）で登録されている設定が確認できます。
登録した設定が呼び出されます。

3 必要に応じて設定を変更する

露出モードを変更する場合は、「 撮影1」メニューの「露出モード」で変更します。

- USER モードのガイド表示は、「🔧詳細設定1」の「ガイド表示」の設定にかかわらず、30秒間表示されます。
- USER1〜USER5は、「📷撮影1」メニューの「USERモード切替」でも選択できます。
- 「📷撮影1」メニューの「USERモード切替」「露出モード」は、モードダイヤルがUSERのときだけ表示されます。
- 手順3で変更した設定は、USER に登録されません。電源を切ると、元の登録済の設定に戻ります。

ABCDEFGHIJKLMNOPQR
USERモード切替 USER1
露出モード USER2
記録形式 USER3
JPEG記録サイズ USER4
JPEG画質 USER5
AF設定
レンズ補正
MENU取消 OK決定

設定をリセットする

USER1〜USER5に登録した設定を初期状態に戻します。

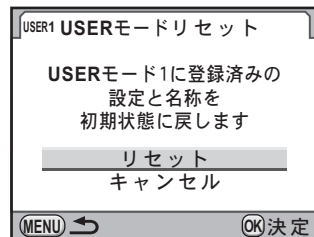
1 p.203の手順3の画面で「USERモードリセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「USERモードリセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でUSER1〜USER5を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲）で「リセット」を選び、OK ボタンを押す

設定と名称が初期設定に戻ります。

6 撮影のための設定

7 いろいろな再生

再生モードでのさまざまな再生方法をご紹介します。

再生関連機能の操作

再生に関する機能は、再生モードパレット／「▶再生」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」（p.42）を参照してください。

再生モードパレットの設定項目

再生モードで十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットが表示されます。
動画再生の停止中も、再生モードパレットを表示できます。

項目	機能	参照
画像回転 *1	画像を回転します。	p.219
デジタルフィルター *1	画像の色調を変えたり、ソフトやスリムに加工します。	p.233
リサイズ *1 *2	画像の記録サイズと画質を変更し、新規保存します。	p.230
トリミング *1	画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。	p.231
プロテクト	画像を誤って消去しないように保護します。	p.222
スライドショウ	画像を連続して再生します。	p.218
マニュアルWB登録 *1	撮影済み画像のホワイトバランスの設定をコピーし、マニュアルホワイトバランスに登録します。	p.187
RAW展開 *3	RAW画像をJPEGまたはTIFFに変換します。	p.238
インデックス *1	複数の画像を1枚に貼り付けて、新たな画像を作成します。	p.215

項目	機能	参照
動画編集 *4	動画を分割したり、不要な範囲を消去します。	p.159
DPOF *1 *2	SDメモリーカード内の画像に印刷枚数や日付を設定します。	p.271
目的地登録 *5	GPS情報が記録された画像の位置情報を、直線ナビの目的地に登録します。	p.306

*1 動画を表示しているときは実行できません。
*2 RAW画像を表示しているときは実行できません。
*3 RAW画像が保存されているときのみ実行できます。
*4 動画を表示しているときのみ実行できます。
*5 GPS情報が記録された画像が保存されているときのみ実行できます。

再生メニューの設定項目

「▶再生」メニューでは、以下の設定を行います。
再生モードで**MENU**ボタンを押すと、「▶再生1」メニューが表示されます。

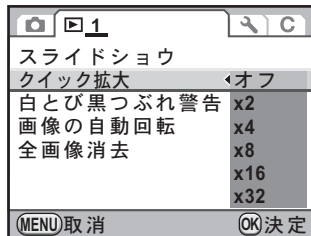
メニュー	項目	機能	参照
▶1	スライドショウ	画像を連続して再生します。スライドショウの表示の設定を行います。	p.217
	クイック拡大	拡大表示するときの最初の拡大率を設定します。	p.210
	白とび黒つぶれ警告	再生時に白とび黒つぶれ警告を表示するかどうかを設定します。	
	画像の自動回転	縦位置で撮影した画像を再生時に回転して表示するかどうかを設定します。	
	全画像消去	保存されているすべての画像を消去します。	p.222

再生時の表示方法を設定する

再生モードで拡大表示するときの最初の拡大率と、白とび黒つぶれ警告の表示、縦位置画像の自動回転について設定します。

1 **「▶ 再生 1」メニューの「クイック拡大」を選び、十字キー（▶）を押す**

2 **十字キー（▲▼）で倍率を選択してOKボタンを押す**

オフ（初期設定）／×2／×4／×8／×16／×32から選択します。

3 **十字キー（▲▼）で「白とび黒つぶれ警告」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える**

4 **十字キー（▲▼）で「画像の自動回転」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える**

☑	「**C** カスタム3」メニューの「23. 回転情報の記録」が「オン」の設定で撮影した場合、または画像回転（p.219）で回転表示情報を保存した場合は、設定に従って再生時に回転して表示されます。（初期設定）
□	再生時に回転して表示されません。

5 **MENUボタンを押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

注意　「白とび黒つぶれ警告」は、詳細情報表示／RGBヒストグラム表示のときは表示されません。

画像を拡大表示する

再生した画像を約32倍まで拡大して表示できます。

1 再生モードで十字キー（◀▶）を押し、画像を選ぶ

2 後電子ダイヤル（）を右（Q）に回す

1クリック回すごとに画面が拡大（1.2～32倍）されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（）右（Q）／ボタン	画像表示を拡大します。（最大32倍まで）
後電子ダイヤル（）左（）／⦿ボタン	画像表示を縮小します。（最小1.2倍まで）
十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動します。
OKボタン	1倍表示に戻ります。
前電子ダイヤル（）	拡大倍率と画面上の拡大位置を保ったまま、前後の画像を表示します。
INFOボタン	情報表示あり／なしを切り替えます。

- 1クリック目の倍率（拡大倍率の最小値）は、初期設定では1.2倍です。「▶再生1」メニューの「クイック拡大」で変更できます。（p.210）
- 縦画像は、最初の全体表示が横画像に比べて0.675倍なので、拡大1クリック目は等倍で表示されます。

複数の画像を表示する

マルチ画面表示をする

撮影した画像を、画像モニターに複数枚（4／9／16／36／81画像）ずつ表示します。初期設定は9画像表示です。

1 再生モードで後電子ダイヤル（）を左（）に回す

マルチ画面表示になります。
画像が小さなコマで一度に9画像ずつ表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動します。
INFOボタン	「マルチ画面設定」画面が表示され、十字キー（◀▶）で分割数が選択できます。（RAW画像の一括展開（p.240）時は、分割数の選択はできません。）
🗑ボタン	画像を選択してまとめて消去します。（p.220）

2 OKボタンを押す

選択した画像が全画面表示されます。

81分割表示の場合は、サムネイル上に🎥や?などのアイコンは表示されません。

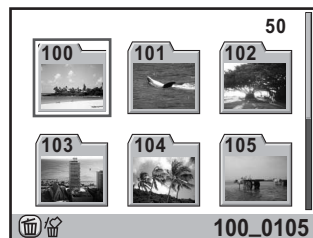
フォルダーごとに表示する

画像が保存されているフォルダーごとに表示します。

1 マルチ画面表示で後電子ダイヤル（⚙）をさらに左（⊞）に回す

フォルダー表示になります。

2 表示したいフォルダーを選ぶ

選択中のフォルダー内の画像数が画面右上に表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動します。
🗑ボタン	選択したフォルダーごと画像を消去します。（p.221）

3 OKボタンを押す

選択したフォルダー内の画像がマルチ画面表示されます。

撮影日ごとに表示する（カレンダー表示）

撮影した日付ごとに画像を表示します。

1 マルチ画面表示でINFOボタンを押す

「マルチ画面設定」画面が表示されます。

2 もう一度INFOボタンを押す

カレンダー表示になります。
画像が保存されている撮影日だけが表示されます。

選択した日付の画像枚数

撮影日　サムネイル

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	撮影日を選択します。
十字キー（◀▶）	選択した撮影日の画像を選択します。
後電子ダイヤル（ ）右（Q）	選択中の画像を全画像表示します。左（ ）に回すとカレンダー表示に戻ります。
INFOボタン	マルチ画面表示に戻ります。
🗑ボタン	選択した画像を消去します。

3 OKボタンを押す

選択した画像が全画面表示されます。

複数画像を貼り付ける（インデックス）

複数の画像を1画面に貼り付けてインデックスプリントのように表示します。貼り付ける画像を選択したり、ランダムに貼り付けることもできます。

メモ　動画はインデックス画像にできません。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

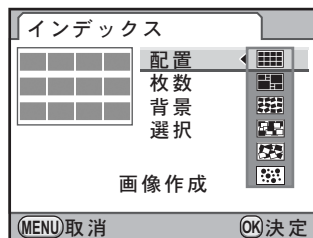
2 十字キー（▲▼◀▶）で（インデックス）を選び、OKボタンを押す

「インデックス」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）で配置の種類を選択し、OKボタンを押す

（サムネイル）／（スクエア）／（ランダム1）／（ランダム2）／（ランダム3）／（バブル）が選択できます。

はファイルNo.の小さい順、それ以外はランダムに画像が配置されます。

5 十字キー（▲▼）で「枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

6 十字キー(▲▼)で貼り付ける枚数を選択し、OKボタンを押す

12／24／36枚から選択します。

保存されている画像の数が選択した枚数より少ない場合、「配置」が（サムネイル）のときは空欄、それ以外のときは画像が重複して表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「背景」を選び、十字キー（▶）を押す

8 十字キー（▲▼）で背景色を選択し、OK ボタンを押す

白または黒を選択します。

9 十字キー（▲▼）で「選択」を選び、十字キー（▶）を押す

10 十字キー（▲▼）で画像の選択方法を選択し、OK ボタンを押す

オート	保存されているすべての画像から自動的に選択します。
手動	貼り付ける画像を1つずつ選択します。続けて「画像選択」を選び、貼り付ける画像を指定します。
フォルダー	指定したフォルダーから自動的に選択します。続けて「フォルダー選択」を選び、フォルダーを指定します。

11 十字キー（▲▼）で「画像作成」を選び、OK ボタンを押す

インデックス画像が作成され、確認の画面が表示されます。

12 十字キー（▲▼）で保存／再シャッフルを選び、OK ボタンを押す

保存	インデックス画像を 6M・★★★ のファイルとして保存します。
再シャッフル	貼り付ける画像を選び直して、新たなインデックス画像を表示します。「配置」で ▦（サムネイル）を選択した場合は、表示されません。

保存が完了すると再生モードに戻り、インデックス画像が再生されます。

インデックスの画像作成は、処理に時間がかかることがあります。

連続して再生する

SDメモリーカードに保存された全画像を、スライドショウで連続して再生します。

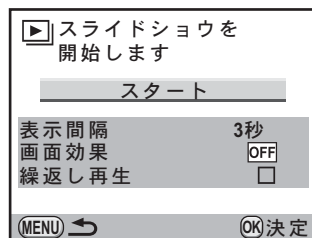
スライドショウの表示方法を設定する

スライドショウでの画像の表示のしかたを設定します。

1 「▶再生1」メニューの「スライドショウ」を選び、十字キー（▶）を押す

スライドショウの設定画面が表示されます。

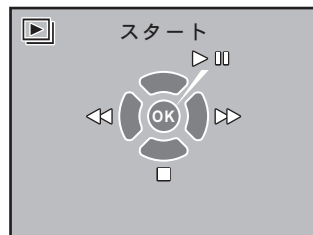
2 十字キー（▲▼）で設定する項目を選ぶ

次の項目が設定できます。

項目	内容	設定値
表示間隔	画像を切り替える間隔を選択します。	3（初期設定）／5／10／30秒
画面効果	画面を切り替えるときの効果を設定します。	オフ（初期設定）／フェード／ワイプ／ストライプ
繰返し再生	最後の画像を再生したあとに、また最初から再生を繰り返すかどうか設定します。	□（初期設定）／☑

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で設定を選択してOKボタンを押す

スライドショウを開始する

1　p.217の手順2の画面で「スタート」を選び、OK ボタンを押すまたは再生モードパレットで▣（スライドショウ）を選択し、OK ボタンを押す

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。

ボタン・ダイヤル等の操作

OK ボタン	一時停止します。もう一度押すと再開します。
十字キー（◀）	前の画像を表示します。
十字キー（▶）	次の画像を表示します。

2　十字キー（▼）を押す

スライドショウが停止し、1画像表示に戻ります。

スライドショウの再生が終わったときは、十字キー（▼）を押さなくても1画像表示に戻ります。

動画は1コマ目の画像だけが表示され、表示間隔の設定時間が過ぎると次の画像が再生されます。スライドショウ中に動画を再生するときは、1コマ目が表示されているときに**OK** ボタンを押します。動画の再生が終わると、スライドショウの続きに戻ります。

画像を回転する

縦位置で撮影すると、縦位置センサーの働きによって画像に回転情報が付加され、画像を正しい向きで再生できます。回転情報を変更する場合は、以下の手順で再保存します。

- 「C カスタム4」メニューの「23. 回転情報の記録」が「オフ」の状態で撮影すると、画像に回転情報が付加されません。
- 「▶ 再生1」メニューの「画像の自動回転」（p.210）が☑（オン）になっていると、回転情報が付加された画像は再生時に回転して表示されます。

- 次のときは、回転情報を変更できません。
  - プロテクトされた画像
  - 回転情報タグがない画像
  - 「▶ 再生1」メニューの「画像の自動回転」（p.210）が□（オフ）になっているとき
- 動画は回転表示できません。

1 再生モードで回転したい画像を選ぶ

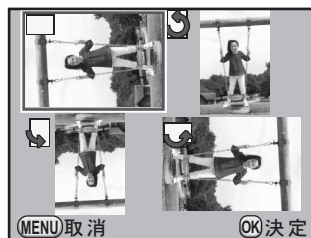
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で ◇（画像回転）を選び、OK ボタンを押す

選択した画像を90°ずつ回転させた画像が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選択し、OK ボタンを押す

画像の回転表示情報が保存されます。

複数画像を消去する

複数の画像をまとめて消去します。消去した画像は復元できないので、注意してください。

☞消去できないようにする（プロテクト）（p.222）

選択して消去する

マルチ画面表示で複数の画像を選択し、一括して消去します。

- プロテクトされている画像は消去できません。
- 一度に選択できるのは、100枚までです。

1 再生モードで後電子ダイヤル（）を左（）に回す

マルチ画面表示になります。

2 ボタンを押す

消去画像を選択する画面になります。
マルチ画面設定（p.212）が81分割になっているときは、一時的に36分割になります。

3 消去する画像を選択する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動します。
OKボタン	☑を付け、画像を選択します。もう一度押すと□に戻ります。プロテクトされた画像（）は選択できません。
後電子ダイヤル（）	選択枠が表示された画像を全画面表示します。全画面表示された状態で十字キー（◀▶）押すと、前後の画像が表示されます。

4　🗑ボタンを押す

消去の確認画面が表示されます。

5　十字キー（▲）で「選択消去」を選び、OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。

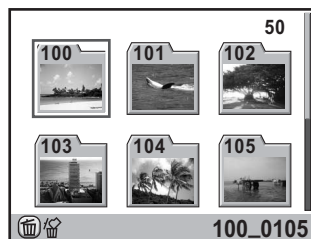
フォルダーを消去する

選択しているフォルダーごと画像を消去します。

1　再生モードで後電子ダイヤル（ ）を左（⊞）に2クリック回す

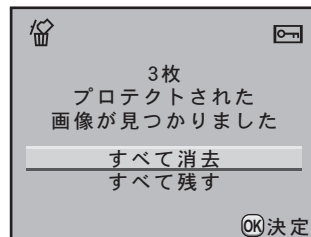
フォルダー表示になります。

2　十字キー（▲▼◀▶）で消去するフォルダーを選択し、🗑ボタンを押す

フォルダー消去の確認画面が表示されます。

3　十字キー（▲）で「消去」を選び、OKボタンを押す

フォルダーとフォルダー内の画像が消去されます。

プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。

「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

まとめて消去する

保存されているすべての画像を消去します。

1 **「▶再生1」メニューの「全画像消去」を選び、十字キー（▶）を押す**

全画像消去の確認画面が表示されます。

2 **十字キー（▲）で「全画像消去」を選び、OKボタンを押す**

全画像が消去されます。
プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。
「すべて消去」を選ぶと、プロテクトされていた画像も消去されます。

消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。

プロテクトされた画像も、SDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

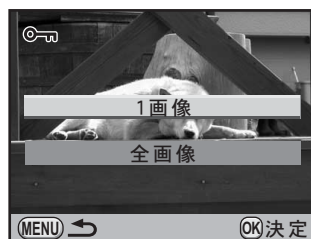
1 **再生モードで十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）で⊶（プロテクト）を選び、OKボタンを押す**

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。

4 十字キー（◀▶）でプロテクトする画像を選択する

5 十字キー（▲）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す

プロテクトを解除する場合は「解除」を選びます。

画像がプロテクトされ、画面右上にが表示されます。

他の画像をプロテクトする場合は、手順4～5を繰り返します。

手順3で「全画像」を選択した場合は、再生モードに戻ります。

6 MENUボタンを押す

再生モードに戻ります。

AV機器と接続する

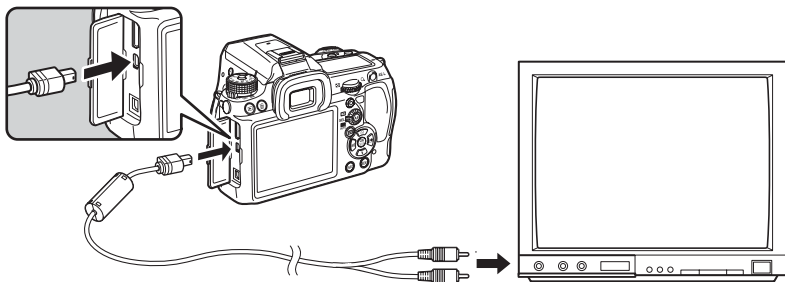
ビデオ端子またはHDMI端子を備えたテレビなどと接続し、画像を再生できます。

- 長時間使用するときは、ACアダプターキット（別売）のご使用をお勧めします。（p.52）
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- ビデオ出力とHDMI出力を同時に行うことはできません。
- AV機器と接続した場合、カメラで音量調節はできません。AV機器側で音量を調節してください。
- 動画を撮影しながらAV機器に出力する場合は、mini HDMI端子をご利用ください。ビデオ端子では、撮影中の出力はできません。

ビデオ端子に接続する

付属のAVケーブルI-AVC7を使用し、ビデオ入力端子を備えた機器に接続します。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、AVケーブルの矢印をカメラの▲印の方向に向け、PC/AV端子に接続する

3 AVケーブルのもう一方の端子を、AV機器の映像入力端子に接続する

4 AV機器とカメラの電源を入れる

カメラがビデオモードで起動し、AV機器にカメラの情報が表示されます。

外部マイクを利用して動画をステレオ録音した場合も、音声はモノラルで再生されます。

ビデオ出力方式を選択する

初期設定（p.60）で現在地を設定すると、その地域に合ったビデオ出力方式が設定されます。国や地域によっては、初期設定のビデオ出力方式では、うまく映らない場合があります。その場合は、出力方式を切り替えてください。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「ビデオ出力」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でNTSC／PALを選択し、OKボタンを押す

3 MENUボタンを押す

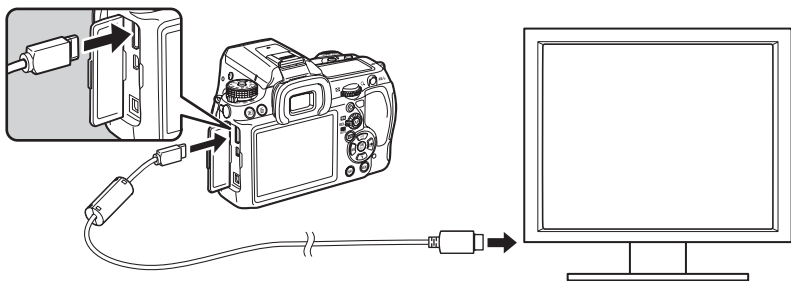
メニュー選択前の画面に戻ります。

ビデオ出力方式は地域によって異なります。「ワールドタイム」（p.253）を✈（目的地）に切り替えると、その都市の出力方式に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。現在地／目的地で設定できる都市のビデオ出力方式は、「都市名一覧」（p.255）を参照してください。

HDMI端子に接続する

市販のHDMIケーブルを使用し、HDMI端子を備えた機器に接続します。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 カメラの端子カバーを開き、mini HDMI端子にHDMIケーブルを接続する

3 HDMIケーブルのもう一方の端子を、AV機器のHDMI入力端子に接続する

4 AV機器とカメラの電源を入れる

カメラがHDMIモードで起動し、AV機器にカメラの情報が表示されます。

- カメラのmini HDMI端子はタイプCです。ご使用の機器に合った市販のHDMIケーブルをご用意ください。
- HDMI出力中は、カメラの画像モニターは表示されません。
- 外部マイクを利用して動画をステレオ録音した場合、音声はステレオで再生されます。

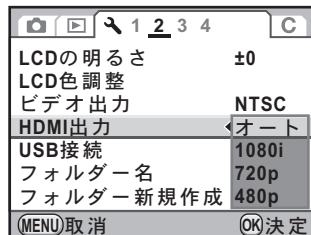
HDMI出力方式を選択する

HDMI出力方式は、AV機器とカメラが対応する最大のサイズが自動選択されます。うまく映らない場合は、設定を変更してください。

1 「🔧 詳細設定 2」メニューの「HDMI 出力」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で出力方式を選択する

オート	AV機器とカメラが対応する最大のサイズを自動で選択します。（初期設定）
1080i	1920×1080i
720p	1280×720p
480p *1	720×480p

LCDの明るさ ±0
LCD色調整
ビデオ出力 NTSC
HDMI出力 オート
USB接続 1080i
フォルダー名 720p
フォルダー新規作成 480p
MENU 取消 OK 決定

*1 ビデオ出力方式がNTSCのときは480p、PALのときは576p（720×576p）になります。

3 OKボタンを押す

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 1080i／720pでの出力は、一部の表示がカメラとは異なる画面デザインで表示されます。
- ライブビュー時の白とび黒つぶれ警告は表示されません。
- 露出モードが🎥（動画）のときは、設定に関係なく480p固定で出力されます。

8 画像を加工する

撮影した画像の加工方法とRAW展開をご紹介します。

画像のサイズを変更する

画像の記録サイズなどを変更して新規保存します。

記録サイズと画質を変更する（リサイズ）

画像の記録サイズと画質を変更して新規保存します。

- リサイズできるのは、本機で撮影したJPEG画像のみです。
- 本機でリサイズされた0.2M／0.3Mの画像はリサイズできません。

1 再生モードでリサイズする画像を選択する

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選び、OKボタンを押す

記録サイズと画質を選択する画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）でサイズを選択する

元の画像より1つ小さいサイズから選択できます。選択できるサイズは、元の画像のサイズによって異なります。

5 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で画質を選択する

★★★★／★★★／★★／★から選択します。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

リサイズされた画像が新規保存されます。

画像の一部を切り取る（トリミング）

画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。アスペクト比を変更することもできます。

- トリミングできるのは、本機で撮影したJPEG／RAW画像のみです。
- 本機でリサイズされた0.2M／0.3Mの画像はトリミングできません。

1 再生モードでトリミングする画像を選択する

2 十字キー（▼）を押す

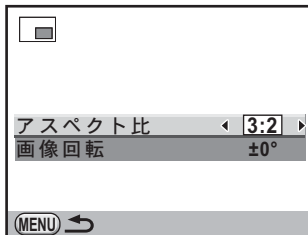
再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で□（トリミング）を選び、OKボタンを押す

トリミング範囲を指定する画面が表示されます。

4 トリミングする大きさと範囲を決める

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（）	トリミングする大きさを指定します。
十字キー（▲▼◀▶）	トリミングする範囲を指定します。
INFOボタン	アスペクト比を変更します。3：2／4：3／16：9／1：1が選択できます。また1°単位（±45°まで）で画像を回転することもできます。 アスペクト比 ◀ 3:2 ▶ 画像回転 ±0° MENU ↩
⦿ボタン	トリミング範囲を90°ずつ回転します。回転できるサイズのときのみ表示されます。

5 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

トリミングされた画像が新規保存されます。

デジタルフィルターで加工する

撮影した画像を、デジタルフィルターを使って加工できます。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。	シェーディング強度：弱／中／強
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
レトロ	古い写真のような画像に加工します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太
ハイコントラスト	コントラストを強くします。	+1～+5
デッサン	鉛筆で下書きしたような画像に加工します。	コントラスト：低／中／高
		スクラッチ：OFF／ON
水彩画	絵の具で描いたような画像に加工します。	強度：弱／中／強
		彩度：OFF／低／中／高
パステル	クレヨンで描いたような画像に加工します。	弱／中／強
ポスタリゼーション	画像の階調を落として手描きのような雰囲気を表現します。	+1～+5
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。	芯の位置：-3～+3
		幅：狭／中／広
		角度：横／縦／右上がり／右下がり
		ぼかし：弱／中／強
ベースメイク	各パラメーターを調整し、好みの画像に加工します。	明るさ：-8～+8
		彩度：-3～+3
		色相：-3～+3
		コントラスト：-3～+3
		シャープネス：-3～+3
モノトーン	白黒写真のような単色の画像に加工します。	フィルター効果：OFF／レッド／グリーン／ブルー／赤外調
		調色（B-A）：7段階

フィルター名	効果	パラメーター
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像に加工します。	カラー：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：淡／中／濃
色抽出	特定の1色または2色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：+1～+5
		抽出色2：OFF／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：+1～+5
ソフト	全体をぼかしたようなややわらかい画像に加工します。	ソフトフォーカス：弱／中／強
		シャドーぼかし：OFF／ON
トゥインクル	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部に光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	形状：クロス／星／雪の結晶／ハート／音符
		個数：少／中／多
		大きさ：小／中／大
		角度：0／30／45／60°
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像に加工します。	弱／中／強
スリム	画像の縦横比を変更します。	-8～+8
HDR	擬似的にハイダイナミックレンジ画像にします。	弱／中／強
カスタム	好みのフィルターを作成して保存できます。	ハイコントラスト：OFF／+1～+5
		ソフトフォーカス：OFF／+1～+3
		トーンブレイク：OFF／レッド／グリーン／ブルー／イエロー
		シェーディングタイプ：6種類
		シェーディング強度：-3～+3
		ディストーションタイプ：3種類
		ディストーション強度：OFF／弱／中／強
		ネガポジ反転：OFF／ON

デジタルフィルターで加工できるのは、本機で撮影したJPEG／RAW画像のみです。

フィルターをかける

1 再生モードでフィルターをかける画像を選択する

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

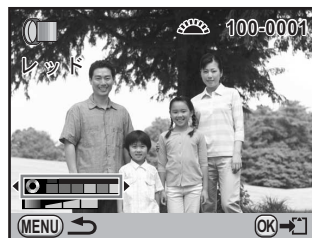
3 十字キー（▲▼◀▶）で （デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択し、OKボタンを押す

フィルターを選択すると、効果が画面で確認できます。

前電子ダイヤル（）を回して画像を切り替えることもできます。

5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）でフィルターを重ねる／新規保存を選ぶ

続けて他のフィルターを重ねて指定する場合は「フィルターを重ねる」を選択します。

8 OKボタンを押す

「フィルターを重ねる」を選んだ場合は、手順4の画面に戻ります。
「新規保存」を選んだ場合は、フィルター処理された画像が新規保存されます。

フィルターは撮影時デジタルフィルター（p.143）も含めて、通算20回まで重ねることができます。

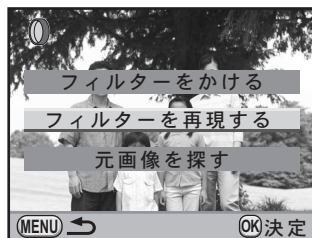
フィルターを再現する

フィルターをかけた画像の設定を呼び出し、他の画像に同じフィルターを適用します。

1 再生モードでフィルターをかけた画像を選択する

2 再生モードパレットで◐（デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で「フィルターを再現する」を選び、OKボタンを押す

選択した画像に設定されたフィルターの履歴が表示されます。

4 詳細を確認する場合は INFO ボタンを押す

フィルターのパラメーターが確認できます。

もう一度**INFO**ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

5 OKボタンを押す

画像を選択する画面が表示されます。

6 十字キー（◀▶）でフィルターをかける画像を選択し、OKボタンを押す

フィルター処理されていない画像のみ選択できます。

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

フィルターが適用された画像が保存されます。

手順3で「元画像を探す」を選択すると、デジタルフィルターを設定する前の画像を呼び出すことができます。元の画像がSDメモリーカード内に残っていない場合は、「フィルター処理前の画像が見つかりません」と表示されます。

RAW展開する

撮影したRAW画像をJPEGまたはTIFFに変換します。

RAW展開できるのは、本機で撮影したRAW画像のみです。他のカメラで撮影したRAW画像やJPEG画像はRAW展開できません。

1画像ずつRAW展開する

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でRAW（RAW展開）を選び、OKボタンを押す

展開方法を選択する画面が表示されます。

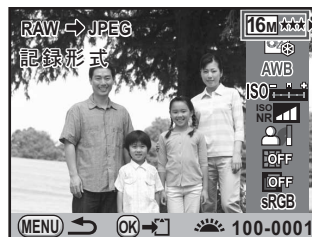
3 十字キー（▲▼）で「1 画像展開」を選び、OKボタンを押す

画像に記録されているパラメーターが表示されます。

パラメーターを変更しない場合は、手順6に進みます。

処理対象の画像がない場合は、「処理できる画像がありません」と表示されます。

4 十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する

前電子ダイヤル（）を回して画像を切り替えることもできます。

変更できるパラメーターは以下のとおりです。

パラメーター	値	参照
記録形式	JPEG／TIFF	—
記録サイズ *1	16M（4928×3264）／ 10M（3936×2624）／ 6M（3072×2048）／ 2M（1728×1152）	p.178
画質 *1	★★★★（プレミアム）／★★★（スーパーファイン）／★★（ファイン）／★（エコノミー）	p.179
カスタムイメージ	鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ほのか／銀残し／リバーサルフィルム／モノトーン	p.197
ホワイトバランス *2	AWB（オート）／☼（太陽光）／（日陰）／（曇天）／D（昼光色蛍光灯）／N（昼白色蛍光灯）／W（白色蛍光灯）／L（電球色蛍光灯）／（白熱灯）／WB（ストロボ）／CTE／（マニュアル）／K（色温度）	p.183
増減感	–2.0～+2.0	—
高感度NR	オート／オフ／弱／中／強	p.85
シャドー補正	オフ／弱／中／強	p.190
ディストーション補正 *3	オフ／オン	p.193
倍率色収差補正 *3	オフ／オン	p.193
色空間	sRGB／AdobeRGB	p.189

*1 記録形式を「TIFF」に指定した場合は設定できません。（16M 固定）
*2 多重露出で撮影されたRAW画像の場合は設定できません。
*3 対応レンズを使用したときのみ選択できます。（p.297）

5 十字キー（◀▶）で値を変更する

記録形式／記録サイズ／画質は、十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で項目を選択します。

カスタムイメージ／ホワイトバランスは、十字キー（▶）を押すと設定画面が表示されます。

6 OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

画像がRAW展開されて新規保存されます。

8 十字キー（▲▼）で継続／終了を選ぶ

他の画像も展開する場合は、「継続」を選びます。

9 OK ボタンを押す

手順8で「継続」を選んだ場合は、手順4のパラメーターを指定する画面に戻ります。

まとめてRAW展開する

複数の画像を同じ設定でまとめてRAW展開します。

1 p.238の手順3の画面で「一括展開」を選び、OK ボタンを押す

マルチ画面表示になります。

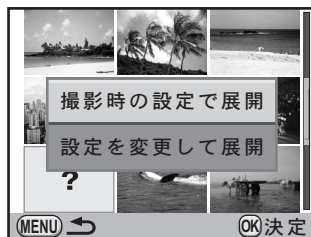
マルチ画面表示中の操作については、p.212を参照してください。

2 十字キー（▲▼◀▶）でRAW展開する画像を選択し、OK ボタンを押す

3 AE-L ボタンを押す

展開の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で撮影時の設定で展開／設定を変更して展開を選ぶ

パラメーターを変更する場合は、「設定を変更して展開」を選びます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で記録形式／記録サイズ／画質を設定する

TIFFを選択した場合、記録サイズ・画質は設定できません。

「設定を変更して展開」を選択した場合は、p.239を参照してその他のパラメーターを変更してください。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

選択した画像がRAW展開されて新規保存されます。

9 その他の設定を変更する

その他の設定変更のしかたをご紹介します。

詳細設定メニューの操作

カメラの全般的な設定は「🔧詳細設定」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.42)を参照してください。

詳細設定メニューの設定項目

「🔧詳細設定1〜4」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影または再生モードで**MENU**ボタンを押し、十字キー(◀▶)で「🔧詳細設定1〜4」メニューを表示します。

メニュー	項目	機能	参照
🔧1	Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。	p.256
	日時設定	年月日の表示形式と日時を設定します。	p.253
	ワールドタイム	海外で使用する際、現在地とは別に、指定した都市の日時を画像モニターに表示できるようにします。	p.253
	文字サイズ	メニュー選択時の文字の大きさを設定します。	p.257
	電子音	電子音の音量とオン/オフを切り替えます。	p.252
	ガイド表示	画像モニターにガイドを表示するかどうかを設定します。	p.257
	ステータススクリーン	ステータススクリーンの表示と配色を設定します。	p.258

メニュー	項目	機能	参照
🔧2	LCDの明るさ	画像モニターの明るさを設定します。	p.260
	LCD色調整	画像モニターの色味を調整します。	p.261
	ビデオ出力	ビデオ端子を備えたAV機器と接続するときの出力方式を設定します。	p.225
	HDMI出力	HDMI端子を備えたAV機器と接続するときに設定します。	p.227
	USB接続	パソコンと接続するときの転送モードを設定します。	p.279
	フォルダー名	画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。	p.263
	フォルダー新規作成	SDメモリーカードに新しいフォルダーを作成します。	p.263
🔧3	ファイル名	画像のファイル名の付け方を設定します。	p.264
	著作権情報	Exifに書き込む撮影者と著作権者の情報を設定します。	p.269
	オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.266
	バッテリー選択	別売のバッテリーグリップを装着したときのバッテリーの使い方を設定します。	p.267
	リセット	設定内容を初期化します。	p.296
🔧4	ピクセルマッピング	CMOSセンサーの画素の欠損部分を補完します。	p.273
	ダストアラート	CMOSセンサーに付着したほこりを検知します。	p.301
	ダストリムーバル	超音波振動でCMOSセンサーをクリーニングします。	p.300
	センサークリーニング	CMOSセンサーをブロアーでクリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。	p.303
	フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.246

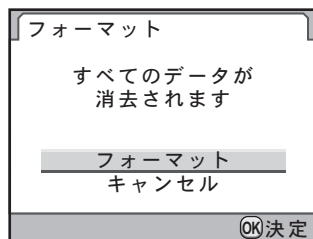
SDメモリーカードをフォーマットする

未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。
フォーマットすると、SDメモリーカードに保存されていたすべてのデータが消去されます。

注意
- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像も消去されます。ご注意ください。

1 「🔧詳細設定4」メニューの「フォーマット」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）を押し、「フォーマット」を選ぶ

3 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ
フォーマットすると、SDメモリーカードに「K-5 II」というボリュームラベルが付きます。本機をパソコンに接続した場合、SDメモリーカードは「K-5 II」という名称のリムーバブルディスクとして認識されます。（p.280）

ボタン／ダイヤルをカスタマイズする

前／後電子ダイヤルと**RAW/Fx**ボタン／**AF**ボタン／プレビューレバー／シャッターボタン半押し時にどのような動作をするかを設定できます。
各ボタン／ダイヤルの現在の機能は、ガイド表示で確認できます。（p.25）

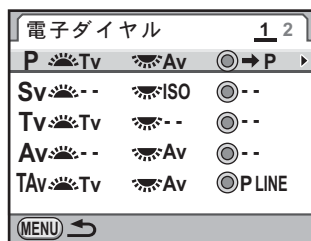
電子ダイヤルの動作を設定する

前／後電子ダイヤルと⦿ボタンを操作したときの動作を、露出モードごとに設定します。

1 「撮影 5」メニューの「電子ダイヤル」を選び、十字キー（▶）を押す

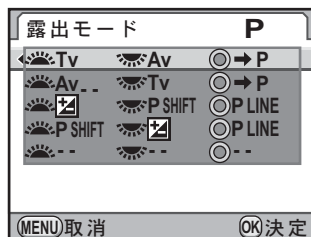
「電子ダイヤル1」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で露出モードを選ぶ

後電子ダイヤル（ ）で「電子ダイヤル2」画面に切り替えます。

3 十字キー（▶）を押す

選択した露出モードの画面が表示されます。

4 十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で動作を選択する

それぞれ以下の設定ができます。

露出モード	前電子ダイヤル	後電子ダイヤル	◉ボタン
P	Tv	Av	➡P
	Av	Tv	➡P
	±	P SHIFT	P LINE
	P SHIFT	±	P LINE
	–	–	–
Sv	–	ISO	–
	ISO	–	–
	P SHIFT	ISO	P LINE
	ISO	P SHIFT	P LINE
	±	ISO	–
	ISO	±	–
Tv	Tv	–	–
	–	Tv	–
	Tv	±	–
	±	Tv	–
	Tv	ISO	ISO AUTO
	ISO	Tv	ISO AUTO
Av	–	Av	–
	Av	–	–
	±	Av	–
	Av	±	–
	ISO	Av	ISO AUTO
	Av	ISO	ISO AUTO
TAv／M	Tv	Av	
	Av	Tv	
			P LINE
			Tv SHIFT
			Av SHIFT
			–
B	–	Av	–
	Av	–	–
	ISO	Av	–
	Av	ISO	–

露出モード	前電子ダイヤル	後電子ダイヤル	◉ボタン
X	–	Av	
	Av	–	
	ISO	Av	
	Av	ISO	
			AvSHIFT
			–
	–	Av	
	Av	–	
	±	Av	
	Av	±	
			AvSHIFT
			–

Tv：シャッター速度変更　**Av**：絞り値変更　**ISO**：ISO感度変更　±：露出補正
➡**P**：**P**に戻る　**P**LINE：プログラムライン　**P**SHIFT：プログラムシフト
–：操作無効

5 OKボタンを押す

6 MENUボタンを押す

手順2の画面に戻ります。
他の露出モードも設定する場合は、手順2〜6を繰り返します。

7 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

ボタンの動作を設定する

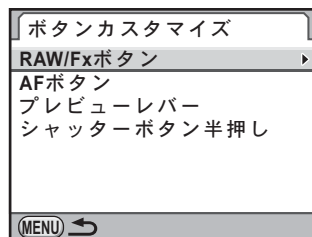
RAW/Fxボタン／**AF**ボタン／プレビューレバー（電源レバー）／シャッターボタン半押しの動作を設定します。

1 「撮影5」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選び、十字キー（▶）を押す

「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で設定するボタンを選び、十字キー（▶）を押す

各ボタンの設定をする画面が表示されます。

ボタンカスタマイズ
RAW/Fxボタン ▶
AFボタン
プレビューレバー
シャッターボタン半押し
MENU ⮌

3 十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で動作を選択する

それぞれ以下の機能が割り当てられます。

ボタン	設定	機能	参照
RAW/Fx ボタン	ワンタッチRAW+	一時的に保存形式を切り替えます。	p.181
	露出ブラケット	露出ブラケットを設定します。	p.138
	デジタルプレビュー	デジタルプレビューを表示します。	p.120
	電子水準器	画像モニターに電子水準器を表示します。	p.29
	構図微調整	「構図微調整」画面を表示します。	p.195
	GPS	別売のGPSユニットを装着しているときに、電子コンパス／直線ナビ／アストロトレーサー画面を表示します。	p.305
AFボタン	AF作動	オートフォーカスが作動します。	p.110
	AFキャンセル	ボタンを押している間は、シャッターボタンでのオートフォーカスが無効になります。	
プレビューレバー	光学プレビュー	電源レバーをプレビュー位置（◎）に合わせたときに、光学プレビューを行います。	p.118
	デジタルプレビュー	電源レバーをプレビュー位置（◎）に合わせたときに、デジタルプレビューを表示します。	

ボタン	設定	機能	参照
シャッターボタン半押し	AF作動	オートフォーカスが作動します。	–
	オフ	シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しません。	
	オフ（ライブビューのみ）	ライブビューのときだけ、シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しません。	

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを3回押す

撮影できる状態になります。

音／日時／言語を設定する

電子音を設定する

カメラ操作時の電子音の音量とオン／オフを設定できます。初期設定は、音量は「3」ですべて☑（オン）です。
設定できる項目は以下のとおりです。

- 合焦音
- AE-L（AEロック時の操作音）
- セルフタイマー
- リモコン
- ミラーアップ
- ワンタッチRAW+（**RAW**/**Fx**ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てたときの操作音）
- OKボタン1秒押し（測距点移動の有効／無効を切り替えるときの操作音）

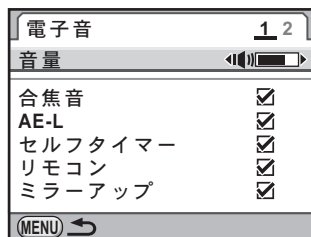
1 「🔧詳細設定1」メニューの「電子音」を選び、十字キー（▶）を押す

「電子音1」画面が表示されます。

2 十字キー（▼）を押してから十字キー（◀▶）で音量を設定する

6段階で設定できます。🔇（0）を選択すると、すべての項目の電子音が鳴りません。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

後電子ダイヤル（）で「電子音2」画面に切り替えます。

4 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

5 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

日時の表示を変更する

初期設定で設定した日付と時刻を変更します。また、日付と時刻の表示形式を設定します。日付の表示形式は、年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます。時刻の表示形式は、12h（12時間制）／24h（24時間制）から選択できます。

「🔧詳細設定1」メニューの「日時設定」で設定します。

☞日時を設定する （p.62）

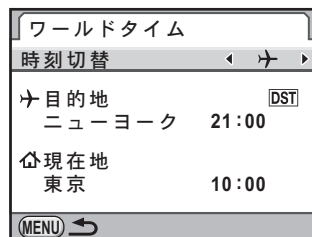
ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」（p.60）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」で目的地を設定しておくと、海外で使用する際、画像モニターに目的地の都市の日時を表示できます。

1 「🔧詳細設定1」メニューの「ワールドタイム」を選び、十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

ガイド表示とコントロールパネルの日時は、この設定で切り替わります。

3 十字キー（▼）を押す

選択枠が「✈目的地」に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

「✈目的地」画面が表示されます。

5 十字キー（◀▶）で目的地の都市名を選択する

後電子ダイヤル（）を回すと、地図が切り替わります。

選択した都市の位置・時差・現在時刻が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「夏時間」を選ぶ

7 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

8 OKボタンを押す

目的地の設定が保存され、手順2の画面に戻ります。

9 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

メモ

- 目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.255）を参照してください。
- 手順2で「⌂現在地」を選択すると、現在地の都市や夏時間を設定できます。
- 「時刻切替」を✈（目的地）に設定すると、ガイド表示に✈が表示されます。（p.25）またビデオ出力方式（p.225）はその都市の初期設定に切り替わります。

都市名一覧

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

表示言語を設定する

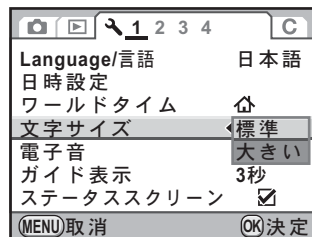
メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。
「🔧詳細設定1」メニューの「Language/言語」で設定します。

☞言語を設定する（p.60）

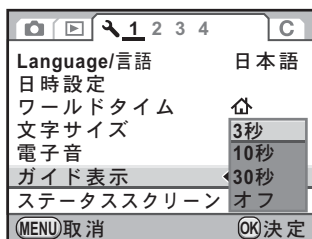
画像モニター／メニュー表示を設定する

文字サイズを設定する

選択しているメニューの文字の大きさを、標準（通常表示）／大きい（拡大表示）に設定します。

「🔧詳細設定1」メニューの「文字サイズ」で設定します。

ガイド表示時間を設定する

電源を入れたときや、露出モードを変更したときに、画像モニターにガイドを表示する時間を設定します。（p.25）
3秒（初期設定）／10秒／30秒／オフから選択します。

「🔧詳細設定1」メニューの「ガイド表示」で設定します。

メニューの表示ページを設定する

MENU ボタンを押してメニューを表示したときに最初に表示するページについて設定します。

1 「C カスタム4」メニューの「24. メニュー選択の記憶」を選び、十字キー（▶）を押す

「24. メニュー選択の記憶」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で記憶しない／記憶するを選び、OK ボタンを押す

1	記憶しない	常に「撮影1」（露出モードが（動画）のときは「撮影4」、再生モードのときは「再生1」）から表示する（初期設定）
2	記憶する	最後に選択したメニューのページを最初に表示する

3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ステータススクリーンの表示を設定する

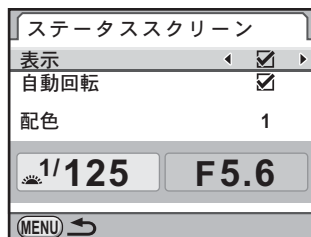
画像モニターにステータススクリーンを表示するかどうかと、ステータススクリーンとコントロールパネルの配色を設定します。

1 「詳細設定1」メニューの「ステータススクリーン」を選び、十字キー（▶）を押す

「ステータススクリーン」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で表示の☑／□を切り替える

☑	ステータススクリーンを表示する（初期設定）
□	ステータススクリーンを表示しない

ステータススクリーン
表示 ◀ ☑ ▶
自動回転 ☑
配色 1
1/125 F5.6
MENU ↩

3 十字キー（▲▼）で「自動回転」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	測光タイマー作動中にカメラを縦位置に構えると、ステータススクリーン／コントロールパネルが縦に表示されます。（初期設定）
□	ステータススクリーン／コントロールパネルを常に横で表示します。

4 十字キー（▲▼）で「配色」を選び、十字キー（◀▶）で1～6の中から配色を選択する

5 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

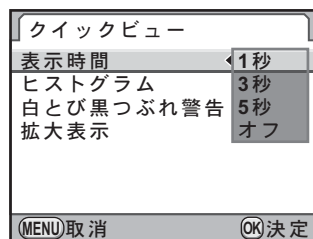
クイックビューの表示を設定する

撮影直後に画像を表示するクイックビューの表示を設定します。

1 「📷撮影5」メニューの「クイックビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

「クイックビュー」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でクイックビューの表示時間を選択する

クイックビュー
表示時間 1秒
ヒストグラム 3秒
白とび黒つぶれ警告 5秒
拡大表示 オフ
MENU 取消 OK 決定

3 OKボタンを押す

4 十字キー（▲▼）でヒストグラム／白とび黒つぶれ警告／拡大表示を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

「拡大表示」を☑（初期設定）に設定しておくと、後電子ダイヤル（）で拡大表示ができます。（p.211）

6 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

画像モニターの明るさを設定する

画像モニターの明るさを設定できます。

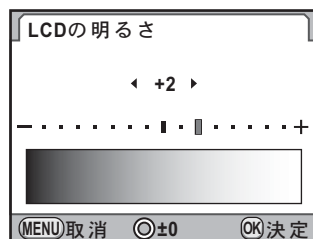
1 「🔧詳細設定2」メニューの「LCDの明るさ」を選び、十字キー（▶）を押す

「LCDの明るさ」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で明るさを調整する

15段階の調整ができます

⦿ボタンを押すと、±0にリセットされます。

9 その他の設定を変更する

3 OKボタンを押す

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

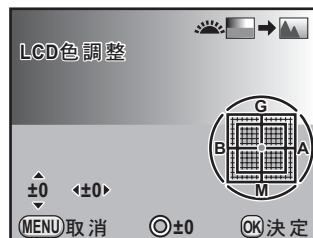
画像モニターの色味を設定する

画像モニターの色味を調整します。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「LCD色調整」を選び、十字キー（▶）を押す

「LCD色調整」画面が表示されます。

2 色味を調整する

G-M／B-Aの座標軸から、各7段階の調整が可能です。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	G-M（グリーン–マゼンタ）間の色味を調整します。
十字キー（◀▶）	B-A（ブルー–アンバー）間の色味を調整します
⦿ボタン	調整値をリセットします。
前電子ダイヤル（ダイヤル）	保存されている画像を背景に表示し、画像を見ながら調整ができます。パソコンのモニターと色合わせをしたいときなどに便利です。

3 OKボタンを押す

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

電子水準器の表示を設定する

本機には、カメラの傾きを検知する電子水準器が搭載されており、ファインダー内／表示パネル／画像モニターにバーグラフを表示できます。このバーグラフを表示するかどうかを設定します。

1 「撮影4」メニューの「電子水準器」を選ぶ

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	電子水準器のバーグラフを表示する
□	電子水準器のバーグラフを表示しない（初期設定）

3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

画像モニターのバーグラフは、コントロールパネルで**INFO**ボタンを押すと表示されます。（p.26）**RAW**/**Fx**ボタンに電子水準器を割り当てている場合（p.249）は、ステータススクリーンまたはライブビュー画面で**RAW**/**Fx**ボタンを押したときに表示されます。（p.149）

フォルダー／ファイルNo.を設定する

フォルダー名の付け方を選択する

画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。
「詳細設定2」メニューの「フォルダー名」で設定します。

日付	「xxx_MMDD」の形式で、画像を撮影した月／日が2桁表示でフォルダー名に付けられます。「xxx」は100から999までの連番です。「MMDD」（月日）の表示は、「日時設定」（p.253）の表示スタイルに準じます。（初期設定） 例）101_0125：1月25日に撮影した画像が保存されるフォルダー
PENTX	「xxxPENTX」の形式でフォルダー名が付けられます。 例）101PENTX

撮影可能枚数が500枚を超える場合、撮影画像は500枚ごとにフォルダーが分かれて保存されます。ただし、オートブラケット撮影のときは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダーに保存されます。

フォルダーを作成する

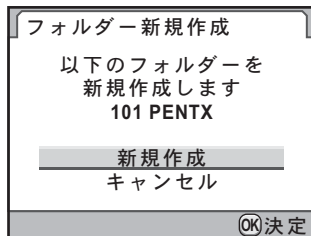
SDメモリーカードに新しくフォルダーを作成します。使用中のフォルダーの次の番号のフォルダーが作成されます。

1 「詳細設定2」メニューの「フォルダー新規作成」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォルダー新規作成」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「新規作成」を選び、OKボタンを押す

新しい番号のフォルダーが作成されます。

フォルダー新規作成
以下のフォルダーを
新規作成します
101 PENTX
新規作成
キャンセル
OK 決定

この操作で作成されるフォルダーは1つのみです。空のフォルダーを続けて複数作成することはできません。

ファイル名の付け方を設定する

画像のファイル名を任意の名称に変更できます。
初期設定では、「撮影3」メニューの「色空間」(p.189)の設定によって下記のように命名されます。
「xxxx」はファイルNo.です。4桁の連番で表されます。

色空間	ファイル名
sRGB	IMGPxxxx.JPG
AdobeRGB	_IGPxxxx.JPG

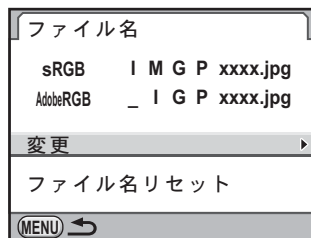
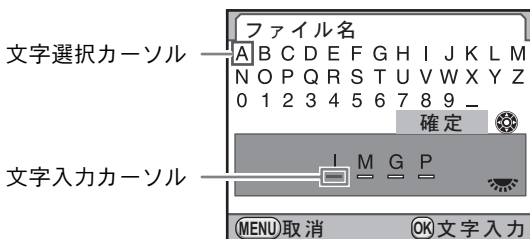
sRGBの場合の「IMGP」(4文字)を任意の文字に変更できます。
AdobeRGBの場合は、設定した4文字のうち最初の3文字が「IGP」に替わって割り当てられます。

例)「ABCDxxxx.JPG」に設定 → AdobeRGBでは「_ABCxxxx.JPG」と命名

1 「詳細設定3」メニューの「ファイル名」を選び、十字キー(▶)を押す

「ファイル名」画面が表示されます。

2 十字キー(▲▼)で「変更」を選び、十字キー(▶)を押す

文字を入力する画面が表示されます。
「ファイル名リセット」を選択すると、変更したファイル名が初期設定に戻ります。

3 文字を変更する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	文字選択カーソルを移動します。
後電子ダイヤル（ダイヤル）	文字入力カーソルを移動します。
OK ボタン	文字選択カーソルが選択している文字を文字入力カーソルの位置に入力します。

4 文字が全部入力できたら、文字選択カーソルを「確定」まで移動し、OK ボタンを押す

変更が確定します。

5 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ファイルNo.の付け方を選択する

「撮影4」メニューの「モードメモリ」（p.274）で「ファイルNo.」を設定することで、画像が保存されるフォルダーが新しくなったときの、画像のファイルNo.の付け方を選ぶことができます。

☑	前のフォルダーに最後に保存された画像のファイルNo.が記憶され、フォルダーが新しくなっても続きのファイルNo.になります。
□	画像を保存するフォルダーが新しくなるたびに、最初に保存される画像のファイルNo.が0001に戻ります。

電源を設定する

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。電源が切れるまでの時間は、1分（初期設定）／3分／5分／10分／30分／オフから選択できます。

「🔧詳細設定3」メニューの「オートパワーオフ」で設定します。

- 次のときは、オートパワーオフは働きません。
  - ライブビュー中
  - スライドショウ再生中
  - USB接続中
- オートパワーオフから復帰するときは、以下のいずれかの操作をしてください。
  - 電源を入れ直す
  - シャッターボタンを半押しする
  - ▶ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す

バッテリーを選択する

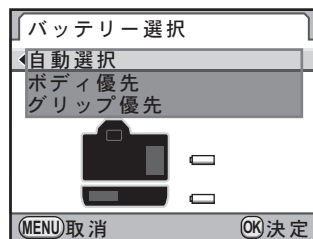
別売のバッテリーグリップ D-BG4装着時に、本体とバッテリーグリップどちらのバッテリーを優先して使用するか設定できます。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「バッテリー選択」を選び、十字キー（▶）を押す

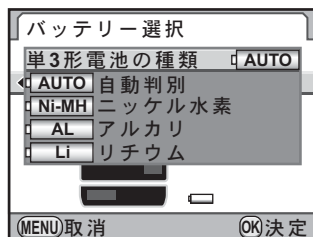
「バッテリー選択」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で優先的に使用するバッテリーを選択し、OK ボタンを押す

自動選択	残量の多いバッテリーを優先して使用します。（初期設定）
ボディ優先／グリップ優先	選択した方のバッテリーを優先して使用します。

4 バッテリーグリップに単3形電池を使用している場合は、十字キー（▲▼）で「単3形電池の種類」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲▼）で単3形電池の種類を選択し、OK ボタンを押す

「自動判別」に設定すると、セットされた電池の種類を自動で判別します。

6 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- ボディとグリップの両方にバッテリーを入れたときは、電源を入れたときに両方のバッテリーの残量チェックを行います。その際、優先に指定していない方のバッテリーもわずかに消費されます。
- 残量チェックの結果、現在選択されている方のバッテリー残量がなくなると、「電池容量がなくなりました」と画像モニターに表示されます。いったん電源を切って入れ直すと、残量のある方のバッテリーに切り替わります。
- バッテリーの使用状況は、ステータススクリーンと表示パネルで確認できます。（p.51）

バッテリーグリップにセットした単3形電池と手順5の設定が異なると、電池残量が正しく判断されません。正しく設定するようにしてください。通常は「自動判別」のままで問題ありませんが、低温時や長期間保存してあった電池を使用する場合などは、電池の種類を正しく指定することにより、適切な残量表示ができます。

撮影者情報を設定する

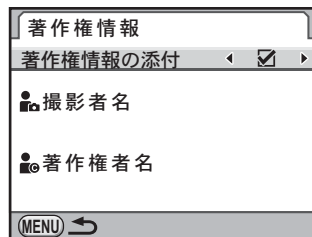
撮影した画像には、カメラの機種や撮影条件などの情報がExifというデータ形式で自動的に埋め込まれています。このExifに撮影者情報を書き込むことができます。

Exif情報は、付属のソフトウェア（p.283）などで確認できます。

1 「詳細設定3」メニューの「著作権情報」を選び、十字キー（▶）を押す

「著作権情報」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	著作権情報をExifに書き込む
□	著作権情報をExifに書き込まない（初期設定）

3 十字キー（▲▼）で「撮影者名」を選び、十字キー（▶）を押す

文字を入力する画面が表示されます

4 文字を入力する

半角32文字までの英数字・記号が入力できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	文字選択カーソルを移動します。
後電子ダイヤル（⚙）	文字入力カーソルを移動します。
⦿ボタン	大文字／小文字を切り替えます。
OK ボタン	文字選択カーソルが選択している文字を文字入力カーソルの位置に入力します。
🗑ボタン	文字入力カーソル位置の文字を消去します。

5 文字が全部入力できたら、文字選択カーソルを「確定」まで移動し、OK ボタンを押す

「著作権情報」画面に戻ります。

6 十字キー（▲▼）で「著作権者名」を選び、「撮影者名」と同様に入力する

7 MENU ボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

DPOFを設定する

画像を記録したSDメモリーカードにDPOF（Digital Print Order Format）を設定することで、プリント枚数や日付印刷が指定できます。このSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真のようにプリントが注文できます。

- RAW画像と動画はDPOFを設定できません。
- DPOF設定ができるのは、最大で999画像です。

1 再生モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（DPOF）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。

4 十字キー（◀▶）で画像を選択する

5 十字キー（▲▼）でプリント枚数を指定する

99枚まで設定できます。

枚数を指定した画像には、画面右上にが表示されます。

DPOF設定を解除するときは、枚数を「00」に設定します。

6 後電子ダイヤル（）を回し、日付の☑／□を切り替える

☑	日付をプリントする
□	日付をプリントしない

他の画像も設定する場合は、手順4～6を繰り返します。

7 OKボタンを押す

DPOF設定が保存され、再生モードに戻ります。

- プリンターやプリント取扱店の機器によっては、日付がプリントされないことがあります。
- 全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定され、1画像ずつの設定は解除されます。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

ピクセルマッピングは、CMOSセンサーの画素に欠けがあった場合に補完処理をする機能です。

1 「🔧詳細設定4」メニューの「ピクセルマッピング」を選び、十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「ピクセルマッピング」を選び、OKボタンを押す

補完処理が行われ、メニュー選択前の画面に戻ります。

注意

バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキット（別売）を使用するか、容量が十分残っているバッテリーを使用してください。

カメラに保存する設定を選択する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても設定を記憶しておく機能を選択します。以下の機能について設定できます。

機能	初期設定
ストロボモード	☑
ドライブモード	☑
ホワイトバランス	☑
カスタムイメージ	☑
ISO感度	☑
露出補正	☑
ストロボ光量補正	☑

機能	初期設定
クロスプロセス	□
拡張ブラケット	☑
デジタルフィルター	□
HDR撮影	□
再生情報表示	☑
ファイルNo.	☑

モードダイヤルがUSERになっていると、「モードメモリ」は選択できません。

1 「📷 撮影 5」メニューの「モードメモリ」を選び、十字キー（▶）を押す

「モードメモリ1」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

後電子ダイヤル（　）で「モードメモリ2」画面に切り替えます。

モードメモリ 1 2
ストロボモード ☑
ドライブモード ☑
ホワイトバランス ☑
カスタムイメージ ☑
ISO感度 ☑
露出補正 ☑
ストロボ光量補正 ☑
MENU ⮌

3 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	電源を切っても設定は記録されます。
□	電源を切ると設定は消去され、初期設定に戻ります。

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 「ファイル No.」を ☑ （オン）にすると、フォルダーが新しくなってもファイル名の連番が継続されます。詳しくは、「ファイルNo.の付け方を選択する」（p.265）を参照してください。
- 「🔧 詳細設定」メニューをリセット（p.296）すると、モードメモリの設定はすべて初期設定に戻ります。

10 パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明します。

画像をパソコンで利用するには

撮影した静止画・動画は、本機とパソコンをUSBケーブルで接続して転送し、付属のソフトウェアで管理できます。
パソコンと接続したり、付属ソフトウェア「PENTAX Digital Camera Utility 4」を使用するには、以下のシステム環境が必要です。

● **Windows**

OS	Windows XP（SP3以降）／Windows Vista／Windows 7（各x64版では32bitアプリケーションとして動作可能）
CPU	Pentium D 3.0GHz相当以上（Intel Core 2 Duoプロセッサ2.0GHz相当以上を推奨）
メモリ	2.0GB以上（3.0GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	1GB以上（8GB以上推奨）
モニター	1280×800 以上 （1920×1200 以上を推奨）、24bitフルカラー（約1677万色）表示可能なもの
その他	USB 2.0ポート標準搭載

● **Macintosh**

OS	Mac OS X 10.4.11／10.5／10.6／10.7
CPU	PowerPC G5 Dual-core 2.0GHz以上（Intel Core 2 Duo プロセッサ 2.0GHz 以上を推奨。Universal Binary対応）
メモリ	2.0GB以上（4.0GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	1GB以上（8GB以上推奨）
モニター	1280×800 以上（1920×1200 以上を推奨）、24bitフルカラー（約1677万色）表示可能なもの
その他	USB 2.0ポート標準搭載

画像をパソコンに保存する

転送モードを設定する

本機とパソコンを接続するときの転送モードを設定します。

1 「🔧 詳細設定 2」メニューの「USB 接続」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でMSC／PTPを選択する

MSC	マスストレージクラス（初期設定） パソコンにUSB接続された機器を記憶装置として扱うための汎用のドライバープログラムです。
PTP	ピクチャートランスファープロトコル USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルです。

特に指定がない限り「MSC」を選択します。

3 OK ボタンを押す

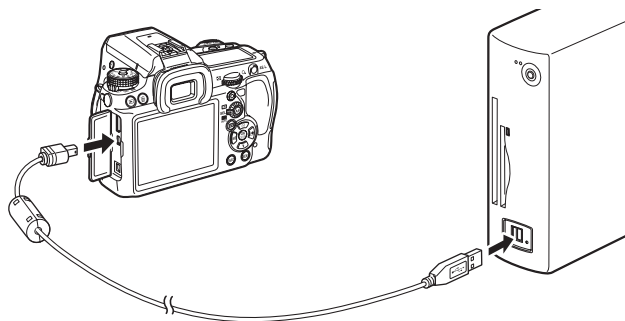
4 MENU ボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラとパソコンを接続する

付属のUSBケーブル I-USB7を使用してパソコンと接続します。

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源を切り、USBケーブルでカメラのPC/AV端子とパソコンを接続する

3 カメラの電源を入れる

カメラは「K-5 II」というボリュームラベルで、リムーバブルディスクまたはSDメモリーカードとして認識されます。

カメラの電源を入れたときに「K-5 II」ダイアログが表示された場合は、ダイアログ内の「フォルダを開いてファイルを表示する エクスプローラ使用」を選択してOKボタンをクリックします。

4 カメラの画像をパソコンに保存する

画像ファイルまたはフォルダーをパソコンのハードディスクなどにコピーします。

5 カメラをパソコンから取り外す

パソコンと接続中は、カメラの操作はできません。操作を行うときは、パソコンでUSB接続を終了してからカメラの電源を切り、USBケーブルを抜いてください。

付属ソフトウェアを使用する

付属のCD-ROM（S-SW132）には、「PENTAX Digital Camera Utility 4」が収録されています。PENTAX Digital Camera Utility 4は、パソコンに保存した画像の管理や、本機で撮影したRAWファイルの展開（現像）や色調整などができます。

対応ファイル形式：.bmp（BMP）／.jpg（JPEG）／.pef（PENTAX独自フォーマットのRAWファイル）／.png（PNG）／.tif（TIFF）／.dng（DNGフォーマットのRAWファイル）

ソフトウェアのインストール

付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールします。
ご使用のOSで複数アカウントを設定している場合は、administrator（管理者）権限でログオンしてからインストールを始めてください。

1 パソコンの電源を入れる

他に起動しているソフトがあるときは、終了させます。

2 CD-ROMをパソコンのCD／DVDドライブにセットする

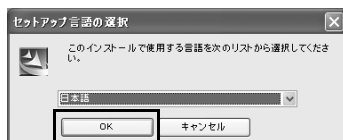
「PENTAX Software Installer」の画面が表示されます。

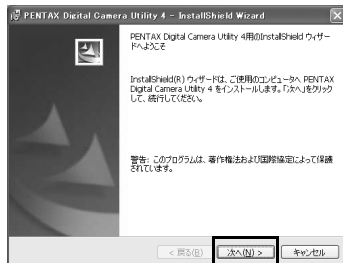
「PENTAX Software Installer」の画面が表示されない場合

- **Windows**
  1 スタートメニューから「マイコンピュータ」をクリックする
  2「CD／DVDドライブ（S-SW132）」のアイコンをダブルクリックする
  3「Setup.exe」のアイコンをダブルクリックする
- **Macintosh**
  1 デスクトップのCD／DVD（S-SW132）のアイコンをダブルクリックする
  2「PENTAX Installer」のアイコンをダブルクリックする

3 「PENTAX Digital Camera Utility 4」をクリックする

Macintoshの場合は、以降の操作は画面の指示に従ってください。

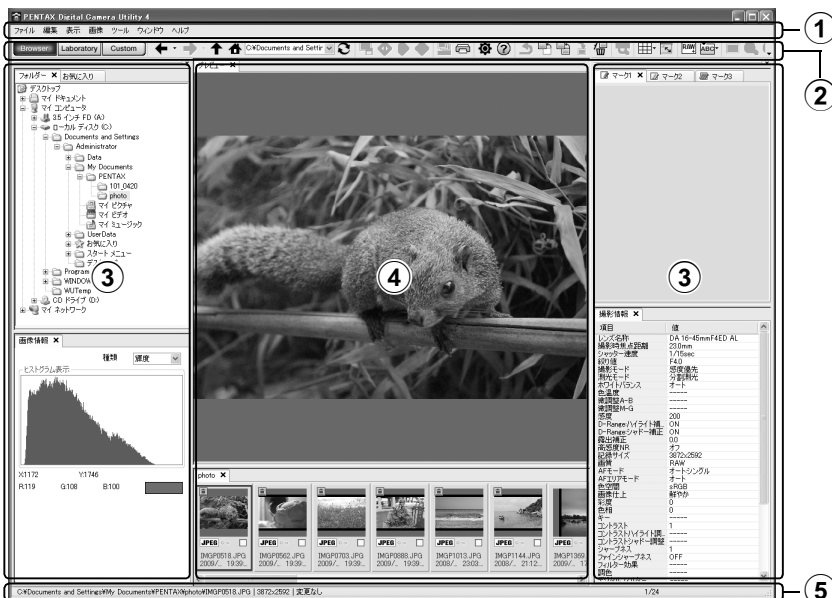
4 「セットアップ言語の選択」画面で「日本語」を選択し、［OK］ボタンをクリックする

5 日本語の「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックする

以降の操作は画面の指示に従ってください。

PENTAX Digital Camera Utility 4の画面

PENTAX Digital Camera Utility 4を起動すると、次の画面（Browser）が表示されます。

ここではWindowsの画面を例に説明します。

● **Browser表示セット（初期設定）**

画像の閲覧・管理や画像に関するパネルが表示されます。

① メニューバー

機能の実行や各種設定を行います。
Macintosh版ではメニューはデスクトップ上部に表示されます。

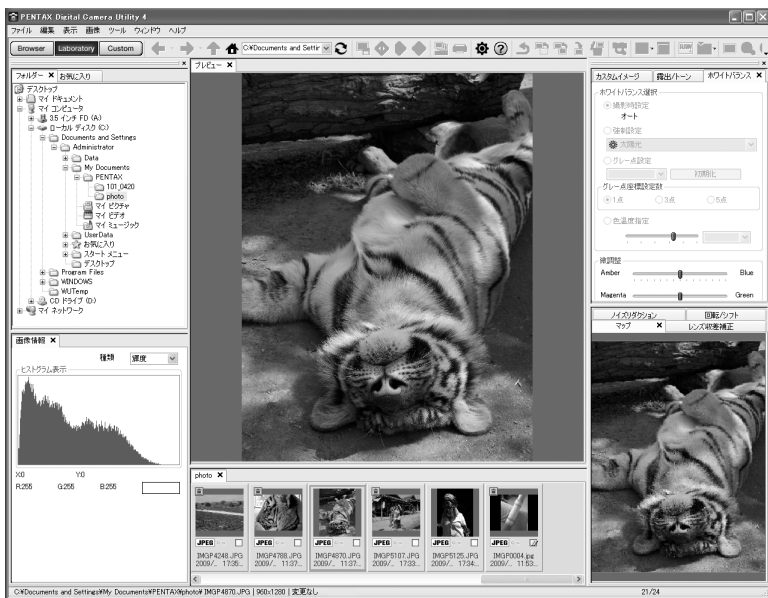
② ツールバー

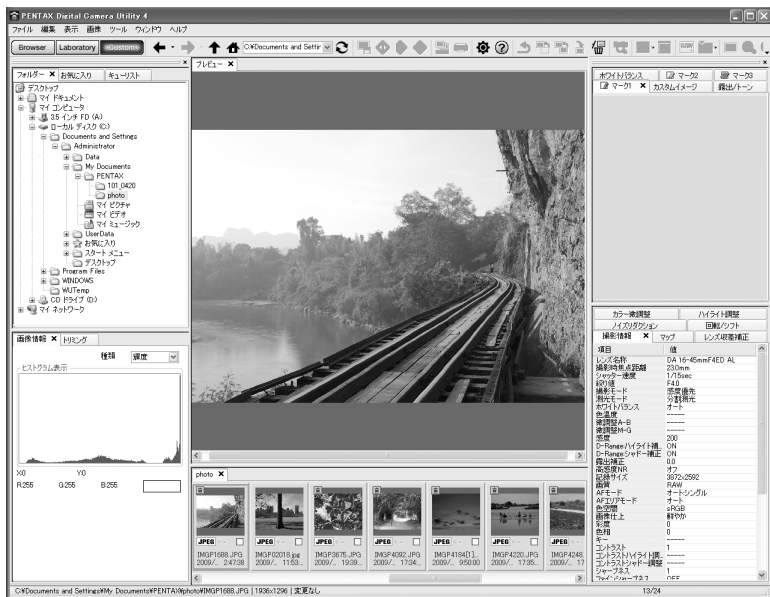
頻繁に使用する機能が、ツールバーの各ボタンとして用意されています。

③コントロールパネル
選択した画像の撮影情報や設定のためのパネルが表示されます。ツールバーのBrowser ／Laboratory ／Custom のボタンによって、コントロールパネルの表示セットを切り替えることができます。

④ファイル表示ペイン
選択したフォルダー内のファイル一覧や画像が表示されます。

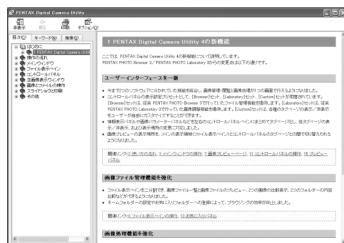
⑤ステータスバー
選択中の項目の情報などが表示されます。

● Laboratory表示セット（初期設定）
画像調整に関するコントロールパネルが表示されます。

● **Custom表示セット（初期設定）**

Browser／Laboratoryとは別のパネル表示セットが登録できます。初期状態では、Browser／Laboratoryで表示されないものも含めて、すべてのパネルが表示されます。

ソフトウェアの詳しい説明を見る

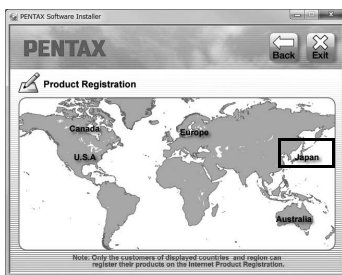
ソフトウェアの詳しい使い方については、ヘルプを参照してください。

1 ツールバーの ? ボタンを押す

または「ヘルプ」メニュー→「PENTAX Digital Camera Utilityヘルプ」を選択します。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力ください。

p.282の手順3の画面で、「Product Registration」をクリックします。

図のような地図画面が表示されたら、「Japan」をクリックしてください。パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録をしてください。

ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://service.pentax.jp/pentax/user

11 付録

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
カメラの電源を切っても、モードメモリ（p.274）で設定した機能は保存されます。

リセット設定
する　：リセット（p.296）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

ダイレクトキー

項目	初期設定	リセット設定	参照
ドライブモード	□（1コマ撮影）	する	p.132 p.125 p.127 p.138 p.130
ストロボモード	撮影モードによって異なる	する	p.69
ホワイトバランス	AWB（オート）	する	p.183
カスタムイメージ	鮮やか	する	p.197

「撮影」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
USERモード切替 *1		USER1	する	p.206
露出モード *1		P（プログラム自動露出）	する	p.205
記録形式		JPEG	する	p.180
JPEG記録サイズ		16M（4928×3264）	する	p.178
JPEG画質		★★★（スーパーファイン）	する	p.179
AF設定	測距点AUTO設定	11点	する	p.113
	セレクトエリア拡大	□（オフ）	する	p.115

項目		初期設定	リセット設定	参照
レンズ補正	ディストーション補正	オフ	する	p.193
	倍率色収差補正	オフ	する	
クロスプロセス		オフ	する	p.200
拡張ブラケット	種類	オフ	する	p.141
	ステップ	BA±1（ホワイトバランス）／±1（ホワイトバランス以外）	する	
デジタルフィルター		フィルターオフ	する	p.143
HDR撮影	HDR撮影	オフ	する	p.191
	自動位置調整	□（オフ）	する	
多重露出	撮影回数	2回	する	p.136
	自動露出調整	□（オフ）	する	
インターバル撮影	撮影間隔	00:00'01"	する	p.133
	撮影枚数	2枚	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	
構図微調整	X-Y方向	中央	する	p.195
	回転	±0°	する	
	前回位置から調整	□（オフ）	する	
D-Range設定	ハイライト補正	オフ	する	p.190
	シャドー補正	オフ	する	
感度AUTO設定	下限～上限	100 - 3200	する	p.84
	感度アップポイント	（標準）	する	
高感度NR		オート	する	p.85
長秒時NR		オート	する	p.87
プログラムライン		Normal（ノーマル）	する	p.89
色空間		sRGB	する	p.189
RAWファイル形式		PEF	する	p.181

項目			初期設定	リセット設定	参照
動画	記録サイズ		HD（1280×720／16：9／30fps）	する	p.152
	画質		★★★（スーパーファイン）	する	
	音声		（オン）	する	
	クロスプロセス		オフ	する	
	デジタルフィルター		フィルターオフ	する	
	絞り設定		固定	する	
	Shake Reduction		（オフ）	する	
ライブビュー	AF方式		（顔検出AF）	する	p.147
	グリッド表示		オフ	する	
	情報表示		☑（オン）	する	
	ヒストグラム		□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
電子水準器			□（オフ）	する	p.262
自動水平補正			□（オフ）	する	p.123
Shake Reduction			（オン）	する	p.122
焦点距離入力			35mm	する	p.124
GPS	電子コンパス		—	—	p.305
	直線ナビ		—	—	
	アストロトレーサー(Bulb)	タイマー	□（オフ）	する	
		タイマー露出	5'00"	する	
		精密キャリブレーション	—	—	
	キャリブレーション		—	—	
	測位時間		1分	する	
	自動時刻修正		オン	する	
クイックビュー	表示時間		1秒	する	p.259
	ヒストグラム		□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
	拡大表示		☑（オン）	する	

項目		初期設定	リセット設定	参照
デジタルプレビュー	ヒストグラム	□（オフ）	する	p.119
	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
	拡大表示	☑（オン）	する	
電子ダイヤル	P	Tv／Av／⦿➡P	する	p.247
	Sv	–／ISO／⦿–		
	Tv	Tv／–／⦿–		
	Av	–／Av／⦿–		
	TAv／M	Tv／Av／⦿P LINE		
	B	–／Av／⦿–		
	X	–／Av／⦿–		
	動画	–／Av／⦿AvSHIFT		
ボタンカスタマイズ	RAW/Fxボタン	ワンタッチRAW+	する	p.249
	AFボタン	AF作動		
	プレビューレバー	光学プレビュー		
	シャッターボタン半押し	AF作動		
モードメモリ	クロスプロセス／デジタルフィルター／HDR撮影	□（オフ）	する	p.274
	上記以外	☑（オン）	する	
USERモード登録		—	する*2	p.202

*1 モードダイヤルをUSERに合わせたときのみ表示されます。

*2「USERモード登録」画面の「USERモードリセット」で初期化されます。

再生モードパレット

項目	初期設定	リセット設定	参照
画像回転	—	—	p.219
デジタルフィルター	トイカメラ	する	p.233
リサイズ	設定可能な最大値	—	p.230
トリミング	設定可能な最大値	—	p.231
プロテクト	—	しない	p.222
スライドショウ	—	—	p.217
マニュアルWB登録	—	—	p.187
RAW展開	記録形式：JPEG 記録サイズ：16M 画質：★★★	する	p.238
インデックス	—	—	p.215
動画編集	—	—	p.159
DPOF	—	しない	p.271
目的地登録	—	—	p.306

「▶再生」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	p.217
	画面効果	オフ	する	
	繰返し再生	□（オフ）	する	
クイック拡大		オフ	する	p.210
白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
画像の自動回転		☑（オン）	する	
全画像消去		—	—	p.222

「詳細設定」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
Language/言語		English	しない	p.256
日時設定		2012/01/01	しない	p.253
ワールドタイム	時刻切替	（現在地）	する	p.253
	目的地（都市）	現在地と同じ	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	しない	
文字サイズ		初期設定による	しない	p.257
電子音	音量	3	する	p.252
	設定	すべて☑（オン）		
ガイド表示		3秒	する	p.257
ステータススクリーン	ステータススクリーン	☑（オン）	する	p.258
	自動回転	☑（オン）	する	
	配色	1	する	
LCDの明るさ		±0	する	p.260
LCD色調整		±0	する	p.261
ビデオ出力		初期設定による	しない	p.225
HDMI出力		オート	する	p.227
USB接続		MSC	する	p.279
フォルダー名		日付	する	p.263
フォルダー新規作成		—	—	p.263
ファイル名		IMGP／_IGP	しない*3	p.264
著作権情報	著作権情報の添付	□（オフ）	しない	p.269
	撮影者名	—		
	著作権者名	—		
オートパワーオフ		1分	する	p.266
バッテリー選択	バッテリー選択	自動選択	する	p.267
	単3形電池の種類	自動判別	する	
リセット		—	—	p.296
ピクセルマッピング		—	—	p.273
ダストアラート		—	—	p.301

項目		初期設定	リセット設定	参照
ダストリムーバル	ダストリムーバル	—	—	p.300
	起動時の作動	☑（オン）	する	
センサークリーニング		—	—	p.303
フォーマット		—	—	p.246

*3「ファイル名」画面の「ファイル名リセット」で初期化されます。

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
1. 露出設定ステップ	1/3 EVステップ	する	p.106
2. ISO感度ステップ	1 EVステップ	する	p.84
3. 拡張感度	オフ	する	p.84
4. 測光作動時間	10秒	する	p.104
5. AFロック時のAE-L	オフ	する	p.115
6. 測距点と露出の関連付	オフ	する	p.104
7. 連動外の自動補正	オフ	する	—
8. ブラケット撮影順	0 - +	する	p.138
9. ワンプッシュブラケット	オフ	する	p.140
10. WBの光源調整範囲	自動調整	する	p.185
11. ストロボ発光時のWB	**AWB**	する	p.185
12. 白熱灯下のAWB	弱	する	—
13. 色温度ステップ	ケルビン	する	p.188
14. スーパーインポーズ	オン	する	p.113
15. AF.Sの動作	フォーカス優先	する	p.109
16. AF.Cの動作	フォーカス優先	する	p.109
17. AF補助投光	オン	する	p.109
18. リモコン時のAF	オフ	する	p.129
19. B時のリモコン撮影	Mode1	する	p.102
20. 充電中のレリーズ	オフ	する	p.71
21. ワイヤレス時の発光	オン	する	p.172
22. 表示パネルの照明	明るい	する	p.38
23. 回転情報の記録	オン	する	p.219
24. メニュー選択の記憶	記憶しない	する	p.258

項目	初期設定	リセット設定	参照
25. キャッチインフォーカス	オフ	する	p.117
26. AF微調整	オフ	する [*4]	p.111
27. 絞りリングの使用	禁止	する	p.299
カスタムのリセット	—	—	p.296

*4 登録した調整値は「26. AF微調整」画面内の「リセット」で初期化されます。

メニューのリセット

撮影／再生／詳細設定メニューのリセット

「撮影」メニュー／「再生」メニュー／「詳細設定」メニュー／ダイレクトキー／再生モードパレットの設定内容を初期設定に戻します。

メモ
Language/言語 ／日時設定／ワールドタイムの都市設定／文字サイズ／ビデオ出力／著作権情報と「Cカスタム」メニューの内容はリセットされません。

注意
モードダイヤルがUSERになっていると、「リセット」は選択できません。

1 「詳細設定3」メニューの「リセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「リセット」を選び、OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

カスタムメニューのリセット

「Cカスタム」メニューの設定内容をすべて初期設定に戻します。

1 「Cカスタム4」メニューの「カスタムのリセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「カスタムのリセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「リセット」を選び、OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

各種レンズを組み合わせたときの機能

DA・DA L・FA Jレンズまたは絞り**A**（オート）位置があるレンズを絞り**A**位置で使用すると、カメラの撮影モードがすべて利用できます。
これ以外のレンズや絞りを**A**位置以外で使用する場合は、以下の制限があります。

○：絞りが**A**位置であれば、制限なく使用可能です。
△：機能制限はありますが、撮影可能です。
×：使用できません。

レンズグループ［マウント名称］／機能	DA DA L D FA	FA J FA [*6]	F [*6]	A	M P
	［KAF］ ［KAF2］ ［KAF3］	［KAF］ ［KAF2］	［KAF］	［KA］	［K］
オートフォーカス （レンズ単体使用） （AFアダプター 1.7×使用） [*1]	○ –	○ –	○ –	– △ [*9]	– △ [*9]
マニュアルフォーカス （フォーカスインジケーター表示の利用） [*2] （マット面の利用）	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
クイックシフトフォーカス	△ [*4]	×	×	×	×
11点／5点測距	○	○	○	△ [*9]	×
分割測光	○	○	○	○	×
P／**Sv**／**Tv**／**Av**／**TAv**モード	○	○	○	○	△ [*10]
Mモード	○	○	○	○	△
P-TTLオートストロボ [*3]	○	○	○	○	×
パワーズーム	–	○ [*7]	–	–	–
手ぶれ補正機能使用時のレンズ焦点距離の自動取得	○	○	○	×	×
レンズ補正機能	○ [*5]	× [*8]	×	×	×

*1　レンズの開放F値がF2.8、またはそれより明るいレンズで**A**位置でのみ使用可能
*2　レンズの開放F値がF5.6、またはそれより明るいレンズのみ使用可能
*3　内蔵ストロボまたはAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FC使用時
*4　対応レンズのみ可能
*5　DA 10-17mm FISH-EYE レンズは、ディストーション補正無効

*6 FA SOFT 28mm F2.8、FA SOFT 85mm F2.8、F SOFT 85mm F2.8では、「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」で「許可」を設定した上で手動絞りの範囲でのみ設定した絞り値で撮影されます
*7 KAF2マウントのFAレンズのみ使用可能
*8 FA 31mm F1.8 Limited、FA 43mm F1.9 Limited、FA 77mm F1.8 Limitedのみ可能
*9 測距点は[⊡]（中央）固定
*10 絞りが開放の **Av**（絞り優先自動露出）モードになります（絞りリングを操作しても実絞りに反映されません）

レンズ名称とマウント名称について

DAレンズのうちモーターを搭載したレンズと、FAズームレンズのうちパワーズームが可能なレンズのマウントはKAF2マウント（AFカプラーのないレンズはKAF3マウント）です。
FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）と、モーターを搭載していないDA・DA Lレンズ、D FA・FA J・FレンズのマウントはKAFマウントです。
詳しくはレンズの使用説明書を参照してください。

使用できないレンズ・アクセサリーについて

絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、**A**位置のないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けた場合、「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しません。その場合は機能制限がありますので、「絞りリングの使用を許可する」（p.299）を参照してください。

使用レンズと内蔵ストロボについて

絞り**A**（オート）位置のあるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、Aレンズ以前のレンズまたはソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
オートストロボとしては使用できませんので、ご注意ください。

絞りリングの使用を許可する

D FA・FA・F・Aレンズで絞りを**A**位置以外にしたり、**A**位置のないレンズでも、撮影ができるようにします。
「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」で「許可」を選択します。
この場合、次の制約があります。

27. 絞りリングの使用
1 禁止
2 許可
レンズの絞りリングの位置が
A以外のときも
撮影が可能です
MENU 取消　OK 決定

使用レンズ	露出モード	制約内容
D FA・FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**	絞りリングを操作しても、絞りは開放のままです。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。絞り値は[F--]と表示されます。
D FA・FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）	**Av**	設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。絞り値は[F--]と表示されます。
レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）	**Av**	
FA SOFT 28mm／ FA SOFT 85mm／ F SOFT 85mm （レンズ単体）	**Av**	手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。絞り値は[F--]と表示されます。光学プレビューで露出の確認ができます。
すべてのレンズ	**M**	設定した絞り値とシャッター速度で撮影されます。絞り値は[F--]と表示されます。光学プレビューで露出の確認ができます。

絞りを**A**位置以外にセットした場合、モードダイヤルが■／**P**／**Sv**／**Tv**／**TAv**になっていても、**Av**（絞り優先自動露出）モードで作動します。

CMOSセンサーのクリーニング

CMOSセンサーに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影の条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CMOSセンサーのクリーニングが必要です。

超音波振動でほこりを落とす（ダストリムーバル）

CMOSセンサー前面のフィルターを超音波振動させ、CMOSセンサーに付着したほこりを落とします。

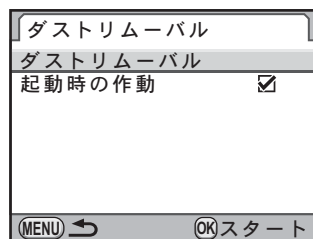
1 「🔧詳細設定4」メニューの「ダストリムーバル」を選び、十字キー（▶）を押す

「ダストリムーバル」画面が表示されます。

2 OKボタンを押す

ダストリムーバル機能が作動します。

電源を入れるたびにダストリムーバルを作動させたい場合は、「起動時の作動」を☑（オン）に設定します。

ダストリムーバルが終了すると、「🔧詳細設定4」メニューに戻ります。

CMOSセンサーに付着したほこりを検知する（ダストアラート）

ダストアラートはCMOSセンサーに付着したほこりを検知し、ほこりの位置を視覚的に表示する機能です。
検知した画像を保存して、センサークリーニング（p.303）を行うときに表示できます。
ダストアラートを行うために、次の条件を整えてください。

- DA・DA L・FA Jレンズ、または絞りリングに**A**（オート）位置のあるD FA・FA・Fレンズを取り付ける
- 絞りリングがあるレンズは**A**位置に合わせる
- モードダイヤルを🎥（動画）以外に合わせる
- フォーカスモードレバーを**AF.S**／**C**に合わせる

- ダストアラート機能は、極端な長時間露光になることがあります。処理が完了する前にレンズの方向を変えるとゴミの状況を正しく把握できなくなります。
- 被写体条件や温度などによっては、ゴミが正しく検出できない場合があります。
- ダストアラート画像は、保存してから30分以上経過すると、センサークリーニングを実行したときに表示されません。新たにダストアラート画像を保存してからセンサークリーニングを行ってください。
- 保存したダストアラート画像は、再生モードで表示できません。
- SDメモリーカードを入れていないと、ダストアラート画像は保存できません。

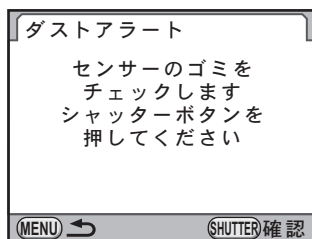
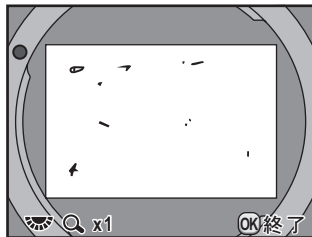
1 「🔧詳細設定4」メニューの「ダストアラート」を選び、十字キー（▶）を押す

「ダストアラート」画面が表示されます。

2 白い壁などなるべく均一で明るいものをファインダーいっぱいに入れて、シャッターボタンを全押しする

ダストアラート
センサーのゴミを
チェックします
シャッターボタンを
押してください
MENU
SHUTTER 確認

画像処理の後、ダストアラート画像が表示されます。

「正しく処理できませんでした」と表示されたときは、**OK** ボタンを押してもう一度撮影してください。

3 センサーのゴミを確認する

ボタン・ダイヤル等の操作

後電子ダイヤル（　）	ダストアラート画像を全画面表示します。

4 OK ボタンを押す

ダストアラート画像が保存され、「詳細設定4」メニューに戻ります。

メモ

ダストアラート画像は、カメラの設定にかかわらず、一時的に固有の撮影条件で撮影されます。

ブロアーでほこりを落とす

ブロアーでクリーニングするためにミラーアップし、シャッターを開けます。
CMOSセンサーは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を承っております。
クリーニングには、別売のイメージセンサークリーニングキットO-ICK1もご使用いただけます。

注意
- スプレー式のブロアーは使用しないでください。
- バルブ撮影状態でセンサークリーニングを行わないでください。不用意にシャッターが閉じて、カメラ内部を破損するおそれがあります。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CMOSセンサーに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- バッテリー容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングを行えません」と画像モニターに表示されます。
- クリーニングをするときは、ACアダプターキット（別売）のご使用をお勧めします。ACアダプターキットを使用しない場合は、容量が十分に残っているバッテリーを使用してください。クリーニングの途中でバッテリー容量が少なくなると警告音が鳴るので、速やかにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCMOSセンサー部、ミラー部を破損するおそれがあります。

- センサークリーニング中はセルフタイマーランプが点滅し、表示パネルに「**M.UP**」「**Cln**」と表示されます。
- センサークリーニング中に振動音が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。

1 カメラの電源を切り、レンズを取り外す

2 カメラの電源を入れる

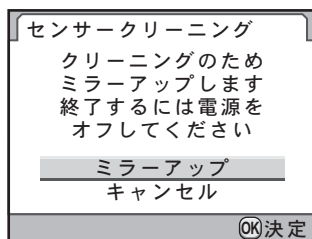
3 「🔧詳細設定4」メニューの「センサークリーニング」を選び、十字キー（▶）を押す

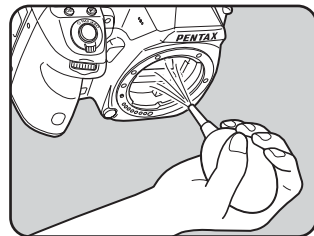
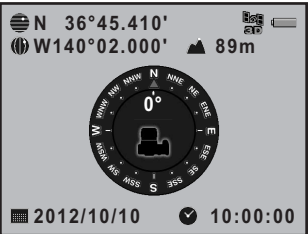
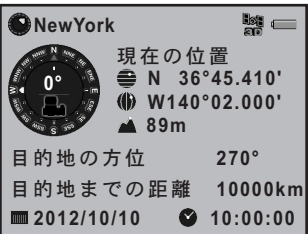
「センサークリーニング」画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「ミラーアップ」を選び、OKボタンを押す

ミラーがアップした状態に固定されます。

30分以内にダストアラートでほこりの検知を行っている場合は、画像モニターにダストアラート画像が表示されます。ほこりの位置を確認しながら、クリーニングができます。

センサークリーニング
クリーニングのため
ミラーアップします
終了するには電源を
オフしてください
ミラーアップ
キャンセル
OK決定

5 CMOSセンサーをクリーニングする

CMOSセンサーに付着している汚れやほこりは、ブラシが付いていないブロアーで落としてください。ブラシ付きのブロアーを使用すると、CMOSセンサーがブラシで傷つくことがあります。また、絶対にCMOSセンサーを布で拭かないでください。

6 カメラの電源を切る

ミラーが元に戻ります。

7 レンズまたはボディマウントカバーを取り付ける

GPSユニットを利用する

本機に別売のGPSユニット O-GPS1を装着すると、以下の機能が使用できます。

電子コンパス	現在地の緯度・経度・高度とカメラの向き（方位）、協定世界時を表示します。
直線ナビ	目的地に設定した場所の緯度・経度情報をもとに、現在地から見た方位と距離を表示します。目的地は、撮影した画像の位置情報を利用したり、パソコンで作成した位置情報ファイルから読み込んで設定できます。（p.306）
アストロトレーサー	天体を追尾して撮影します。カメラに内蔵されている手ぶれ補正ユニットを天体の動きに合わせて動かすことによって、長時間露光でも天体が点状に撮影できます。（p.308）
自動時刻修正	GPS衛星から取得した情報を利用して、カメラの日時設定を自動的に補正します。

- GPSユニットの取り付け方や機能の詳細は、GPSユニットの使用説明書を参照してください。
- **RAW/Fx**ボタンに「GPS」を割り当てると、**RAW/Fx**ボタンで電子コンパス／直線ナビ／アストロトレーサー画面のいずれかが表示できます。（p.249）

目的地までの距離と方角を表示する（直線ナビ）

目的地を登録する

GPS情報が記録された画像の位置情報を、直線ナビの目的地に登録できます。38個まで登録できます。

1 **再生モードで十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）で（目的地登録）を選び、OKボタンを押す**

画像を選択する画面が表示され、画像に記録された位置情報が表示されます。

位置情報が記録された画像がない場合は、「処理できる画像がありません」と表示されます。

3 **十字キー（◀▶）で目的地に登録する位置情報の画像を選択し、OKボタンを押す**

「名称登録」画面が表示されます。

4 **名称を入力する**

入力のしかたは「著作権情報」と同様です。p.269の手順4を参照してください。

半角18文字まで入力できます。

名称を確定すると、登録する場所を選択する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で登録する場所を指定する

後電子ダイヤル（ ）で画面を切り替えます。

1 2 3 4 5 6 7 8 5/38
Madrid
London
Paris
Amsterdom
Milan
追加登録する位置を
選択してください
MENU取消 OK決定

6 OKボタンを押す

登録の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「登録」を選び、OKボタンを押す

手順3の画面に戻ります。

他の画像も登録する場合は、手順3～7を繰り返します。

8 MENUボタンを2回押す

メモ

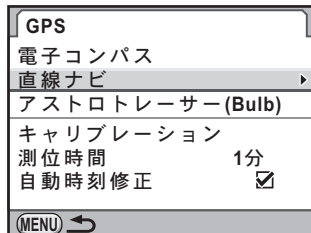
目的地情報は、SDメモリーカードに保存することができます。また、保存した目的地設定ファイルはパソコンで編集することもできます。詳細は、GPSユニットの使用説明書を参照してください。

ナビゲーションを開始する

1 「撮影4」メニューの「GPS」を選び、十字キー（▶）を押す

「GPS」画面が表示されます。

2 字キー（▲▼）で「直線ナビ」を選び、十字キー（▶）を押す

「直線ナビ」画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「目的地選択」を選び、十字キー（▶）を押す**

目的地を選択する画面が表示されます。

直線ナビ
ナビスタート
目的地選択
NewYork
目的地管理
MENU

4 **十字キー（▲▼）で目的地を選択する**

後電子ダイヤル（）で画面を切り替えます。

5 **OK ボタンを押す**

手順3の画面に戻ります。

6 **十字キー（▲▼）で「ナビスタート」を選び、OK ボタンを押す**

現在地の緯度・経度・高度と目的地の方位・距離、協定世界時が表示されます。
シャッターボタンを半押しすると、撮影モードになります。

天体を撮影する（アストロトレーサー）

1 **モードダイヤルをBに合わせる**

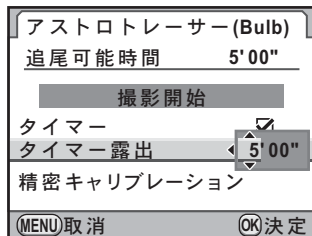
2 **「撮影4」メニューの「GPS」を選び、十字キー（▶）を押す**

「GPS」画面が表示されます。

3 **「アストロトレーサー (Bulb)」で十字キー（▶）を押す**

「アストロトレーサー (Bulb)」画面が表示されます。

4 撮影時間を指定する場合は「タイマー」を☑（オン）にし、「タイマー露出」で時間を指定する

0'01"～5'00"で設定できます。

5 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選択してOKボタンを押す

6 シャッターボタンを全押しする

撮影が開始されます。

7 もう一度シャッターボタンを全押しする

露光が終了します。

「タイマー」を設定した場合は、設定した時間が経過すると自動的に撮影が終了します。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードの容量いっぱいに画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.54、p.74） 次の操作をすると、保存できる可能性があります。 ・記録形式をJPEGに変更する（p.180） ・JPEG 記録サイズ／ JPEG 画質を変更する（p.178、p.179）
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	本機では再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにSDメモリーカードがセットされていません。（p.54）
このカードは利用できません	カメラがサポートしていないメモリーカードがセットされています。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、カメラでは使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、他の機器でフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。カメラでフォーマットしてからお使いください。（p.246）
カードがロックされています	ライトプロテクトスイッチがロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。（p.5）
電子的にロックされています	SDメモリーカードのセキュリティ機能によって保護されています。
この画像を拡大表示できません	拡大不可能な画像を拡大表示しようとしています。
この画像はプロテクトされています	消去しようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを外してください。（p.222）

エラーメッセージ	内容
電池容量がなくなりました	バッテリー残量がありません。十分に充電されたバッテリーと交換してください。(p.49)
電池容量がたりないため クリーニングを 行えません	センサークリーニング時にバッテリー容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーと交換するか、ACアダプターキット（別売）を使用してください。(p.52)
電池容量がたりないため ピクセルマッピングを 行えません	ピクセルマッピング時にバッテリー容量が足りない場合に表示されます。十分に充電されたバッテリーと交換するか、ACアダプターキット（別売）を使用してください。(p.52)
フォルダーが作成できません	最大のフォルダーNo.（999）／ファイルNo.（9999）が使用されているため、画像が保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。(p.246)
画像を保存 できませんでした	SDメモリーカードの異常で、撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく 保存できませんでした	SDメモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定が保存できません。不要な画像を消去して、再度DPOF設定をしてください。(p.74)
正しく処理できませんでした	マニュアルホワイトバランス測定（p.185）／ダストアラート検知（p.301）に失敗しました。もう一度やり直してください。
これ以上 選択できません	インデックス（p.215）／選択消去（p.220）／RAW一括展開（p.240）／DPOF（p.271）処理は、上限枚数以上は選択できません。
処理できる 画像がありません	デジタルフィルター（p.233）を適用できる画像、またはRAW展開（p.238）できる画像がありません。
この画像を処理できません	他のカメラで撮影した画像に対してマニュアルWB登録（p.187）／リサイズ（p.230）／トリミング（p.231）／デジタルフィルター（p.233）／RAW展開（p.238）を実行した場合、または最小サイズの画像に対してリサイズ／トリミングを実行した場合に表示されます。
画像の作成に 失敗しました	インデックスで画像の作成に失敗しました。(p.215)
高温のため ライブビューを 使用できません	カメラ内部の温度が上昇したため、ライブビューが使用できません。**OK**ボタンを押し、温度が下がってからライブビューを実行してください。

エラーメッセージ	内容
ライブビューを 開始できません	「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」が「禁止」に設定されていてレンズの絞りリングが**A**位置以外、または**A**位置を持たないレンズを装着し、ライブビューを実行しようとした場合に表示されます。
このモードでは 設定することができません	露出モードが■（グリーン）／■（動画）のときに、設定できない機能を設定しようとしています。

困ったときは

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。また、ミラーが上がったままになった場合には、バッテリーを入れ直してから電源を入れるとミラーが下がります。これらを行いカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。
修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの残量がない	容量のあるバッテリーに交換するか、ACアダプターキット（別売）を使用してください。（p.52）
シャッターがきれない	レンズの絞りが**A**位置以外になっている	絞りを**A**位置にするか、「**C**カスタム4」メニューの「27. 絞りリングの使用」で「許可」を選択してください。（p.89、p.299）
	内蔵ストロボが充電中	充電が完了するまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.54、p.74）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。あるいはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.116）
	AFエリアに被写体が入っていない	ファインダー中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、 AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	フォーカスモードが**MF**になっている	フォーカスモードレバーを**AF.S**／**C**にしてください。（p.108）
フォーカスロックができない	フォーカスモードが**AF.C**になっている	フォーカスモードを**AF.C**（**C**）に設定しているときは、合焦後もピントが固定（フォーカスロック）されず、シャッターボタン半押し中は被写体のピントを追い続けます。ピントを合わせたいものが決まっている場合は、フォーカスモードレバーを**AF.S**にし、フォーカスロックを用いて撮影してください。（p.108）
AE ロックが働かない	■／**B**／**X**モードになっている	露出モードを■（グリーン）／**B**（バルブ露出）／**X**（ストロボ同調速度）以外にしてください。
内蔵ストロボが発光しない	■モードになっている	露出モードが■（グリーン）の場合は、ストロボモードが⚡A（自動発光）／⚡A◎（自動発光+赤目軽減）のみの選択となります。これらのストロボモードになっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません。■以外の露出モードでは、ストロボが充電完了すると常に発光するストロボモードのみの選択となりますので、露出モードを変更してみてください。
パソコンとのUSB接続がうまくいかない	転送モードが「PTP」になっている	「🔧詳細設定2」メニューの「USB接続」を「MSC」に切り替えてください。（p.279）
手ぶれ補正が効かない	手ぶれ補正機能がオフになっている	「📷撮影4」メニューの「Shake Reduction」を((✋))（オン）に設定してください。（p.122）
	手ぶれ補正機能が設定されていない	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面でレンズ焦点距離を設定してください。（p.124）
	流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件で、手ぶれ補正機能の補正範囲を超えている	手ぶれ補正機能の補正範囲を超える場合は、手ぶれ補正機能をオフにして、三脚などを使用してください。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影するか、手ぶれ補正機能をオフにして、三脚などを使用してください。

主な仕様

型式

型式	P-TTLストロボ内蔵 TTL AE・AF一眼レフデジタルカメラ
レンズマウント	ペンタックスバヨネット KAF2マウント（AFカプラー・情報接点・電源接点付き）
使用レンズ	KAF3、KAF2（パワーズーム対応）、KAF、KAマウントレンズ

撮像部

撮像素子	種類：原色フィルター／CMOS、サイズ：23.7×15.7mm
有効画素数	約1628万画素
総画素数	約1693万画素
ダストリムーバル	超音波振動による撮像素子クリーニング機能「DR II」、ダストアラート機能付き
感度（標準出力感度）	AUTO 100～12800（1 EVステップ、1/2 EVステップまたは1/3 EVステップ）、カスタム設定により拡張ISO 80～51200使用可能
手ぶれ補正	撮像素子シフト方式

記録形式

画像ファイル形式	RAW（独自／DNG）、JPEG（Exif 2.30）準拠、DCF 2.0準拠
記録サイズ（画素数）	JPEG：16M（4928×3264ピクセル）、10M（3936×2624ピクセル）、6M（3072×2048ピクセル）、2M（1728×1152ピクセル） RAW：16M（4928×3264ピクセル）
画質	RAW（14bit）：PEF、DNG　JPEG：★★★★（プレミアム）、★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）、RAWとJPEGの同時記録可能
色空間	sRGB、AdobeRGB
記録媒体	SD、SDHC、SDXCメモリーカード
記録フォルダー	日付（100_1018、101_1019・・・）／ PENTX（100PENTX、101PENTX・・・）

ファインダー

方式	ペンタプリズムファインダー
視野率	約100％
倍率	約0.92×（50mm F1.4・∞）
アイレリーフ長	約21.7mm（見口枠より）、約24.5mm（レンズ中心より）
視度調節機能	約-2.5～$+1.5m^{-1}$
フォーカシングスクリーン	ナチュラルブライトマットIII、交換式

ライブビュー

方式	撮像素子によるTTL方式
フォーカス	コントラスト検出+顔検出、コントラスト検出、位相差検出
表示	視野率約100%、拡大表示（**AF**時: 2×、4×、6×／**MF**時:2×、4×、6×、8×、10×）、グリッド表示（16分割表示、黄金分割表示、スケール表示）、白とび黒つぶれ警告表示、ヒストグラム表示

画像モニター

形式	TFTカラーLCD、広視野角タイプ、ARコート、エアギャップレス強化ガラス
イメージサイズ	3.0型
ドット数	約92.1万ドット
調整	明るさ調整、色調整

プレビュー

方式	光学プレビュー、デジタルプレビュー

ホワイトバランス

オート	撮像素子および光源検知センサーによる併用方式
プリセット	太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（**D**：昼光色、**N**：昼白色、**W**：白色、**L**：電球色）、白熱灯、ストロボ、**CTE**、マニュアル、色温度
マニュアル	モニター確認による設定（3種類登録可）、色温度設定（3種類登録可）、撮影画像設定
微調整	A-B軸、G-M軸で±7ステップで調整可

オートフォーカス

方式	TTL位相差検出式
測距センサー	SAFOX X、11点測距（中央9点はクロスタイプ）
輝度範囲	EV -3～18（ISO 100、常温）
AFモード	シングルAF（**AF.S**）、コンティニュアスAF（**AF.C**） **AF.S**はフォーカス優先・レリーズ優先切替可、**AF.C**はフォーカス優先・コマ速優先切替可
AFエリア	5点オート、11点オート、セレクト（セレクトエリア拡大設定可）、中央
AF補助光	専用LEDによるAF補助光

露出制御

測光方式	TTL開放77分割測光、中央重点測光、スポット測光
露出範囲	EV 0～22（ISO 100・50mm F1.4）

露出モード	グリーン、プログラム、感度優先、シャッター優先、絞り優先、シャッター＆絞り優先、マニュアル、バルブ、ストロボ同調速度
露出補正	±5 EV（1/2 EVステップ、1/3 EVステップ選択可能）
AEロック	ボタン式（タイマー式：カスタム設定で設定した測光作動時間の2倍）、シャッターボタン半押しで継続

シャッター

方式	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	オート：1/8000秒～30秒、マニュアル：1/8000秒～30秒（1/3 EVステップまたは1/2 EVステップ）、バルブ

ドライブ

ドライブモード	1コマ、連続（Hi、Lo）、セルフタイマー（12秒後、2秒後）、リモコン（即、3秒後、連続）、オートブラケット（2コマ、3コマ、5コマ）、オートブラケット+セルフタイマー、オートブラケット+リモコン、ミラーアップ、ミラーアップ+リモコン
連続撮影	最高約7.0コマ/秒、JPEG（16M・★★★・連続Hi）：約30コマまで、RAW：約20コマまで 最高約1.6コマ/秒、JPEG（16M・★★★・連続Lo）：カード空き容量まで、RAW：約40コマまで

ストロボ

内蔵ストロボ	ポップアップ機能付きP-TTL内蔵ストロボ、ガイドナンバー約13（ISO 100・m）、28mmレンズの画角（35ミリ判換算）をカバー
発光方式	P-TTL、赤目軽減、スローシンクロ、後幕シンクロ （対応外付けストロボにおいて）ハイスピードシンクロ、ワイヤレスシンクロ可能
シンクロ同調速度	1/180秒
ストロボ光量補正	-2.0～+1.0 EV

撮影機能

カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン
ノイズリダクション	長秒時NR、高感度NR
ダイナミックレンジ設定	ハイライト補正、シャドー補正
レンズ収差補正	ディストーション補正、倍率色収差補正
クロスプロセス	シャッフル、プリセット1～3、お気に入り1～3
デジタルフィルター	トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、色抽出、ソフト、トゥインクル、フィッシュアイ、カスタム
HDR撮影	オート、標準、誇張1、誇張2、誇張3、自動位置調整可

多重露出	撮影回数2～9回、自動露出調整可
インターバル	撮影間隔指定（1秒～24時間）、最大撮影枚数999枚、開始トリガー（即時、時刻指定）
拡張ブラケット	ホワイトバランス、彩度、色相、キー、コントラスト、シャープネス
自動水平補正	SRオン時：最大1度まで補正可能、SRオフ時：最大2度まで補正可能
構図微調整	上下左右シフト調整範囲±1.5mm（回転時は±1mm)、回転調整範囲±1度
電子水準器	表示パネルおよびファインダー内表示（水平方向のみ)、画像モニター表示（水平・あおり方向あり）

動画

ファイル形式	Motion JPEG（AVI）
記録サイズ	FullHD（1920×1080・16：9・25fps)、HD（1280×720・16：9・30fps/25fps)、VGA VGA（640×480・4:3・30fps/25fps）
画質	★★★（スーパーファイン)、★★（ファイン)、★（エコノミー）
音声	内蔵モノラルマイク、外部ステレオマイク端子
記録時間	最長約25分、内部温度上昇時は自動終了
カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン
クロスプロセス	シャッフル、プリセット1～3、お気に入り1～3
デジタルフィルター	トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、色抽出、カラー

再生機能

再生方法	1画像、マルチ画面表示（4、9、16、36、81画面)、拡大（最大32倍まで、スクロール可、クイック拡大可）、回転表示、ヒストグラム（Yヒストグラム、RGBヒストグラム)、白とび黒つぶれ警告表示、縦位置自動回転、詳細情報表示、著作権情報表示（撮影者名、著作権者名)、GPS情報（緯度、経度、高度、方位、協定世界時)、フォルダー表示、カレンダー表示、スライドショウ
消去機能	1画像消去、全画像消去、選択消去、フォルダー消去、クイックビュー消去
デジタルフィルター	トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、デッサン、水彩画、パステル、ポスタリゼーション、ミニチュア、ベースメイク、モノトーン、カラー、色抽出、ソフト、トゥインクル、フィッシュアイ、スリム、HDR、カスタム
RAW展開	記録形式（JPEG、TIFF)、記録サイズ、画質、カスタムイメージ、ホワイトバランス、増減感、高感度NR、シャドー補正、ディストーション補正、倍率色収差補正、色空間
編集機能	リサイズ、トリミング（アスペクト比変更可、傾き修正可）、インデックス、動画編集（分割および不要部分消去)、動画フレーム画像JPEG保存、バッファ RAW保存

カスタマイズ機能

ユーザーモード	最大5件まで登録可
カスタム ファンクション	27項目
モードメモリ	13項目
電子ダイヤル	露出モード別電子ダイヤルカスタマイズ各種
カスタムボタン	**RAW/Fx**ボタン（ワンタッチRAW+、露出ブラケット、デジタルプレビュー、電子水準器、構図微調整、GPS） **AF**ボタン（AF作動、AFキャンセル）
文字サイズ	標準、大きい
ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
AF微調整	±10ステップ、一律調整、個別調整（最大20本まで登録可）
著作権情報	「撮影者名」「著作権者名」を画像ファイルに記録、同梱ソフトウェアで改ざんの有無を確認可能

電源

使用電池	充電式リチウムイオンバッテリー D-LI90P
ACアダプター	ACアダプターキット K-AC132J（別売）
電池寿命	撮影可能枚数…ストロボ50％発光：約740枚、 ストロボ発光なし：約980枚 再生時間…約440分 ※新品のリチウム電池使用、23°C、撮影枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

外部インターフェイス

端子	USB 2.0（ハイスピード対応）／AV出力端子、外部電源端子、外部レリーズ端子、Xシンクロソケット、HDMI出力端子、ステレオマイク入力端子
USB接続	MSC／PTP
ビデオ出力方式	NTSC／PAL

外形寸法・質量

外形寸法	約131mm（幅）× 97mm（高）× 72.5mm（厚）（突起部を除く）
質量	約680g（本体のみ）、約760g（電池、SDカード付き）

付属品

同梱物	USBケーブル I-USB7、AVケーブル I-AVC7、ストラップ O-ST132、MEファインダーキャップ、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI90P、充電器 D-BC90P、ACコード、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW132 <これ以降はカメラに装着状態で出荷>アイカップ FR、ホットシューカバー FK、ボディマウントカバー、シンクロソケット2Pキャップ
ソフトウェア	PENTAX Digital Camera Utility 4

● 撮影可能枚数と再生時間

バッテリーフル充電時

バッテリー（使用温度）		一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
D-LI90P	（23°C）	約980枚	約740枚	約610枚	約440分
	（ 0°C）	約810枚	約680枚	約560枚	約400分

撮影枚数（一般撮影、ストロボ使用率50％）はCIPA規格に準じた測定条件、その他については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

● 記録サイズ別撮影可能枚数の目安

2GBのSDメモリーカード使用時

記録サイズ（画素数）	JPEG画質				RAW
	★★★★	★★★	★★	★	
16M （4928×3264）	134枚	214枚	379枚	749枚	58枚
10M （3936×2624）	208枚	332枚	585枚	1138枚	−
6M （3072×2048）	339枚	543枚	945枚	1807枚	−
2M （1728×1152）	1041枚	1617枚	2793枚	5121枚	−

撮影可能枚数は、被写体・撮影状況・撮影モード・使用するSDメモリーカード等により異なります。

索引

L

M

N

O

P

R

S

T

U

W

X

あ行

か行

さ行

た行

11 付録

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理いたしますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ほこり・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

Pentax Ricoh Family Club

フォトスクール・写真クラブのご案内

http://pentaxplus.jp/family/

ペンタックスリコーファミリークラブは、弊社製品をご愛用いただいている方に向けての、弊社が主催する写真クラブです。クラブ誌や会員公募による写真年鑑の発行のほか、各種フォトスクールを開催しています。たくさんの会員特典や楽しい企画であなたのフォトライフをバックアップします。詳しくは、ホームページをご覧いただくか、ペンタックスリコーファミリークラブ事務局までお問い合わせください。

ペンタックスリコーファミリークラブ事務局

TEL 03-3580-2060　FAX 03-3580-2065

〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11-1 三宅坂ビル

営業時間　9：00～17：00（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

ペンタックスホームページアドレス　http://www.pentax.jp/

本製品に関するお問い合わせ　http://www.pentax.jp/japan/support/

PENTAX お客様相談センター　　**ナビダイヤル　0570-001313**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、下記の電話番号をご利用ください。

TEL 03-4330-0008（代）

営業時間　9：00～18：00（平日）　10：00～17：00（土・日・祝日）
（年末年始、ビル点検日を除く）

修理に関するお問い合わせ　http://www.pentax.jp/japan/support/repair.html

PENTAX 東京サービスセンター　**TEL 03-3960-5140（代）　FAX 03-3960-5147**
〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11 ヘリオスⅡビル3階
営業時間　9：00～17：30（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

PENTAX 大阪サービスセンター　**TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612**
〒542-0081　大阪府大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間　9：00～17：00（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

ショールーム・ギャラリー・修理受付

ペンタックスフォーラム　**TEL 03-3348-2941（代）　FAX 03-3345-8076**
〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）
営業時間　10：30～18：30（毎週火曜日、年末年始、ビル点検日を除く）

ペンタックスリコーイメージング株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

58287
R01DTI12
Printed in Philippines